

添 付 資 料

目 次

添付資料－１ 大飯発電所 第３号機 第１９保全サイクル 保全計画

添付資料－２ 大飯発電所 ３号機 設計の経年化評価

添付資料－１ 大飯発電所 第３号機 第１９保全サイクル 保全計画

「1.3 構築物、系統及び機器」に示された発電用原子炉施設に係る点検の実施状況等に関して、「大飯発電所 第3号機 第19保全サイクル 保全計画」をもとに、点検及び試験の項目、点検頻度等を示す。

大 飯 発 電 所
第 3 号 機
第 1 9 保 全 サ イ ク ル
保 全 計 画

添付書類三 施設管理の実施に関する計画

目 次

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。）及び期間・・・・・・・・・・ 1
2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 発電用原子炉施設の点検、検査等の方法、実施頻度及び時期・・・・・・・・・・・・・・ 3
4. 発電用原子炉施設の工事及び点検等を実施する際に行う保安の確保のための措置・・・・ 3

別紙：点検計画（第19保全サイクル）

別図：定期事業者検査時の安全管理の計画

別表：長期施設管理方針実施状況総括表

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。）及び期間

本保全計画の適用期間は、第19回定期事業者検査開始日から第20回定期事業者検査開始日の前日までの期間（第19回定期事業者検査終了日以降13ヶ月までの間(※)）とし、以降、この期間を第19保全サイクルという。

ただし、この期間内に第20回定期事業者検査を開始した場合には、その前日までの期間とする。

※：第19回定期事業者検査終了日以降13ヶ月までの間を『実運転期間』という。

2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期

（1）工事の計画

a. 特定重大事故等対処施設設置工事：工事計画認可申請

○ 工事概要

原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムに対してその重大事故等に対処するために必要な機能を有した特定重大事故等対処施設を設置する。

○ 予定時期

2013年6月～2022年12月

b. 火災感知器設置工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

新火災防護基準バックフィット対応として、火災区域に対し、異なる種類の火災感知器を消防法に準じた箇所に設置する。

○ 予定時期

2019年2月～2024年2月

c. 所内常設直流電源設備（3系統目）設置工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

重大事故等の対応に必要な設備に電気の供給を行うことが可能であるもう1系統の特に高い信頼性を有する所内常用直流電源設備を設置する。

○ 予定時期

2021年12月～2022年12月

d. 化学体積制御設備配管改造工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

酸素型応力腐食割れに対する自主的な安全対策として、耐腐食性に優れている材料の配管へ取替えるとともに取替配管の溶接部信頼性向上の観点から、ソケット溶接を突合せ溶接へ変更する。

○予定時期

第19回定期事業者検査期間中

e. 1次系海水管伸縮継手修繕工事

○工事概要

海水ポンプ廻りにおける配管・弁点検の作業性向上のため伸縮継手への取替えを実施する。

○予定時期

第19回定期事業者検査期間中

f. A、B－1次系海水管修繕工事

○工事概要

1次系海水管の内面ライニングを予防保全の観点にて修繕するため、内面ライニング済みの新管に取替えを実施する。

○予定時期

第19回定期事業者検査期間中

g. 2次系配管取替工事

○工事概要

減肉対策として、2次系配管を耐食性に優れた材料へ取替えを実施する。

○予定時期

第19回定期事業者検査期間中

h. 廃棄物処理設備計測制御装置定期点検工事

○工事概要

原子炉周辺建屋サンプタンク水位伝送器の計器特性が経年劣化傾向にあるため、水位伝送器の取替えを実施する。

○予定時期

第19回定期事業者検査期間中

3. 発電用原子炉施設の点検、検査等の方法、実施頻度及び時期

(1) 点検計画

定期事業者検査中及びプラント運転中の点検について、あらかじめ保全方式を設定し、点検の方法並びにそれらの実施頻度及び時期を定めた点検計画を「大飯発電所 保守業務所則（平成15大原保所則 第1号）」に基づき策定した「保全指針」に従い策定した。また、土木建築に関する設備の点検計画については、「大飯発電所 土木建築業務所則（平成19大原土所則 第1号）」に従い策定した。

点検計画のうち、定期事業者検査対象機器等に係る主要な点検の計画に基づく点検計画を別紙に記載する。

附帯設備も含めた各機器の詳細な点検計画は、「保全指針」等に規定している。

点検計画を策定又は変更するにあたっては、保全活動から得られた情報等から、保全の有効性を評価し、保全が有効に機能していることを確認するとともに、継続的な改善につなげている。なお、保全の有効性評価は、以下の情報を適切に組み合わせて行った。

- ・ 保全活動管理指標の監視結果
- ・ 保全データの推移及び経年劣化の長期的な傾向監視の実績
- ・ トラブルなど運転経験
- ・ 安全性向上評価
- ・ 他プラントのトラブル及び経年劣化傾向に係るデータ
- ・ リスク情報、科学的知見

4. 発電用原子炉施設の工事及び点検等を実施する際に行う保安の確保のための措置

定期事業者検査に伴う停止時における保安規定の運転上の制限を遵守するための計画は、別図のとおりである。また、定期事業者検査以外の安全上重要な保守点検活動並びに留意事項等については、特になし。

別紙

点 検 計 画
(第 1 9 保全サイクル)

点検計画の記載について

1. 点検計画については以下の方針に従い記載している。

(1) 記載している設備について

点検計画には発電所設備の主要機器として、以下設備を対象に記載している。

①核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の14に規定する技術基準が適用される設備

a. 定期事業者検査の対象となる設備

b. 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則別表第2において、設計及び工事の計画に記載が要求されている設備

なお、設計及び工事の計画において仕様が記載されていない設備については、日常の管理の中で健全性が確認でき、かつ、取替が可能な下記のものについて除外する。

(a) 防保護具、現地操作時に用いる工具類

(b) 一般消耗品（電池類他）

(c) 一般産業品（可搬型照明、電話・ファクシミリ他）

②保全の重要度が高い設備

保全重要度が高い設備とは、以下の設備を指す。

a. 安全機能の重要度が高い設備

b. 供給信頼性重要度が高い設備

c. リスク重要度が高い設備

なお、アクシデントマネジメント（AM）対応設備であることにより、保全の重要度を「高」とした設備については、点検計画において「AM（対応するアクシデントマネジメント名）機器」として明示している。

(2) 記載している点検について

点検計画には上記設備の主要な点検として、以下を記載している。

- ・ 定期事業者検査に係る点検
- ・ 定期事業者検査の都度性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 定期事業者検査に係る点検の実施頻度より短い実施頻度で行う性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 記載対象設備において、上記に該当する点検が無い設備については主要な点検

上記以外の点検（主要機器の上記条件以外の点検や附帯設備^{*1}の点検等）については、「大飯発電所 保守業務所則（平成15大原保所則 第1号）」に基づき策定した

「保全指針」及び「大飯発電所 土木建築業務所則（平成 19 大原土所則 第 1 号）」に定めている。

※ 1：附帯設備の例

（潤滑油、潤滑水、シール水、冷却設備、電源、制御回路、オリフィス）
（レジューサ、フローグラス 等）

（３）保全の重要度について

「グレード分け通達（平成 18 原品証通達第 2 号）」等の考え方に従い、「高」又は「低」のいずれかで表記している。

なお、重要度「高」及び定期事業者検査対象の設備については、保全方式として予防保全（時間基準保全、状態基準保全）を選定し、事後保全は選定していない。

（４）保全方式について

保全方式について以下のとおり記載している。

- ・ 時間基準保全を採用しているもの：点検頻度
- ・ 状態基準保全を採用しているもの：C B M
- ・ 事後保全を採用しているもの：B M

（５）点検頻度について

次の整理により「F」：保全サイクル、「M」：月、「Y」：年で表記している。

- ・ 性能維持のための措置を伴う点検及びそれに伴い実施する点検については、「M」又は「Y」により表記している。なお、記載した頻度のうち「M」は、運転期間（総合負荷性能検査～解列）に対応した値を示している。
また、複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、その点検頻度の最短及び最長のものを記載している。
- ・ 供用期間中検査のように年度管理するものについては、「Y」により表記している。
- ・ 機器の分解点検時期に合わせて実施する機能・性能試験については、「B」により表記している。また、その他、性能維持のための措置を伴わない点検のうち、分解・開放点検等の性能維持のための措置を伴う点検と合わせて実施するものについても「B」※²と表記している。なお、回転機器（ポンプ、ファン等）等、本体と駆動部で構成される機器は、一方が分解点検を実施した場合においても、その後の機能・性能試験で本体と駆動部の機能・性能を確認する。
- ・ これ以外で性能維持のための措置を伴わない点検については、「F」※²により

表記している。また、性能維持のための措置を伴わない点検であっても、当該点検が、プラント運転期間中の発電用原子炉施設の保安の確保に支障がなく、年度管理するものについては、「Y」により表記している。

- ・ このほか肉厚管理指針に従い管理する肉厚測定は、検査箇所ごとの管理となるため、本表では“肉厚管理指針による”と表記している。
- ・ 機能・性能試験の結果等を踏まえて適宜実施する点検については、「X」により表記している。

※2：「B」、「F」により表記しているものは、基本的に性能維持のための措置を予定していない点検であり、劣化進展がごく軽微なため、分解・開放点検や定期事業者検査停止時期に合わせた実施管理が適しているものを対象にしている。

(6) 点検時期について

- ・ 時間基準保全の点検については、“定期事業者検査起動後”、“プラント運転中”の表現により、備考欄に実施時期を記載している。なお、これらの記載のないものについては、定期事業者検査停止中に実施することとしている。
- ・ プラント停止（定期事業者検査）に先立ち、プラント運転中に実施する定期的な点検を「先行実施」とし、その対象設備は備考欄に明記し、区別する。

(7) 状態監視方法の記載について

- ・ 保全方式として状態基準保全を用いる機器については、経年劣化事象等による劣化の有無・劣化の傾向を監視する方法（状態監視技術、定例試験、巡視点検等）及びその頻度を備考欄に記載している。
- ・ 保全方式として時間基準保全を採用している機器については、保全をより充実する観点で採用している状態監視技術について方法・頻度を備考欄に記載している。
- ・ 状態監視技術のうち振動診断の頻度については、年度におけるデータ採取回数を「M」表示となるよう平均し記載している。

なお、第19保全サイクル中に点検を計画するものについては、「点検計画」に「○」※3を記載している。

また、「点検計画」には、当該点検の前回実績（実施時期）※4も記載している。

※3：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、本保全サイクルの中に一つでも点検の計画があれば「○」としている。

※4：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目にあつては、最新実績を記載している。

点検計画 目次

機器又は系統名	ページ
原子炉本体	1/52
[炉心]	
[原子炉容器]	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	1/52
[燃料取扱設備]	
[使用済燃料貯蔵設備]	
[使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備]	
[燃料取替用水設備]	
原子炉冷却系統施設	4/52
[一次冷却材の循環設備]	
[主蒸気・主給水設備]	
[余熱除去設備]	
[非常用炉心冷却設備]	
[化学体積制御設備]	
[原子炉補機冷却設備]	
[原子炉補機冷却海水設備]	
[原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置]	
[蒸気タービンの附属設備]	
計測制御系統施設	20/52
[制御材]	
[制御棒駆動装置]	
[ほう酸注入機能を有する設備]	
[工学的安全施設等の作動信号]	
[制御用空気設備]	
[その他設備]	
放射性廃棄物の廃棄施設	23/52
[気体、液体又は固体廃棄物処理設備]	
[気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備]	
[原子炉格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの液体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置]	
放射線管理施設	27/52
[放射線管理用計測装置]	
[換気設備]	
[生体遮蔽装置]	
[その他設備]	

機器又は系統名	ページ
原子炉格納施設	35/52
[原子炉格納容器]	
[圧力低減設備その他の安全設備]	
原子力設備	41/52
[その他設備]	
原子力設備・タービン設備	41/52
[その他設備]	
蒸気タービン	42/52
[車室、円板、隔板、噴口、翼、車軸]	
[調速装置及び非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁]	
[復水器]	
[蒸気タービンに附属する熱交換器]	
[蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備]	
[蒸気タービンに附属する管等]	
[その他設備]	
その他発電用原子炉の附属施設	47/52
[非常用発電装置]	
[その他の電源装置]	
[常用電源設備]	
[補助ボイラー]	
[火災防護設備]	
[浸水防護施設]	
[補機駆動用燃料設備]	
[非常用取水設備]	
土木建築設備	52/52
プラント総合	52/52
全般機器	52/52

別表－１：クラス１機器供用期間中検査１０年計画

別表－２：クラス２機器供用期間中検査１０年計画

別表－３：クラス３機器供用期間中検査１０年計画

別表－４：クラス１機器N i 基合金使用部位特別検査１０年計画

別表－５：クラス２管（原子炉格納容器内）特別検査１０年計画

別表－６：原子炉格納容器供用期間中検査１０年計画

別表－７：重大事故等クラス２機器供用期間中検査１０年計画

別表－８：重大事故等クラス３機器供用期間中検査１０年計画

別表－９：クラス１配管特別検査４年計画

1. 点検計画

機器又は系統名	実施数（機器名）		点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する設備診断技術 ※：炉心設計による
原子炉本体 〔炉心〕	照射済燃料集合体	※ 1式	1. 外観点検	高	1F	○	18回	燃料集合体外観検査	※：炉心設計による
	照射済燃料集合体（取出燃料）	※ 1式	1. 外観点検	高	1F	○	18回	燃料集合体炉内配置検査	※：炉心設計による
	燃料集合体	193体	1. 外観点検 (炉内配置)	高	1F	○	18回	燃料集合体炉内配置検査	※：炉心設計による
	内捕物 ・制御棒クラスタ ・バーナブルボイズン ・シンブルブラグアセンブリ ・2次中性子源	※ 1式	1. 外観点検 (炉内配置)	高	1F	○	18回	燃料集合体炉内配置検査	※：炉心設計による
	原子炉本体のうち炉心		1. 機能・性能試験 2. 機能・性能試験	高	1F 1F	○ ○	18回 18回	原子炉停止余裕検査 炉物理検査	定期事業者検査起動後
原子炉本体 〔原子炉容器〕	原子炉容器		1. 開放点検	高	13M	○	18回		
	原子炉容器 (制御棒クラスタ案内管支持ピンおよび 水位計支持管用支持ピン)	116箇所	1. 外観点検	高	3F	○	16回	構造健全性検査	
	燃料移送装置	1台	1. 機能・性能試験 (リフティング・フレーム)	高	1F	○	18回	燃料取扱装置機能検査	
			2. 機能・性能試験		1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・インターロック試験等）	
			3. 簡易点検 (潤滑油給油)		26M	－	18回		
	燃料取替クレーン	1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	燃料取扱装置機能検査	
			2. 機能・性能試験		1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・インターロック試験等）	
			3. 簡易点検 (潤滑油給油)		26M	－	18回		
	使用済燃料ピットクレーン	1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	燃料取扱装置機能検査	
			2. 機能・性能試験		1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・インターロック試験等）	先行実施
			3. 簡易点検 (潤滑油給油)		26M	－	18回		
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕	新燃料エレベータ	1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	燃料取扱設備検査	先行実施
			2. 機能・性能試験		1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・インターロック試験等）	
			3. 簡易点検 (潤滑油給油)		26M	－	18回		
	補助建屋クレーン	1台	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	燃料取扱設備検査	先行実施
			2. 機能・性能試験		1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・インターロック試験等）	
			3. 簡易点検 (点検手入れ)		1Y	○	18回		年次点検 プラント運転中又は定期事業者検査停止中
	新燃料取扱工具	1台	1. 外観点検	低	1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・インターロック試験等）	先行実施

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕	使用済燃料取扱工具	1. 外観点検	低	1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・イ ンターロック試験等）	先行実施
	燃料仮置ラック	1. 外観点検	高	1F	○	18回	燃料取扱設備検査（動作・イ ンターロック試験等）	
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕 その他機器	1. 分解点検他	高	13M～130M	○	18回		
	使用済燃料ビット温度	1. 特性試験	高	13M	○	18回	計測制御系監視機能検査	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵設備〕	使用済燃料ビット水位	1. 特性試験	高	13M	○	18回	計測制御系監視機能検査	
	可搬式使用済燃料ビット水位	1. 特性試験	高	13M	○	18回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置
	使用済燃料ビット温度（AM用）	1. 特性試験	高	13M	○	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
	使用済燃料ビット水位（AM用）	1. 特性試験	高	13M	○	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却净化設備〕	使用済燃料ビット監視カメラ	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	可搬型重大事故等対処設備機 能検査	16回施設定検時に設置
	使用済燃料ビット監視カメラ冷却装置	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	使用済燃料貯蔵槽冷却净化系 機能検査	
	使用済燃料ビット浄化冷却設備	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機等含む)	高	1F	○	18回		
	A 使用済燃料ビットポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	91M	○	15回		(振動診断：6 M) 先行実施
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	16回		
		3. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	17回		
	B 使用済燃料ビットポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	91M	—	15回		(振動診断：6 M) 先行実施
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回		
		3. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
	送水車	1. 機能・性能試験	高	15M	○	18回	可搬型重大事故等対処設備機 能検査	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
		2. 外観点検		1Y	○	18回		
	大容量ポンプ（放水砲用）	1. 機能・性能試験	高	15M	○	18回	可搬型重大事故等対処設備機 能検査	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置 X*：10V詳細点検の結果によ り適宜実施
		2. 分解点検		X*	—	—		
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵設備〕	A 使用済燃料ビットフィルタ B 使用済燃料ビットフィルタ A 使用済燃料ビット冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	17回		先行実施
		1. 開放点検	高	130M	—	16回		先行実施
		1. 開放点検	高	195M	—	9回	1 次系熱交換器検査	先行実施
		2. 非破壊試験		195M	—	9回	1 次系熱交換器検査	
		3. 漏えい試験		195M	—	9回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備（診断技術）	
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕	B 使用済燃料ピット冷却器	1. 開放点検	高	195M	－	16回	1次系熱交換器検査	先行実施	
		2. 非破壊試験		195M	－	16回	1次系熱交換器検査		
		3. 漏えい試験		195M	－	16回			
	C 使用済燃料ピット冷却器	1. 開放点検	高	130M	－	17回		H13年度に設置	
		2. 漏えい試験		130M	－	17回		先行実施	
		1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回			
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 その他の弁	2. 分解点検		104M～130M	○	18回	1次系弁検査	一部先行実施	
		3. 簡易点検 （グラランドパッキン取替）		130M	○	18回			
		1. 分解点検他	高・低	78M	－	16回			
	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕	A 燃料取替用水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B＊	－	16回	1次系ポンプ機能検査	B＊：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （振動診断：6 M）
2. 分解点検 （ポンプ）				130M	－	12回			
3. 分解点検 （電動機）				52M	－	16回			
4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）				26M	－	18回			
B 燃料取替用水ポンプ・電動機		1. 機能・性能試験	高	B＊	－	18回	1次系ポンプ機能検査	B＊：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （振動診断：6 M）	
		2. 分解点検 （ポンプ）		130M	－	18回			
		3. 分解点検 （電動機）		52M	－	16回			
		4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）		26M	－	18回			
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕 その他の弁		1. 機能・性能試験	高・低	B	－	18回			
		2. 分解点検		130M	－	18回	1次系弁検査	一部先行実施	
	3. 簡易点検 （グラランドパッキン取替）		130M	－	18回				
	1. 分解点検他	高	130M	－	16回				

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
原子炉冷却系統施設 【一次冷却材の循環設備】	A 蒸気発生器	伝熱管 3,382本 1次側	高	26M	—	18回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
		2次側	高	13M	○	18回	1次系熱交換器検査	
			高	13M	○	18回		
		2. 簡易点検 （スラッジランニング）		13M	○	18回		
		3. スケール回収 （稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験）		26M	○	—		
	B 蒸気発生器	マンホール	高	13M	○	18回		
		1. 簡易点検 （ガスケット取替他）		26M	○	17回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
		1. 非破壊試験	高	13M	○	18回	1次系熱交換器検査	
		2. 簡易点検 （スラッジランニング）	高	13M	○	18回		
		3. スケール回収 （稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験）		26M	○	—		
	C 蒸気発生器	マンホール	高	13M	○	18回		
		1. 簡易点検 （ガスケット取替他）		26M	—	18回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
		1. 非破壊試験	高	13M	○	18回	1次系熱交換器検査	
		2. 簡易点検 （スラッジランニング）	高	13M	○	18回		
		3. スケール回収 （稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験）		26M	○	—		
	D 蒸気発生器	マンホール	高	13M	○	18回		
		1. 簡易点検 （ガスケット取替他）		26M	○	17回	蒸気発生器伝熱管体積検査	
		1. 非破壊試験	高	13M	○	18回	1次系熱交換器検査	
		2. 簡易点検 （スラッジランニング）	高	13M	○	18回		
		3. スケール回収 （稠密層厚さ計測、ス ケール摩耗試験）		26M	○	—		
	加圧器	マンホール	高	13M	○	18回		
		1. 簡易点検 （ガスケット取替他）		26M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備・診断技術
原子炉冷却系統施設 【一次冷却材の循環設備】	加圧器安全弁	3個 3V-RC-055 3V-RC-056 3V-RC-057	高	1F	○	18回	加圧器安全弁機能検査	
		2. 漏えい試験		B	○	18回	加圧器安全弁漏えい検査	
		3. 分解点検		13M	○	18回	加圧器安全弁分解検査	
	加圧器逃がし弁	1. 機能・性能試験 (駆動部含む)	高	1F	○	18回	加圧器逃がし弁機能検査	
		2. 漏えい試験		1F	○	18回	加圧器逃がし弁漏えい検査	
		3. 分解点検		26M	—	18回	加圧器逃がし弁分解検査	
	加圧器逃がし弁駆動部	1. 分解点検	高	26M	—	18回		
		2. 簡易点検 (特性点検)		13M	○	18回		
		1. 機能・性能試験 (駆動部含む)		1F	○	18回	加圧器逃がし弁機能検査	
	加圧器逃がし弁	2. 漏えい試験	高	1F	○	18回	加圧器逃がし弁漏えい検査	
		3. 分解点検		26M	○	17回	加圧器逃がし弁分解検査	
		1. 分解点検		26M	○	17回		
	加圧器逃がし弁駆動部	2. 簡易点検 (特性点検)	高	13M	○	18回		
		1. 機能・性能試験 (駆動部含む)		1F	○	18回	加圧器逃がし弁元弁機能検査	
		1. 分解点検		130M	—	13回		
	加圧器逃がし弁前弁	1. 分解点検	高	130M	—	14回		
		2. 簡易点検 (特性点検)		78M	—	18回		
		1. 機能・性能試験		13M～78M	○	18回		
	加圧器逃がし弁前弁駆動部	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後
		2. 分解点検 (ポンプ)		130M	—	17回		
		3. 分解点検 (メカニカルシール ポンプ)		13M	○	18回	1次冷却材ポンプメカニカル シール分解検査	一部先行実施
A 1 次冷却材ポンプ・電動機	加圧器逃がし弁前弁駆動部	4. 分解点検 (フライホイール 電動機)	高	104M	—	15回		
		5. 分解点検 (軸受分解 電動機)		52M	○	15回		
		6. 分解点検 (全分解 電動機)		104M	—	15回		
		7. 簡易点検 (潤滑油入替 電動機)		26M	○	17回		
	A 1 次冷却材ポンプ・電動機		高					

機器又は系統名 原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備]	実施数（機器名） B 1 次冷却材ポンプ・電動機	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 () 内は適用する 設備診断技術
	B 1 次冷却材ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後
		2. 分解点検 (ポンプ)		130M	—	18回		
		3. 分解点検 (メカニカルシール) (ポンプ)		13M	○	18回	1 次冷却材ポンプメカニカル シール分解検査	
		4. 分解点検 (フライホイール) (電動機)		104M	—	16回		
		5. 分解点検 (軸受分解) (電動機)		52M	—	16回		
		6. 分解点検 (全分解) (電動機)		104M	—	16回		
		7. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		26M	—	18回		
	C 1 次冷却材ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後
		2. 分解点検 (ポンプ)		130M	○	9回		
		3. 分解点検 (メカニカルシール) (ポンプ)		13M	○	18回	1 次冷却材ポンプメカニカル シール分解検査	
		4. 分解点検 (フライホイール) (電動機)		104M	—	17回		
		5. 分解点検 (軸受分解) (電動機)		52M	—	17回		
		6. 分解点検 (全分解) (電動機)		104M	—	17回		
		7. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		26M	○	17回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
原子炉冷却系統施設 〔一次冷却材の循環設備〕	D 1 次冷却材ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次冷却材ポンプ機能検査	一部定期事業者検査起動後 設備診断技術
		2. 分解点検 （ポンプ）		130M	－	16回		
		3. 分解点検 （メカニカルシール） （ポンプ）		13M	○	18回	1 次冷却材ポンプメカニカル シール分解検査	
		4. 分解点検 （フライホイール） （電動機）		104M	－	18回		
		5. 分解点検 （軸受分解） （電動機）		52M	－	18回		
		6. 分解点検 （全分解） （電動機）		104M	－	18回		
		7. 簡易点検 （潤滑油入替） （電動機）		26M	－	18回		
	原子炉冷却系統施設〔一次冷却材の循環 設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回	1 次系弁検査	
		2. 分解点検		52M～130M	○	18回		有効性評価 No.2の反映
		3. 分解点検		78M～130M	○	18回	1 次系弁検査	一部BMあり
		4. 簡易点検 （グラインドパッキン取替）		39M～130M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設〔一次冷却材の循環 設備〕 その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回	1 次系弁検査	
		2. 分解点検		26M～65M	○	18回		
		3. 簡易点検 （特性点検）		13M～65M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設〔一次冷却材の循環 設備〕 その他機器	1. 分解点検他	高	13M～104M	○	18回		
		2. 分解点検他	低	13M～65M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する設備・診断技術
原子炉冷却系統施設 〔主蒸気・主給水設備〕	主蒸気安全弁	20個	高	1F	○	18回	主蒸気安全弁機能検査	
		B, D系 3V-MS-526B 3V-MS-527B 3V-MS-528B 3V-MS-529B 3V-MS-530B 3V-MS-526D 3V-MS-527D 3V-MS-528D 3V-MS-529D 3V-MS-530D	高	B 26M	○ ○	17回 17回	主蒸気安全弁漏えい検査	
		A, C系 3V-MS-526A 3V-MS-527A 3V-MS-528A 3V-MS-529A 3V-MS-530A 3V-MS-526C 3V-MS-527C 3V-MS-528C 3V-MS-529C 3V-MS-530C	高	B 26M	— —	18回 18回	主蒸気安全弁漏えい検査	
		4個	高	1F	○	18回	主蒸気逃がし弁機能検査 最終ヒートシンク熱輸送設備 動作検査	最終ヒートシンク熱輸送設備 動作検査は、16回施設設定 検から設定
		3PCV-3610 3PCV-3620 3PCV-3630 3PCV-3640	高	B	○	18回	主蒸気逃がし弁漏えい検査	
			高	13M 52M 13M	○ ○ ○	18回 18回 18回		
			高					
			高	1F	○	18回	主蒸気隔離弁機能検査	
		4個	高	39M 39M 39M 39M	— — ○ —	17回 18回 16回 18回	2次系弁検査 2次系弁検査 2次系弁検査 2次系弁検査	
		3V-MS-533A 3V-MS-533B 3V-MS-533C 3V-MS-533D	高	39M 13M	○ ○	18回 18回		
	主蒸気隔離弁駆動部	1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 簡易点検 (特性点検)	高	1F	○	18回	タービンバイパス弁機能検査	
		15個	高	1F 26M 52M 13M	○ ○ ○ ○	18回 18回 18回 18回		
	タービンバイパス弁	1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 簡易点検	高	1F	○	18回		
		1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 簡易点検	高	26M 52M 13M	○ ○ ○	18回 18回 18回		
	タービンバイパス弁駆動部	1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 簡易点検	高	1F	○	18回		
		1. 機能・性能試験 (駆動部含む) 2. 簡易点検	高	26M 52M 13M	○ ○ ○	18回 18回 18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術
原子炉冷却系統施設 〔主蒸気・主給水設備〕	原子炉冷却系統施設〔主蒸気・主給水設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	—	17回	2次系弁検査	
		2. 分解点検		26M～130M	○	18回	2次系弁検査	有効性評価 No.3の反映
		3. 簡易点検 (グラブドバックスン取替)		52M～130M	○	18回		
		1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回	2次系弁検査	
		2. 分解点検		26M～182M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設〔主蒸気・主給水設備〕 その他の弁駆動部	3. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	18回		
		1. 分解点検他	高	13M～104M	○	18回		
		2. 分解点検他	低	13M～104M	○	18回		
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	16回	1次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	○	13回	非常用炉心冷却系ポンプ分解 検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定	
原子炉冷却系統施設 〔余熱除去設備〕	A 余熱除去ポンプ・電動機 その他機器	3. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回		有効性評価 No.10の反映
		4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ))		26M	○	17回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機))		26M	—	18回		
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	15回	1次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	15回	非常用炉心冷却系ポンプ分解 検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定	
	B 余熱除去ポンプ・電動機	3. 分解点検 (電動機)		130M	—	14回		有効性評価 No.10の反映
		4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ))		26M	—	18回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機))		26M	○	17回		
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	15回	1次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	15回	非常用炉心冷却系ポンプ分解 検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備(診断技術)
原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備]	低圧注入系主要弁	3V-RH-050A	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		3V-RH-050B	高	130M	—	14回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		3V-RH-050C	高	130M	—	17回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
	A余熱除去冷却器	3V-RH-050D	高	130M	—	17回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査	その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定
		3V-RH-051A	高	130M	—	12回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
		3V-RH-051B	高	130M	—	13回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査	
	B余熱除去冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	18回	1次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	18回	1次系熱交換器検査	
		3. 漏えい試験	高	130M	○	11回	1次系熱交換器検査	
	原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の弁	1. 開放点検	高	130M	○	11回	1次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	○	11回	1次系熱交換器検査	
		3. 漏えい試験	高・低	130M	○	11回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	有効性評価 No.4の反映 一部BMあり
	原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	高	52M～130M	○	18回	1次系弁検査	
		2. 分解点検	低	130M	○	16回	1次系弁検査	
		3. 簡易点検	高・低	65M～130M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の機器	1. 機能・性能試験	高・低	B	—	18回	1次系弁検査	
		2. 分解点検		52M～182M	—	18回		
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設 [余熱除去設備] その他の機器	1. 分解点検他	高	13M～130M	○	18回		有効性評価 No.11の反映
		2. 分解点検他	低	65M～130M	—	17回		
	その他AM(代替再循環) 機器	1. 分解点検他	高	130M～182M	—	15回	1次系弁検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	高圧及び低圧注入系 (余熱除去設備 (低圧注入機能) を含む)	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、 弁駆動部等含む)	高	1F	○	18回	非常用炉心冷却系機能検査	
	その他原子炉注水系	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	その他原子炉注水系機能検査	[対象設備] ・A,B低圧注入系 ・A,B高圧注入系 ・B高圧注入系 (電動機海水冷却) ・A,B,C充てん系 ・B充てん系 (電動機自己冷却)
	A 高圧注入ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	12回	非常用炉心冷却系ポンプ分解 検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査	16回施設定検から設定 (振動診断：3M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定
		2. 分解点検 (電動機)		91M	○	15回		
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替)		130M	—	12回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
	B 高圧注入ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	13回	非常用炉心冷却系ポンプ分解 検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査	(振動診断：3M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定
		2. 分解点検 (電動機)		91M	○	16回		
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替)		130M	—	13回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	17回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備（診断技術）
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	恒設代替低圧注水系	1. 機能・性能試験 （ポンプ、電動機含む）	高	1F	○	18回	その他原子炉注水系機能検査 原子炉格納容器安全系機能検査	16回施設定検時に設置
	恒設代替低圧注水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験 漏えい試験	高	1F	○	18回		16回施設定検時に設置
		2. 分解点検 （ポンプ）		130M	—	—	その他原子炉注水ポンプ分 解検査 原子炉格納容器安全系ポンプ 分解検査	
		3. 分解点検 （電動機）		130M	—	—		
	可搬式代替低圧注水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	15M	○	18回	可搬型重大事故等対処設備機 能検査	プラント運転中又は施設定 検停止中 16回施設定検時に設置
		2. 分解点検 （ポンプ）		10F	—	—		
		3. 分解点検 （電動機）		130M	—	—		
	高圧注入系主要弁	1. 分解点検	高	260M	○	8回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	
		1. 分解点検		130M	—	15回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	
		1. 分解点検		130M	—	15回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	
		1. 分解点検		260M	○	14回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	
		1. 分解点検		260M	○	—	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査 その他原子炉注水系主要弁分 解検査	その他原子炉注水系主要弁 分解検査は、16回施設定検 から設定
		1. 分解点検		260M	○	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査 その他原子炉注水系主要弁分 解検査	その他原子炉注水系主要弁 分解検査は、16回施設定検 から設定
		1. 分解点検		260M	○	11回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査 その他原子炉注水系主要弁分 解検査	その他原子炉注水系主要弁 分解検査は、16回施設定検 から設定
		1. 分解点検		260M	○	—	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査 その他原子炉注水系主要弁分 解検査	その他原子炉注水系主要弁 分解検査は、16回施設定検 から設定
		1. 分解点検		260M	—	—	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	
		1. 分解点検		260M	—	—	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	
		1. 分解点検		260M	—	6回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	
		1. 分解点検		260M	—	6回	非常用炉心冷却系主要弁分解 検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 (○内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	蓄圧注入系	1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部を含む)	高	1F	○	18回	非常用炉心冷却系機能検査 その他原子炉注水系機能検査は、16回施設定検から設定	
	蓄圧注入系主要弁	1. 分解点検	高	130M	—	13回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	14回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	15回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	18回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	17回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	○	11回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	○	10回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	
		1. 分解点検	高	130M	—	16回	非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査は、16回施設定検から設定	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備]	蓄圧注入系主要弁駆動部	1. 分解点検	高	182M	—	16回		
		2. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	18回		
		1. 開放点検	高	130M	—	14回		
		1. 開放点検	高	130M	—	16回		
		1. 開放点検	高	130M	—	16回		
	A蓄圧タンク	1. 開放点検	高	130M	—	18回		
		1. 外観点検	高	1F	○	18回		
		1. 外観点検	高	1F	○	18回		
		1. 外観点検	高	1F	○	18回		
		2. 外観点検	高	10Y	—	18回	原子炉格納容器再循環サンプ スクリーン検査	15回施設定検時に設置
	原子炉冷却系統施設「非常用炉心冷却設 備」 その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	
		2. 分解点検	高	78M～260M	○	18回	1次系弁検査	有効性評価 No.7の反映
		3. 分解点検	低	78M～260M	○	16回	1次系逆止弁検査	一部BMあり
		4. 簡易点検 (グラランドパッキン取 替)	高・低	78M～130M	○	18回		
		1. 機能・性能試験	高・低	B	—	18回	1次系弁検査	
原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備]	原子炉冷却系統施設「非常用炉心冷却設 備」 その他の弁駆動部	2. 分解点検	高・低	65M～182M	—	18回		
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	18回		
		1. 分解点検他	高	13M～91M	○	18回		
		2. 分解点検他	低	13M～130M	○	18回		
		1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機等含 む)	高	1F	○	18回	充てんポンプ冷却材補給系機 能検査	
	A充てんポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	18回	その他原子炉注水系ポンプ分 解検査 化学体積制御系充てんポンプ 分解検査	(振動診断：6M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定 有効性評価 No.12の反映
		2. 分解点検 (電動機)	高	130M	—	16回		
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替)		26M	—	18回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)	高	13M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設「非常用炉心冷却設備」 その他の機器 充てんポンプ	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	18回	その他原子炉注水系ポンプ分 解検査 化学体積制御系充てんポンプ 分解検査	(振動診断：6M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定 有効性評価 No.12の反映
		2. 分解点検 (電動機)	高	130M	—	16回		
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替)		26M	—	18回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)	高	13M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 (○内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 〔化学体積制御設備〕	余剰抽出水冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	18回		
		2. 非破壊試験		130M	—	18回		
		3. 漏えい試験		130M	—	18回		
	原子炉冷却系統施設〔化学体積制御設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験 I式	高・低	B	○	18回	1次系弁検査 1次系安全弁検査	
		2. 分解点検	高	13M～260M	○	18回	1次系弁検査 1次系逆止弁検査	
		3. 分解点検	低	78M～260M	○	18回	1次系弁検査 1次系逆止弁検査	一部BMあり 有効性評価 No.1の反映
		4. 簡易点検 (グラウンドバッキング 替)	高・低	65M～130M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設〔化学体積制御設備〕 その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験 I式	高・低	B	○	18回	1次系弁検査	
		2. 分解点検		52M～182M	○	18回		
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設〔化学体積制御設備〕 その他機器	1. 分解点検他	高	13M～130M	○	18回		
		2. 分解点検他	低	13M～130M	○	18回		一部BMあり
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却設備〕	原子炉補機冷却系（冷却水系） その他機器	1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	18回	原子炉補機冷却系機能検査	
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	17回	1次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：6 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	15回		有効性評価 No.13の反映
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	17回		
	A原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		52M	—	18回		有効性評価 No.14の反映
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	16回	1次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：6 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回		有効性評価 No.13の反映
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
	B原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機)		52M	—	17回		有効性評価 No.14の反映
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	16回	1次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：6 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回		有効性評価 No.13の反映
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 (○内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却設備]	C原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	○	16回	1次系ポンプ機能検査	B*: ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断: 6M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	○	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	14回		有効性評価 No.13の反映
		4. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	17回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替)		52M	—	17回		有効性評価 No.14の反映
	D原子炉補機冷却水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	18回	1次系ポンプ機能検査	B*: ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断: 6M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回		有効性評価 No.13の反映
		4. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	—	18回		
		5. 簡易点検 (潤滑油入替)		52M	—	17回		有効性評価 No.14の反映
	大容量ポンプ	1. 機能・性能試験	高	15M	○	18回	可搬型重大事故等対処設備機 能検査	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置 X*: 10V詳細点検の結果によ り適宜実施
		2. 分解点検		X*	—	—		
	格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷 却水ポンプ	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	可搬型重大事故等対処設備機 能検査	16回施設定検時に設置
		1. 開放点検		130M	—	18回		
	原子炉補機冷却水サージタンク	1. 分解点検	高	130M	—	18回	1次系真空破壊弁検査	先行実施
		1. 開放点検		13M	○	18回		
		2. 非破壊試験		13M	○	18回	1次系熱交換器検査	
	A原子炉補機冷却水冷却器	3. 漏えい試験	高	13M	○	18回		
		1. 開放点検		13M	○	18回		
		2. 非破壊試験		26M	○	17回	1次系熱交換器検査	
	B原子炉補機冷却水冷却器	3. 漏えい試験	高	13M	○	18回		
		1. 開放点検		13M	○	18回		
		2. 非破壊試験		26M	○	17回	1次系熱交換器検査	
		3. 漏えい試験		13M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する設備診断技術
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却設備〕	原子炉冷却系統施設〔原子炉補機冷却設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回	1次系弁検査	有効性評価 No.5の反映
		2. 分解点検		130M	○	18回	1次系安全弁検査	
		3. 簡易点検 （グラインドバッキン取替）		130M～195M	○	18回	1次系弁検査	
	原子炉冷却系統施設〔原子炉補機冷却設備〕 その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	高・低	B	—	17回	1次系弁検査	
		2. 分解点検		65M～182M	○	17回		
		3. 簡易点検 （特性点検）		13M～182M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設〔原子炉補機冷却設備〕 その他の機器	1. 分解点検他	高	13M～130M	○	18回		
		2. 分解点検他	低	13M～65M	○	18回		
		1. 分解点検他	高	13M～130M	○	18回		
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕	原子炉補機冷却系（海水系）	1. 機能・性能試験 （弁、弁駆動部等含む）	高	1F	○	18回	原子炉補機冷却系機能検査	
		1. 機能・性能試験	高	B*	○	16回	2次系ポンプ機能検査	
		2. 分解点検 （ポンプ）		52M	○	16回	2次系ポンプ分解検査	
	A海水ポンプ・電動機	3. 分解点検 （電動機）		104M	—	16回		B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施
		4. 簡易点検 （グラインドバッキン取替） （ポンプ）		13M	○	18回		
		1. 機能・性能試験	高	B*	—	18回	2次系ポンプ機能検査	
	B海水ポンプ・電動機	2. 分解点検 （ポンプ）		52M	—	18回	2次系ポンプ分解検査	B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施
		3. 分解点検 （電動機）		104M	—	16回		
		4. 簡易点検 （グラインドバッキン取替） （ポンプ）		13M	○	18回		
	C海水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	17回	2次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		52M	—	17回	2次系ポンプ分解検査	
		3. 分解点検 （電動機）		104M	—	17回		
		4. 簡易点検 （グラインドバッキン取替） （ポンプ）		13M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕	原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回		
		2. 分解点検		13M～65M	○	18回	2次系弁検査	
		1. 機能・性能試験		B	—	17回	2次系弁検査	
		2. 分解点検		78M	—	17回		
	原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕 その他の弁駆動部	3. 簡易点検 (特性点検)	高	13M	○	18回		有効性評価 No.24の反映
		1. 分解点検他		13M～104M	○	18回		
		2. 分解点検他		13M～52M	○	18回		一部BMあり
		1. 特性試験		13M	○	18回	格納容器サンプ水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査	
	原子炉冷却系統施設 〔原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置〕	2. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	格納容器サンプ水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査	
		1. 機能・性能試験		1F	○	18回	格納容器サンプ水位上昇率測定装置及び格納容器内凝縮液量測定装置漏えい検出器機能検査	16回施設設検時に改造
原子炉冷却系統施設 〔蒸気タービンの附属設備〕	補助給水系	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、原動機、弁、弁駆動部等含む)	高	1F	○	18回	補助給水系機能検査	
		1. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	18回	補助給水系ポンプ分解検査	(振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回		有効性評価 No.15の反映
		3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ)		26M	—	18回		
	A 電動補助給水ポンプ・電動機	4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機)	高	26M	—	18回		
		1. 分解点検 (ポンプ)		52M	○	16回	補助給水系ポンプ分解検査	(振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (電動機)		130M	—	18回		有効性評価 No.15の反映
		3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ)		26M	○	18回		
	B 電動補助給水ポンプ・電動機	4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機)	高	26M	—	18回		
		1. 分解点検 (ポンプ)		52M	○	16回	補助給水系ポンプ分解検査	(振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (電動機)		130M	—	18回		有効性評価 No.15の反映
		3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ)		26M	○	18回		
	タービン動補助給水ポンプ・タービン	4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機)	高	26M	—	18回		
		1. 機能・性能試験 (タービン)		B	○	16回	2次系ポンプ機能検査	(振動診断：3 M)
		2. 分解点検		52M	○	16回	補助給水系ポンプ分解検査	
		3. 簡易点検 (ストレートナ清掃)		26M	○	17回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
原子炉冷却系統施設 〔蒸気タービンの附属設備〕	3 復水ピット	1. 外観点検	高	1F	○	18回		
	原子炉冷却系統施設 〔蒸気タービンの附属設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験	高	B	○	18回	2 次系弁検査	
		2. 分解点検		78M～260M	○	18回	2 次系弁検査	
		3. 簡易点検 (クランプトパッキン取替)		130M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設 〔蒸気タービンの附属設備〕 その他の機器	1. 機能・性能試験	高	B	○	18回	2 次系弁検査	
		2. 分解点検		78M～182M	○	18回		
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	18回		
	原子炉冷却系統施設 〔蒸気タービンの附属設備〕 その他機器	1. 分解点検他	高	13M～130M	○	18回		
		1. 外観点検	高	1F	○	18回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
		1. 外観点検	高	1F	○	18回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
計測制御系統施設 〔制御材〕	A 制御棒駆動装置MGセット	1. 外観点検	高	1F	○	18回	制御棒クラスタ動作検査	
		1. 外観点検	高	1F	○	18回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
		1. 外観点検	高	1F	○	18回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
	B 制御棒駆動装置MGセット	1. 外観点検	高	1F	○	18回	制御棒クラスタ検査	※：炉心設計による
		1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	制御棒駆動系機能検査	
		2. 機能・性能試験		1F	○	18回	制御棒クラスタ動作検査	
	計測制御系統施設 〔制御棒駆動装置〕 その他機器	1. 分解点検	高	52M	—	16回		(振動診断：3 M)
		2. 簡易点検 (潤滑油入替) (発電機)		13M	○	18回		有効性評価 No.22の反映
		1. 分解点検	高	52M	○	16回		(振動診断：3 M)
	計測制御系統施設 〔制御棒駆動装置〕 その他機器	2. 簡易点検 (潤滑油入替) (発電機)		13M	○	18回		有効性評価 No.22の反映
		1. 分解点検他	高・低	13M～39M	○	18回		
計測制御系統施設 〔ほう酸注入機能を有する設備〕	A ほう酸ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	18回	ほう酸ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	16回	ほう酸ポンプ分解検査	
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	18回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
	B ほう酸ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	高	B*	—	17回	ほう酸ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (振動診断：3 M)
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	17回	ほう酸ポンプ分解検査	
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	17回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備]	3 4 A 1 次系補給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	1 次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （振動診断：3 M） 先行実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		195M	—	15回		
		3. 分解点検 （電動機）		CEM	—	14回		
		4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）		26M	○	17回		
	3 4 B 1 次系補給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	1 次系ポンプ機能検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （振動診断：3 M） 先行実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		195M	—	15回		
		3. 分解点検 （電動機）		CEM	—	14回		
		4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）		26M	—	18回		
	Aほう酸タンク Aほう酸タンク真空逃がし弁 Bほう酸タンク Bほう酸タンク真空逃がし弁 3 4 A 1 次系純水タンク 3 4 A 1 次系純水タンクバキュームリーフ弁 3 4 A 1 次系純水タンクアトモス弁 3 4 B 1 次系純水タンク 3 4 B 1 次系純水タンクバキュームリーフ弁 3 4 B 1 次系純水タンクアトモス弁 ほう酸フィルタ 計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有 する設備] その他の弁	1. 開放点検	高	130M	—	17回		先行実施
		1. 分解点検		130M	—	14回	1 次系真空破壊弁検査	
		1. 開放点検		130M	—	16回		
		1. 分解点検		130M	—	16回	1 次系真空破壊弁検査	
		1. 開放点検		130M	—	13回		
		1. 分解検査		130M	—	13回	1 次系真空破壊弁検査	
		1. 分解検査		130M	—	13回	1 次系真空破壊弁検査	
		1. 開放点検		130M	○	11回		
		1. 分解検査		130M	○	11回	1 次系真空破壊弁検査	
		1. 分解検査		130M	○	11回	1 次系真空破壊弁検査	
		1. 開放点検		130M	—	16回		
		1. 機能・性能試験		B	○	18回		
計測制御系統施設 [工学的安全施設等の作動信号]	A TWS 緩和設備	2. 分解点検	高・低	130M	○	18回		16回施設設定検時に設置 重大事故時安全停止回路機能 検査 重大事故時安全停止回路機能 検査
		1. 特性試験		13M	○	18回		
		2. 機能・性能試験		1F	○	18回		
		1. 機能・性能試験 （空気圧縮機、電動機等 含む）		1F	○	18回	制御用空気圧縮系機能検査	
計測制御系統施設 [制御用空気設備]	A 制御用空気圧縮機・電動機	1. 分解点検 （圧縮機）	高	13M	○	18回		（電動機 振動診断：6M） 有効性評価 No.16の反映
		2. 分解点検 （電動機）		78M	—	17回		
		1. 分解点検 （圧縮機）		13M	○	18回		
		2. 分解点検 （電動機）		78M	—	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する設備（診断技術）
計測制御系統施設 〔制御用空気設備〕	代替制御用空気供給設備	1式	高	1F	○	18回		16回施設設定検時に設置
	計測制御系統施設〔制御用空気設備〕 その他の弁	1式	高・低	B	○	18回	1次系弁検査	
				13M～195M 130M	○	18回	1次系弁検査	
					○	18回		
計測制御系統施設 〔制御用空気設備〕 その他の弁駆動部		1式	高	B	○	18回	1次系弁検査	
				13M～182M 13M～182M	○	18回		
				13M～78M 13M	○	18回		
			高・低		○	18回		
計測制御系統施設 〔その他設備〕	・原子炉保護系ロジック回路 ・安全防護系ロジック回路 ・パームシブプロジック回路	28回路 25回路 6回路	高	1F	○	18回	安全保護系機能検査	
	原子炉トリップ、工学的安全施設の始動、原子炉格納容器隔離等を行うためのすべての伝送器、設定器及び保護継電器 ・1次冷却材等計測装置 保護継電器 伝送器 設定器 ・核計測装置 設定器 重要な指示計器 ・1次冷却材等計測装置 指示計 ・核計測装置 指示計	6個 76個 117個 20個 31個	高・低	13M	○	18回	安全保護系設定値確認検査	
		8個	高	13M	○	18回	プラント状態監視設備機能検査	
	事故時監視計器 ・圧力監視計器 ・水位監視計器 ・流量監視計器 ・温度監視計器 事故時試料採取設備 格納容器零用気ガス試料採取設備 ・制御棒制御系 ・加圧器水位制御系 ・加圧器圧力制御系 ・蒸気発生器水位制御系	2個 16個 8個 10個 1台 1式	高	1F	○	18回	プラント状態監視設備機能検査	一部定期事業者検査起動後
計測制御系統施設 〔その他設備〕	1次系及び2次系計測制御装置 炉外移計測装置 ・中性子源領域検出器 ・中間領域検出器 ・出力領域検出器 炉内移計測装置 駆動装置	1式 2個 2個 8個 4台	高・低 高	13M～26M 13M	○ ○	18回 18回	計測制御系監視機能検査 核計装設備検査	有効性評価 No.6の反映 一部定期事業者検査起動後
			高	1F	○	18回	核計装設備検査	
			高	13M	○	18回	制御棒位置指示装置設定値検査	
			高	13M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （○内は適用する 設備診断技術）
計測制御系統施設 【その他設備】	炉内計装用シンブルチューブ	58本	1. 非破壊試験	高	78M	18回	炉内計装用シンブルチューブ 体積検査	
	総合インターロック ・原子炉トリップ信号 （タービン、発電機トリップ） ・タービントリップ信号 （原子炉、発電機トリップ） ・発電機トリップ信号 （原子炉、タービントリップ） 中央制御室外の原子炉の停止制御回路	1式	1. 機能・性能試験	高	1F	18回	総合インターロック検査	
	24回路	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	原子炉の停止制御回路健全性 確認検査	
	恒設代替低圧注水積算流量	1個	1. 特性試験	高	13M	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
	原子炉水位	1個	1. 特性試験	高	13M	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
	AM用格納容器圧力	1個	1. 特性試験	高	13M	18回	プラント状態監視設備機能検 査	プラント状態監視設備機能 検査は、17回施設定検から 実施
	可搬型格納容器水素ガス濃度	2個	2. 特性試験		26M	18回		
	原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライ ン圧力	2個	1. 特性試験	高	13M	18回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置
	格納容器スプレイ積算流量	1個	1. 特性試験	高	13M	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
	原子炉格納容器水位	1対	1. 機能・性能試験	高	1F	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
	原子炉下部キャビティ水位	1対	1. 機能・性能試験	高	1F	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
	アニユラス水素濃度	2個	1. 特性試験	高	13M	18回	プラント状態監視設備機能検 査	16回施設定検時に設置
	可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置 その他機器	2台	1. 機能・性能試験	高	1F	18回	可搬型重大事故等対処設備機 能検査	16回施設定検時に設置
	計測制御系統施設【その他設備】 その他の弁	1式	1. 機能・性能試験	高・低	B	17回	1次系安全弁検査	
			2. 分解点検		78M～130M	17回	1次系弁検査	一部BMあり
			3. 簡易点検 （グラントパッキン取 替）		65M～130M	18回	1次系逆止弁検査	
	計測制御系統施設【その他設備】 その他機器	1式	1. 特性試験他	高	13M～52M	18回		
			2. 特性試験他	低	13M～78M	18回		一部BMあり
	ガス圧縮装置	2台	1. 機能・性能試験	低	1F	18回	気体廃棄物処理系機能検査	
			2. 分解点検他		13M～130M	18回		先行実施
放射性廃棄物の廃棄施設 【気体、液体又は固体廃棄物処理設 備】			3. 分解点検 （電動機）		CBM	13回		（振動診断：1.2M） 先行実施
	ガスサージタンク入口弁	4個	1. 機能・性能試験	高	1F	18回	気体廃棄物処理系機能検査	
			2. 分解点検		130M	18回		先行実施
	除濁装置・活性炭式希ガスホルドアッ プ装置	1基	1. 機能・性能試験	低	1F	18回	気体廃棄物処理系機能検査	
			2. 分解点検他		13M～130M	18回		先行実施

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備(診断技術)
放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	ほう酸回収装置	2 基	低	1F	○	18回	液体廃棄物処理系機能検査	先行実施
				13M～195M	○	18回		
	廃液蒸発装置	2 基	低	1F	○	18回	液体廃棄物処理系機能検査	先行実施
				13M～195M	○	18回		
	膜分離活性汚泥処理装置	1 基	低	1F	○	18回	液体廃棄物処理系機能検査	先行実施
				13M～130M	○	18回		
	3 4 A 除湿塔冷却送風機・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	17回	気体廃棄物処理系設備検査	B*：送風機または電動機の 分解点検にあわせて実施 先行実施
		2. 分解点検 (送風機)		260M	—	13回		
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回		
	3 4 B 除湿塔冷却送風機・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	17回	気体廃棄物処理系設備検査	B*：送風機または電動機の 分解点検にあわせて実施 先行実施
		2. 分解点検 (送風機)		260M	—	13回		
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回		
	3 4 C 除湿塔冷却送風機・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	17回	気体廃棄物処理系設備検査	B*：送風機または電動機の 分解点検にあわせて実施 先行実施
		2. 分解点検 (送風機)		260M	—	13回		
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回		
	A 格納容器冷却材ドレンポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	○	18回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		26M	○	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	18回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替 ポンプ)		26M	○	17回		
	B 格納容器冷却材ドレンポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	18回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		26M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		52M	—	17回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替 ポンプ)		26M	—	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術
放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	3 4 A 廃液蒸留水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CEM	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	16回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
	3 4 B 廃液蒸留水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CEM	—	15回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	15回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
	3 4 A 廃液給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CEM	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	16回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	○	17回		
	3 4 B 廃液給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 (ポンプ 振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ポンプ)		CEM	—	15回		
		3. 分解点検 (電動機)		195M	—	15回		
		4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ)		26M	—	18回		
	A 格納容器サンプポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	18回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 水中ポンプ
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回		
	B 格納容器サンプポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	○	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 水中ポンプ
		2. 分解点検 (ポンプ)		78M	○	15回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	○	15回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （○内は適用する 設備診断技術）
放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	3 4 A ほう酸回収装置給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （振動診断：1 2 M） 先行実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		CEM	—	15回		
		3. 分解点検 （電動機）		CEM	—	15回		
		4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）		26M	—	18回		
	3 4 B ほう酸回収装置給水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （振動診断：1 2 M） 先行実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		CEM	—	16回		
		3. 分解点検 （電動機）		CEM	—	16回		
		4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）		26M	○	17回		
	A 原子炉周辺建屋サンポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		195M	—	15回		
		3. 分解点検 （電動機）		156M	—	14回		
	B 原子炉周辺建屋サンポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		195M	—	16回		
		3. 分解点検 （電動機）		156M	—	14回		
	3 4 A 洗浄排水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	16回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （ポンプ 振動診断：1 2 M） 先行実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		CEM	—	16回		
		3. 分解点検 （電動機）		195M	—	16回		
		4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）		26M	—	18回		
	3 4 B 洗浄排水ポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 （ポンプ 振動診断：1 2 M） 先行実施
		2. 分解点検 （ポンプ）		CEM	—	14回		
		3. 分解点検 （電動機）		195M	—	15回		
		4. 簡易点検 （潤滑油入替） （ポンプ）		26M	○	17回		
	3 4 強酸ドレンポンプ・電動機	1. 機能・性能試験	低	B*	—	15回	液体廃棄物処理系設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施 キャンドポンプ
		2. 分解点検 （ポンプ）		78M	○	15回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （○内は適用する 設備診断技術）
放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	液体廃棄物貯蔵設備及び処理設備の漏えいに係る警報機能	1. 特性試験	低	13M	○	18回	液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査	先行実施
		2. 機能・性能試験		1F	○	18回	液体廃棄物貯蔵設備・処理設備の警報機能検査	
	流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能（最終の流入サンプリング）	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査（最終の流入サンプリング）	先行実施
	雑固体焼却設備	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	固体廃棄物処理系統却炉機能検査	先行実施
		2. 分解点検他		13M～130M	○	18回		
	乾燥造粒装置	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	乾燥造粒装置・セメントガラ固化装置機能検査	先行実施
		2. 分解点検他		13M～156M	○	18回		
	セメントガラス固化装置	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	乾燥造粒装置・セメントガラ固化装置機能検査	先行実施
		2. 分解点検他		13M～195M	○	18回		
放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕	放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験	低	B	○	18回	1次系安全弁検査	
		2. 分解点検	高	65M～130M	○	18回	1次系逆止弁検査	
	放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の弁駆動部	3. 分解点検	低	104M～130M	○	18回	1次系弁検査	一部BMあり
		4. 簡易点検 （グラウンドバックスン取替）		130M	○	18回	1次系逆止弁検査	
	放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他機器	1. 機能・性能試験	高・低	B	○	18回		一部先行実施
		2. 分解点検		65M～130M	○	18回		
	放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 蒸気発生器保管庫 その他機器	3. 簡易点検 （特性点検）		13M～130M	○	18回		
		1. 分解点検他	低	13M～130M	○	18回		一部先行実施 一部BMあり
	放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備〕	1. 外観点検	低	1F	○	24回*		*：前回実施時期については、1号機での実績を記載
		1. 機能・性能試験	低	1F	○	24回*		*：前回実施時期については、1号機での実績を記載
放射性廃棄物の廃棄施設 〔原子炉格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの液体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置〕	流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置	1. 特性試験	低	13M	○	18回	流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査	先行実施
		2. 機能・性能試験		1F	○	18回		
	A格納容器内高レベルエアモニタ（低レベル）	1. 特性試験	高	13M	○	18回	エリアモニタ機能検査	
		1. 特性試験	高	13M	○	18回	エリアモニタ機能検査	
	B格納容器内高レベルエアモニタ（低レベル）	1. 特性試験	高	13M	○	18回	エリアモニタ機能検査	
		1. 特性試験	高	13M	○	18回	エリアモニタ機能検査	
放射線管理施設 〔放射線管理用計測装置〕	B格納容器内高レベルエアモニタ（高レベル）	1. 特性試験	高	13M	○	18回	エリアモニタ機能検査	
		1. 特性試験	高	13M	○	18回	エリアモニタ機能検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
放射線管理施設 [放射線管理用計測装置]	A排気筒ガスモニタ	3R-21A	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-21B	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	廃棄物処理設備排水モニタ	34R-35	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-40	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	格納容器ガスモニタ	3R-41	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-43	1.機能・性能試験 2.特性試験	高	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	建屋内漏えい検知ガスモニタ	34R-50	1.特性試験 2.特性試験	低	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-55	1.機能・性能試験 2.特性試験	高	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	原子炉補機冷却水モニタ	3R-56	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		34R-57	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	タービン建屋床ドレン集水モニタ	3R-58	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-65	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	A高感度型主蒸気管モニタ	3R-66	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-67	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	C高感度型主蒸気管モニタ	3R-68	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-70	1.特性試験 2.特性試験	低	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	冷却材連続モニタ	34R-71	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		34R-72	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	廃棄物処理設備排ガスモニタ	34R-73	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-80A	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	排気筒高レンジガスモニタ（低レンジ）	3R-80B	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-87	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	B主蒸気管モニタ	3R-88	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		3R-89	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	D主蒸気管モニタ	3R-90	1.特性試験 2.特性試験	高	13M	18回	放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		34R-99	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
	放水口水モニタ	34R-1	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施
		34R-1	1.機能・性能試験 2.特性試験	低	1F 13M	18回 18回	放射線監視装置機能検査 放射線監視装置機能検査	一部先行実施

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （○内は適用する 設備診断技術）
放射線管理施設 〔放射線管理用計測装置〕	格納容器エアロクック区域エリアモニタ	3R-2	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	放射化学室エリアモニタ	34R-3	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	A 充てんポンプ室エリアモニタ	3R-4A	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	B 充てんポンプ室エリアモニタ	3R-4B	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	C 充てんポンプ室エリアモニタ	3R-4C	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	使用済燃料ピット区域エリアモニタ	3R-5	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	試験採取室エリアモニタ	34R-6	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	炉内計装区域エリアモニタ	3R-7	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	ドラム詰室エリアモニタ	34R-8	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	1 次系補機操作室エリアモニタ	34R-11	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	雑固体固化処理エリアモニタ	34R-12	1. 特性試験	低	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	緊急時対策所外可搬型エリアモニタ	2台	1. 特性試験	低	1Y	○	18回	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	緊急時対策所内可搬型エリアモニタ	2台	1. 特性試験	高	1Y	○	18回	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリア モニタ	3台	1. 特性試験	高	13M	○	18回	放射線監視装置機能検査
	モニタリングステーション	1式	1. 特性試験	低	13M	○	18回	野外モニタ機能検査
	モニタリングポスト	5台	1. 特性試験	低	13M	○	18回	野外モニタ機能検査
放射線管理施設 〔換気設備〕	可搬式モニタリングポスト	11台	1. 特性試験	高	1Y	○	18回	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	放射線管理施設〔放射線管理用計測装 置〕 その他機器	1式	1. 分解点検他 2. 分解点検他	高	13M	○	18回	
	中央制御室非常用循環系		1. 機能・性能試験 （ファン、電動機、ダン パ、ダンパ駆動部等含 む）	高	1F	○	18回	中央制御室非常用循環系機能 検査
	A 中央制御室非常用循環ファン・電動機		1. 分解点検 （ファン）	高	91M	—	18回	（振動診断：3 M）
			2. 分解点検 （電動機）		78M	—	18回	
	B 中央制御室非常用循環ファン・電動機		1. 分解点検 （ファン）	高	91M	—	17回	（振動診断：3 M）
			2. 分解点検 （電動機）		78M	—	17回	
	中央制御室非常用循環フィルタユニット	1系列	1. 機能・性能試験 （よう素フィルタ） 2. 開放点検 （フィルタ取替） 3. 機能・性能試験 （差圧確認） 4. 開放点検 5. 微粒子フィルタ取替	高	1F	○	18回	中央制御室非常用循環系フイ ルター性能検査 一部先行実施
					X*	—	18回	X*：機能・性能試験結果に より適宜実施
					1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査
					260M	—	17回	
					X*	—	—	X*：フィルタ差圧により適 時実施

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回数)	検査名	備考	
								() 内は適用する 設備(診断技術)	
放射線管理施設 [換気設備]	A格納容器給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	先行実施	
		2. 分解点検 (ファン)		B	—	8回		電動機分解時に分解点検を 実施 先行実施	
		3. 分解点検 (電動機)		CEM	—	2回		(電動機 振動診断：1 2 M) 先行実施	
	B格納容器給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	先行実施	
		2. 分解点検 (ファン)		B	—	7回		電動機分解時に分解点検を 実施 先行実施	
		3. 分解点検 (電動機)		CEM	—	1回		(電動機 振動診断：1 2 M) 先行実施	
	A格納容器排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	18回		先行実施	
		3. 分解点検 (電動機)		CEM	—	18回			
	B格納容器排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回			
		3. 分解点検 (電動機)		CEM	—	17回			
	A格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査		
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	16回			
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	16回		有効性評価 No.17の反映	
	B格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査		
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	14回			
		3. 分解点検 (電動機)		78M	○	14回		有効性評価 No.17の反映	
	C格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査		
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回			
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		有効性評価 No.17の反映	
	D格納容器再循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査		
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	13回			
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回		有効性評価 No.17の反映	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
放射線管理施設 [換気設備]	A 格納容器空気浄化ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	13回		
		3. 分解点検 (電動機)		65M	—	18回		
	B 格納容器空気浄化ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		65M	—	17回		
	A 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		78M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		
	B 中央制御室循環ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 (ファン)		78M	—	16回		
		3. 分解点検 (電動機)		78M	—	16回		
	A 中央制御室空調ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(ファン 振動診断：6 M) (電動機 振動診断：2 M)
		2. 分解点検 (ファン)		91M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	18回		
	B 中央制御室空調ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(ファン 振動診断：6 M) (電動機 振動診断：2 M)
		2. 分解点検 (ファン)		91M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	17回		
	3 4 A 放射線管理室給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	17回		
	3 4 B 放射線管理室給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回数）	検査名	備考 （○内は適用する設備診断技術）
放射線管理施設 〔換気設備〕	3 4 A 放射線管理室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	12回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	12回		
	3 4 B 放射線管理室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	○	12回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	○	12回		
	A 補助建屋給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	12回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	8回		
	B 補助建屋給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	11回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	4回		
	C 補助建屋給気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	13回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	13回		
	A 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	18回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	18回		
	B 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	—	17回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	—	17回		
	C 補助建屋排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	(振動診断：1 2 M) 先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		130M	○	13回		
		3. 分解点検 (電動機)		CBM	○	9回		
	3 4 ベイラ排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 分解点検 (ファン)		104M	○	12回		
		3. 分解点検 (電動機)		104M	○	12回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備・診断技術
放射線管理施設 [換気設備]	3 4 ホット工作室排気ファン・電動機	1. 機能・性能試験	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 分解点検 （ファン）		B	—	14回		電動機分解時に分解点検を 実施
		3. 分解点検 （電動機）		156M	—	14回		
	A 安全補機室冷却ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	（電動機 振動診断：3M）
		2. 分解点検 （ファン）		104M	—	18回		
		3. 分解点検 （電動機）		104M	—	18回		
	B 安全補機室冷却ファン・電動機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	（電動機 振動診断：3M）
		2. 分解点検 （ファン）		104M	—	17回		
		3. 分解点検 （電動機）		104M	—	17回		
	A ほう酸ポンプ室空調ファン・電動機	4. 電動機取替 （電動機）	高	X*	○	—		X*：絶縁等の劣化兆候によ り適宜実施
		1. 機能・性能試験		1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 （ファン）		78M	—	17回		
	B ほう酸ポンプ室空調ファン・電動機	3. 分解点検 （電動機）	高	78M	—	17回		
		1. 機能・性能試験		1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 分解点検 （ファン）		78M	—	18回		
	緊急時対策所非常用空気浄化ファン 4台	3. 分解点検 （電動機）	高	78M	—	18回		
		1. 機能・性能試験		1Y	○	18回	可搬型換気空調設備検査	16回施設定検時に設置
		2. 素フィルタ性能検査		1Y	○	18回	可搬型換気空調設備検査	16回施設定検時に設置
	A 格納容器排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	17回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	8回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	B 格納容器排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	格納容器空気浄化フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	3 4 出入管理室排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回	1 次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回数）	検査名	備考 （○内は適用する 設備診断技術）
放射線管理施設 〔換気設備〕	A補助建屋排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	高	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		52M	○	15回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	B補助建屋排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	高	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		52M	○	15回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	34ペイラ排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	34ホット工作室排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	34試験採取室排気フィルタユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	先行実施
		2. 開放点検		BM	—	9回		
		3. 微粒子フィルタ取替		X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
	A格納容器給気ユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回		先行実施
		2. 開放点検		52M	—	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		1F	○	18回		先行実施
	B格納容器給気ユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	低	1F	○	18回		先行実施
		2. 開放点検		52M	—	17回		
		3. 微粒子フィルタ取替		1F	○	18回		
	A中央制御室空調ユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	高	52M	—	16回		
		2. 開放点検		1F	○	18回		
		3. 微粒子フィルタ取替		52M	—	16回		
	B中央制御室空調ユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	高	1F	○	18回		
		2. 開放点検		52M	—	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		52M	—	16回		
	34放射線管理室給気ユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	高	1F	○	18回		先行実施
		2. 開放点検		52M	—	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		52M	—	16回		
	A補助建屋給気ユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	高	1F	○	18回		先行実施
		2. 開放点検		52M	—	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		52M	—	16回		
	B補助建屋給気ユニット	1. 機能・性能試験 （差圧確認）	高	1F	○	18回		先行実施
		2. 開放点検		52M	—	17回		
		3. 微粒子フィルタ取替		52M	—	16回		
	A安全補機室冷却ユニット	1. 開放点検	高	52M	—	17回		
		2. 開放点検		52M	—	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		52M	—	16回		
	B安全補機室冷却ユニット	1. 開放点検	高	52M	○	15回		
		2. 開放点検		52M	—	16回		
		3. 微粒子フィルタ取替		52M	—	16回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
放射線管理施設 〔換気設備〕	自動ダンパ	1. 機能・性能試験 （駆動部を含む） 2. 分解点検	高・低	1F 65M	○ ○	18回 18回	1 次系換気空調設備検査	一部先行実施
	自動ダンパ駆動部	1. 分解点検 2. 簡易点検 （特性点検）	高・低	52M～156M 13M～65M	— ○	17回 18回		一部先行実施
	放射線管理施設〔換気設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 （グラウンドバッキング取 替）	高・低	B 130M 130M	○ ○ ○	18回 18回 17回	1 次系安全弁検査 1 次系弁検査	一部先行実施
	放射線管理施設〔換気設備〕 その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 （特性点検）	高・低	B 52M～182M 13M～182M	○ ○ ○	18回 18回 18回	1 次系弁検査	一部先行実施
	放射線管理施設〔換気設備〕 その他の機器	1. 分解点検 2. 分解点検 3. 簡易点検 （潤滑油入替）	高 低 高・低	13M～130M 13M～104M 13M	○ ○ ○	18回 18回 18回		一部先行実施
	中央制御室	1. 漏えい試験	高	6Y	—	16回	中央制御室の居住性確認検査	16回施設定検から実施
放射線管理施設 〔生体遮蔽装置〕	緊急時対策所	1. 機能・性能試験	高	1Y	○	18回	緊急時対策所の居住性確認検査	16回施設定検から実施
	可搬型気象観測装置	1. 特性試験	高	1Y	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	気象観測装置	1. 特性試験	低	1Y	○	18回	計測制御系監視機能検査	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	原子炉格納容器	1. 漏えい率試験	高	3F	○	16回	原子炉格納容器全体漏えい率 検査	10年に1回は設計圧力にて実 施 （16回定検において設計圧 力により実施）
	プレストレストコンクリート格納容器	1. 機能・性能試験	高	5Y	—	16回	プレストレストコンクリート 格納容器供用期間中検査	
		2. 外観点検		5Y	—	16回	プレストレストコンクリート 格納容器供用期間中検査	
	エアロック	1. 漏えい率試験	高	2/3F	—	18回	原子炉格納容器局部漏えい率 検査	
		2. 分解点検		52M	○	15回		
		3. 簡易点検 （潤滑油補給他）		26M	○	17回		
	非常用 1 個	1. 漏えい率試験	高	2/3F	—	18回	原子炉格納容器局部漏えい率 検査	
		2. 分解点検		52M	—	18回		
		3. 簡易点検 （潤滑油補給他）		26M	—	18回		
	機器搬入口	1. 漏えい率試験	高	2/3F	—	18回	原子炉格納容器局部漏えい率 検査	
		2. 開放点検		13M	○	18回		
		3. 非破壊試験		10Y	—	15回	原子炉格納容器供用期間中検査	ISIプログラムによる。〔別 表－6〕

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の重要度	保全方式又は頻度	今回の実施計画	前回実施時期（定検回次）	検査名	備考 （○内は適用する設備診断技術）
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	配管貫通部（貫通配管閉止フランジ部）	6個	高	2/3F	－	18回	原子炉格納容器局部漏えい検査	
				開放の都度	○	18回		
	電線貫通部	41個	高	2/3F	－	17回	原子炉格納容器局部漏えい検査	
	原子炉格納容器隔離弁	45個	高	2/3F	－	18回	原子炉格納容器局部漏えい検査	
	原子炉格納容器隔離（T・V信号及びT＋UV信号）により隔離される弁	62個	高	1F	○	18回	原子炉格納容器隔離弁機能検査	
	原子炉格納容器隔離（P・V信号）により隔離される弁	16個	高	1F	○	18回	原子炉格納容器隔離弁機能検査	
	原子炉格納容器隔離弁	3V-CS-004A	高	52M	○	16回追3	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-004B	高	52M	－	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-004C	高	52M	－	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-042	高	13M	○	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-043	高	104M	－	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-143	高	104M	－	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-WL-144	高	104M	－	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-001A	高	130M	－	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-001B	高	130M	－	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-002A	高	130M	○	10回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-DP-002B	高	130M	○	10回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-007	高	130M	－	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-310	高	130M	－	12回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CS-312	高	130M	－	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
原子炉格納施設 〔原子炉格納容器〕	原子炉格納容器隔離弁	3V-CC-342	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-365	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-401	高	130M	—	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-403	高	130M	—	10回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-427	高	130M	—	17回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-CC-429	高	130M	—	16回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-1A-508A	高	130M	—	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
		3V-1A-508B	高	130M	—	18回	原子炉格納容器隔離弁分解検査	
	原子炉格納容器隔離弁駆動部	1式	高	52M～182M 13M～182M	○ ○	17回 18回		
		1式	高・低	B	○	18回	1次系弁検査 1次系安全弁検査 1次系弁検査	
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕 その他の弁	1. 機能・性能試験 (特性点検)	高	78M～260M 26/39M*	○ —	18回 18回		*：原子炉格納容器局部漏 えい率検査の実施時期にあ わせて実施
		2. 分解点検	高					
		3. 分解点検	高					
		4. 簡易点検 (グラインドパッキン取 替)	高・低	52M～130M	○	18回		
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕 その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験	高	B	○	18回	1次系弁検査	
		2. 分解点検		65M～182M	○	18回		
		3. 簡易点検 (特性点検)		13M～182M	○	18回		
	原子炉格納施設〔原子炉格納容器〕 その他機器	1. 分解点検他	高	13M～104M	○	18回		
		2. 分解点検他	低	13M～52M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備・診断技術	
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	原子炉格納容器スプレイ系	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、 弁駆動部等含む)	高	1F	○	18回	原子炉格納容器安全系機能検査		
		2. 機能・性能試験		1F	○	18回	その他原子炉注水系機能検査	[対象設備] ・A格納容器スプレイポン プによる代替炉心注入系 16回施設定検から設定	
		1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	12回	その他原子炉注水系ポンプ分 解検査 原子炉格納容器安全系ポンプ 分解検査	(振動診断：3M) 12回は、格納容器スプレイ 系ポンプ分解検査として実 施 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、16回施設定検 から設定 有効性評価 No.18の反映	
	A格納容器スプレイポンプ・電動機	2. 分解点検 (電動機)		130M	—	16回			
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替)		130M	—	12回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	—	18回			
		5. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	—	18回			
		1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	11回	原子炉格納容器安全系ポンプ 分解検査	(振動診断：3M) 11回は、格納容器スプレイ 系ポンプ分解検査として実 施 有効性評価 No.18の反映	
		2. 分解点検 (電動機)		130M	—	17回			
		3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替)		130M	—	11回			
		4. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	17回			
		5. 簡易点検 (潤滑油入替)		26M	○	17回			
	B格納容器スプレイポンプ・電動機								

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	A格納容器スプレイ冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	18回	1次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	18回	1次系熱交換器検査	
		3. 漏えい試験		130M	—	18回		
	B格納容器スプレイ冷却器	1. 開放点検	高	130M	—	17回	1次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	17回	1次系熱交換器検査	
		3. 漏えい試験		130M	—	17回		
	原子炉格納容器スプレイ系主要弁	1. 分解点検	高	78M	○	17回	原子炉格納容器安全系主要弁 分解検査	
		1. 分解点検		78M	—	17回	原子炉格納容器安全系主要弁 分解検査	
		1. 分解点検		130M	—	13回	原子炉格納容器安全系主要弁 分解検査	13回は、原子炉格納容器ス プレイ系主要弁分解検査と して実施
		1. 分解点検		130M	—	14回	原子炉格納容器安全系主要弁 分解検査	14回は、原子炉格納容器ス プレイ系主要弁分解検査と して実施
	原子炉格納容器スプレイ系主要弁駆動部	1. 分解点検	高	182M	—	17回		
		2. 簡易点検 （特性点検）		13M～182M	○	18回		
	よう素除去薬品タンク	1. 開放点検	高	130M	—	18回		
		1. 分解点検		130M	—	18回	1次系真空破壊弁検査	先行実施
	よう素除去薬品タンク真空逃がし弁	1. 分解点検	高	1F	○	18回	アニュラス循環排気系機能検 査	
		1. 機能・性能試験 （ファン、電動機、弁、 弁駆動部、ダンパ、ダン パ駆動部等含む）						
	Aアニュラス空気浄化ファン・電動機	1. 分解点検 （ファン）	高	B	—	8回		電動機分解時に実施
		2. 分解点検 （電動機）		CBM	—	8回		（電動機 振動診断：1M）
		1. 分解点検 （ファン）		B	—	17回		電動機分解時に実施
	Bアニュラス空気浄化ファン・電動機	2. 分解点検 （電動機）	高	CBM	—	17回		（電動機 振動診断：1M）
		3. 電動機取替 （電動機）		X*	○	—		X*：絶縁等の劣化兆候によ り適宜実施
		1. 機能・性能試験 （よう素フィルタ）		1F	○	18回	アニュラス循環排気系フィル ター性能検査	A系、B系交互に実施 一部先行実施
	A、Bアニュラス空気浄化フィルタユニット	2. 開放点検 （フィルタ取替）	高	X*	—	18回		X*：機能・性能試験結果に より適宜実施
		1. 機能・性能試験 （差圧確認）		1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	
		2. 開放点検		260M	—	14回		
	Aアニュラス空気浄化フィルタユニット	3. 微粒子フィルタ取替	高	X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施
		1. 機能・性能試験 （差圧確認）		1F	○	18回	1次系換気空調設備検査	
		2. 開放点検		260M	—	13回		
	Bアニュラス空気浄化フィルタユニット	3. 微粒子フィルタ取替	高	X*	—	—		X*：フィルタ差圧により適 時実施

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備]	可燃性ガス濃度制御系主要弁	3V-VS-102A	高	65M	○	18回	可燃性ガス濃度制御系主要弁 分解検査	可燃性ガス濃度制御系主要 弁分解検査は、16回施設定 検から設定
		3V-VS-102B	高	65M	○	16回	可燃性ガス濃度制御系主要弁 分解検査	可燃性ガス濃度制御系主要 弁分解検査は、16回施設定 検から設定
		3V-VS-103A	高	65M	○	16回	可燃性ガス濃度制御系主要弁 分解検査	可燃性ガス濃度制御系主要 弁分解検査は、16回施設定 検から設定
		3V-VS-103B	高	65M	○	16回	可燃性ガス濃度制御系主要弁 分解検査	可燃性ガス濃度制御系主要 弁分解検査は、16回施設定 検から設定
	静的触媒式水素再結合装置	5個	高	5F	—	—	原子炉格納容器水素再結合装 置機能検査	16回施設定検時に設置
				5F	—	—		
				1F	○	18回		16回施設定検時に設置
	原子炉格納容器水素燃焼装置	14個	高	1F	○	18回		
				1F	○	18回		
				1F	○	18回		
				1F	○	18回	原子炉格納容器水素再結合装 置機能検査	
	静的触媒式水素再結合装置 温度監視装置		高	13M	○	18回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置
			高	13M	○	18回	計測制御系監視機能検査	16回施設定検時に設置
			高・低	B	○	18回	1次系弁検査	
				104M～130M	○	18回	1次系弁検査	
	原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の 安全設備] その他の弁			78M～130M	○	18回	1次系逆止弁検査	
			高	B	○	18回	1次系弁検査	
				182M	—	18回		
	原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の 安全設備] その他の弁駆動部			13M～182M	○	18回		
			高	10F	—	13回		
	原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の 安全設備] その他機器							
				130M	○	16回		
	その他AM(格納容器内注水) 機器	1式	高	130M	—	14回	1次系逆止弁検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術
原子力設備 【その他設備】	クラス1 機器（供用期間中検査対象） （重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む）	1式	高	10Y	○	18回	クラス1 機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-1]
				1F	○	18回	クラス1 機器供用期間中検査	
	クラス2 機器（供用期間中検査対象） （重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む）	1式	高	10Y	○	18回	クラス2 機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-2]
				10Y	○	18回	クラス2 機器供用期間中検査	
	クラス3 機器（供用期間中検査対象）	1式	高	10Y	○	18回	クラス3 機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-3]
				10Y	○	18回	クラス3 機器供用期間中検査	
	クラス1 機器Ni基合金使用部位 （重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む）	1式	高	5Y	—	17回	供用期間中特別検査のうちクラス1 機器Ni基合金使用部位特別検査	ISIプログラムによる。 [別表-4]
	クラス2 管（原子炉格納容器内） （重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む）	1式	高	25%/10Y	○	18回	供用期間中特別検査のうちクラス2 管（原子炉格納容器内）特別検査	ISIプログラムによる。 [別表-5]
				5Y~10Y	○	18回	重大事故等クラス2 機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-7]
	重大事故等クラス2 機器	1式	高	10Y	○	18回	重大事故等クラス2 機器供用期間中検査	16回施設定検から設定
				10Y	○	18回	重大事故等クラス2 機器供用期間中検査	
	重大事故等クラス3 機器	1式	高	10Y	—	—	重大事故等クラス3 機器供用期間中検査	ISIプログラムによる。 [別表-8]
							重大事故等クラス3 機器供用期間中検査	17回施設定検から設定
	蒸気発生器管台溶接部（重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む）	1式	高	10Y	—	18回	供用期間中特別検査のうち蒸気発生器管台溶接部の健全性確認検査	ISIプログラムによる。 [別表-1]
				100%/1F	○	—	供用期間中特別検査のうちクラス1 配管特別検査	
	クラス1 配管（水平展開対象）	1式	高	100%/10Y	○	18回	構造健全性検査	19回定事検時から設定
				100%/10Y	○	18回	構造健全性検査	排気筒については5 Fで実施
	RCPBのベント・ドレン弁シート部	1式	高	13M	○	18回	構造健全性検査	
		84箇所	高	1F	○	18回	レストレイント検査	
	1次冷却材管ホィップレストレイント		高					
		4箇所	高	1F	○	18回	レストレイント検査	
	主蒸気配管ホィップレストレイント		高					
		10箇所	高	1F	○	18回	レストレイント検査	
	原子力設備 [その他設備] その他の弁	1式	高・低	B	○	18回	1次系弁検査	有効性評価 No.8の反映
				78M~260M	○	18回	1次系弁検査	
	原子力設備 [その他設備] その他の弁駆動部			78M~130M	○	18回		
原子力設備・タービン設備 【その他設備】	原子力設備 [その他設備] その他の機器	1式	高・低	B	○	18回	1次系弁検査	
				65M~130M	○	18回		
	耐震クラスS、Bの支持構造物			13M~130M	○	18回		
		1式	高	13M~130M	○	18回	耐震健全性検査	一部BMあり クラス1、2、3 供用期間 中検査対象機器を除く

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備・診断技術
蒸気タービン 〔車室、円板、隔板、噴口、翼、車 軸〕	高圧タービン	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン 取替実施 有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		X*	—	18回	蒸気タービン開放検査	X*：高圧タービン、低圧 タービン点検対象の組み合 わせにより適宜実施 有効性評価 No.26の反映
		3. 簡易点検 （軸受箱内部清掃他）		13M	○	18回		
	第1 低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン 取替実施 有効性評価 No.26の反映
		2. 外観点検		X*	○	18回	蒸気タービン開放検査	X*：点検対象の組み合わせ により適宜実施 有効性評価 No.26の反映
		3. 簡易点検 （軸受箱内部清掃他）		13M	○	18回		
	第2 低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン 取替実施 有効性評価 No.26の反映
		2. 外観点検		X*	○	17回	蒸気タービン開放検査	X*：点検対象の組み合わせ により適宜実施 有効性評価 No.26の反映
		3. 簡易点検 （軸受箱内部清掃他）		13M	○	18回		
	第3 低圧タービン	1. 開放点検	高	39M	—	17回	蒸気タービン開放検査	15回定検時に蒸気タービン 取替実施 有効性評価 No.26の反映
		2. 外観点検		X*	○	18回	蒸気タービン開放検査	X*：点検対象の組み合わせ により適宜実施 有効性評価 No.26の反映
		3. 簡易点検 （軸受箱内部清掃他）		13M	○	18回		
蒸気タービン 〔調速装置及び非常調速装置並びに 調速装置で制御される主要弁〕	ロータアライメント	1. 組立状況点検	高	B	○	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 外観点検		1F	○	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	調速装置および非常用調速装置	1. 開放点検	高	39M	○	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	○	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	1 主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	2 主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	3 主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	4 主蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	1 蒸気加減弁	1. 開放点検	高	39M	○	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	2 蒸気加減弁	1. 開放点検	高	39M	○	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	○	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	3 蒸気加減弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
	4 蒸気加減弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		1. 開放点検		39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
		2. 組立状況点検		B	—	18回	蒸気タービン開放検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備（診断技術）
蒸気タービン 【調速装置及び非常調速装置並びに 調速装置で制御される主要弁】	A 1 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	17回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	A 2 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	A 3 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	B 1 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	B 2 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	B 3 再熟蒸気止め弁	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	A 1 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	17回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	A 2 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	A 3 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	B 1 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	B 2 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	—	18回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	B 3 インターセプト弁	1. 開放点検	高	39M	○	17回	蒸気タービン開放検査	有効性評価 No.26の反映
	復水・循環水系	1. 機能・性能試験 （ポンプ、電動機含む）	高	1F	○	18回	蒸気タービン附属設備機能検査	
	復水器	1. 開放点検	高	13M	○	18回	蒸気タービン開放検査	
	復水器 1 A	1. 開放点検 （非破壊試験） 2. 開放点検 （漏えい試験）	高	78M	—	16回		
	復水器 2 A	1. 開放点検 （非破壊試験） 2. 開放点検 （漏えい試験）	高	78M	—	16回		
	復水器 3 A	1. 開放点検 （非破壊試験） 2. 開放点検 （漏えい試験）	高	78M	—	16回		
蒸気タービン 【復水器】	復水器 1 B	1. 開放点検 （非破壊試験） 2. 開放点検 （漏えい試験）	高	78M	—	17回		
	復水器 2 B	1. 開放点検 （非破壊試験） 2. 開放点検 （漏えい試験）	高	78M	—	17回		
	復水器 3 B	1. 開放点検 （非破壊試験） 2. 開放点検 （漏えい試験）	高	78M	—	18回		
	A 循環水ポンプ・電動機	1. 分解点検 （ポンプ） 2. 分解点検 （電動機） 3. 簡易点検 （薬油吸入装置点検） （ポンプ）	高	52M	—	18回		
				104M	○	16回		
				26M	—	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
蒸気タービン 【復水器】	B 循環水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	52M	—	17回		
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	17回		
		3. 簡易点検 (翼油導入装置点検) (ポンプ)		26M	○	17回		
	A 復水器真空ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	52M～78M	—	17回		(振動診断：6 M)
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	15回		
		1. 分解点検 (ポンプ)		52M～78M	—	18回		(振動診断：6 M)
	B 復水器真空ポンプ・電動機	2. 分解点検 (電動機)	高	78M	—	18回		
		1. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	17回		有効性評価 No.19の反映
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		
	A 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	18回		有効性評価 No.19の反映
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	18回		
		1. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	16回		有効性評価 No.19の反映
	B 復水ポンプ・電動機	2. 分解点検 (電動機)	高	78M	—	15回		
		1. 分解点検 (ポンプ)		78M	—	15回		
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	15回		
	C 復水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	13M～260M	○	18回		一部BDMあり
		2. 分解点検 (電動機)		13M～130M	○	18回		
		1. 開放点検 (電動機)		26M	○	17回	蒸気タービン開放検査	
蒸気タービン 【蒸気タービンに附属する熱交換 器】	A 凝分分離加熱器（胴側） A 凝分分離加熱器	1. 開放点検	高	130M	—	15回	蒸気タービン開放検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	15回		
		3. 漏えい試験		130M	—	15回		
	B 凝分分離加熱器（胴側） B 凝分分離加熱器	1. 開放点検	高	130M	—	15回		
		2. 非破壊試験		26M	—	18回	蒸気タービン開放検査	
		3. 漏えい試験		130M	—	14回	蒸気タービン開放検査	
	A 第1 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	15回	2 次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	10回		
		3. 漏えい試験		65M	—	15回		
	B 第1 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	16回	2 次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	11回		
		3. 漏えい試験		65M	—	16回		
	C 第1 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	17回	2 次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	12回		
		3. 漏えい試験		65M	—	17回		
	A 第2 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	15回	2 次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	15回		
		3. 漏えい試験		65M	—	15回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する熱交換器〕	B第2 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	16回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	16回		
		3. 漏えい試験		65M	—	16回		
	C第2 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	17回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	17回		
		3. 漏えい試験		65M	—	17回		
	A第3 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	13回		
		3. 漏えい試験		65M	—	18回		
	B第3 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	○	14回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	14回		
		3. 漏えい試験		65M	○	14回		
	A第4 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	18回		
		3. 漏えい試験		65M	—	18回		
	B第4 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	○	14回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	○	10回		
		3. 漏えい試験		65M	○	14回		
	A第5 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	15回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	10回		
		3. 漏えい試験		65M	—	15回		
	B第5 低圧給水加熱器	1. 開放点検	高	65M	—	16回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	11回		
		3. 漏えい試験		65M	—	16回		
	脱気器タンク	1. 開放点検	高	39M	—	17回	2次系容器検査	
		2. 非破壊試験		39M	○	16回		
		3. 漏えい試験		39M	—	17回		
	A脱気器	1. 開放点検	高	130M	—	12回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	○	12回		
		3. 漏えい試験		130M	—	12回		
	B第7 高圧給水加熱器	1. 開放点検	高	130M	—	13回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	○	13回		
		3. 漏えい試験		130M	—	13回		
	グラント蒸気復水器	1. 開放点検	高	65M	—	17回	2次系熱交換器検査	
		2. 非破壊試験		130M	—	17回		
		3. 漏えい試験		65M	—	17回		
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕	給水、復水系	1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機含む)	高	1F	○	18回	蒸気タービン附属設備機能検査	
		2. 分解点検 (タービン)						
		3. 分解点検 (ポンプ)						
	Aタービン動主給水ポンプ・タービン	1. 機能・性能試験 (タービン)	高	B	—	17回	2次系ポンプ機能検査	
		2. 分解点検 (タービン)						
		3. 分解点検 (タービン)						

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術 No.21の反映
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポン プ及び貯水設備並びに給水処理設 備〕	Aタービン動主給水ポンプ・スタポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	16回		有効性評価 No.21の反映
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	16回		
		3. 簡易点検 (ポンプ)		13M	○	18回		
	Bタービン動主給水ポンプ・タービン	1. 機能・性能試験 (タービン)	高	B	—	18回	2次系ポンプ機能検査	
		2. 分解点検 (ポンプ)		52M	—	18回		
		3. 分解点検 (タービン)		52M	—	18回	2次系ポンプ分解検査	
	Bタービン動主給水ポンプ・スタポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	—	17回		有効性評価 No.21の反映
		2. 分解点検 (電動機)		78M	—	17回		
		3. 簡易点検 (ポンプ)		13M	○	18回		
	電動主給水ポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	130M	—	16回	2次系ポンプ分解検査	
		2. 分解点検 (電動機)		52M	—	18回		
	電動主給水ポンプ・スタポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	78M	○	16回	2次系ポンプ分解検査	
		2. 分解点検 (電動機)		78M	○	15回		
		3. 簡易点検 (ポンプ)		13M	○	18回		
	A復水・スタポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	104M	—	17回		有効性評価 No.20の反映
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	17回		
		3. 簡易点検 (ポンプ)		13M	○	18回		
	B復水・スタポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	104M	—	18回		有効性評価 No.20の反映
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	14回		
		3. 簡易点検 (ポンプ)		13M	○	18回		
	C復水・スタポンプ・電動機	1. 分解点検 (ポンプ)	高	104M	—	15回		有効性評価 No.20の反映
		2. 分解点検 (電動機)		104M	—	15回		
		3. 簡易点検 (ポンプ)		13M	○	18回		
	3 A 復水ろ過器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系容器検査	
	3 B 復水ろ過器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系容器検査	
	3 C 復水ろ過器	1. 開放点検	高	65M	—	18回	2次系容器検査	
	3 A 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	—	16回	2次系容器検査	
	3 B 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	—	17回	2次系容器検査	
	3 C 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	—	18回	2次系容器検査	
	3 D 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	○	9回	2次系容器検査	
	3 E 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	—	15回	2次系容器検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポン プ及び貯水設備並びに給水処理設 備〕	3 F 復水脱塩塔	1. 開放点検	高	130M	—	10回	2 次系容器検査	
	蒸気タービン〔蒸気タービンに附属する 給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理 設備〕 その他機器	1. 分解点検他 2. 分解点検他	高	13M～156M 13M～130M	○ ○	18回 18回		一部BMあり
蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する管等〕	主配管（主蒸気系統・抽気系統・ドレ ン系統）	1. 開放点検 2. 非破壊試験	高	13M 肉厚管理指 針による	○ —	18回 18回	蒸気タービン開放検査 蒸気タービン開放検査	
	2 次系配管等*（上記「蒸気タービン 主配管」以外の主蒸気系統・給水系 統・抽気系統・ドレン系統・復水系統・ その他の系統） *：配管のほか、タービン、ポンプ、熱 交換器、弁等を含む	1. 外観点検* 2. 非破壊試験	高 高・低	10V 肉厚管理指 針による	— —	18回 18回	2 次系配管検査 2 次系配管検査	定期事業者検査起動後
蒸気タービン 〔その他設備〕	蒸気タービン及び附属設備	1. 保安装置点検 2. 負荷点検	高	1F	○	18回	蒸気タービン性能検査	一部定期事業者検査起動後
	蒸気タービン〔その他設備〕 その他の弁	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 分解点検 4. 簡易点検 (グラブドパッキン取 替)	高・低 高 低 高・低	1F B 13M～260M 13M～260M 52M～130M	○ ○ ○ ○	18回 18回 18回 18回	総合負荷性能検査 2 次系安全弁検査	定期事業者検査起動後
蒸気タービン 〔その他設備〕	蒸気タービン〔その他設備〕 その他の弁駆動部	1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (特性点検)	高・低	B 52M～182M 13M～182M	○ ○ ○	18回 18回 18回		
	蒸気タービン〔その他設備〕 その他機器	1. 分解点検他 2. 分解点検他	高 低	13M～130M 12M～260M	○ ○	18回 18回		一部BMあり プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
その他発電用原子炉の附属施設 〔非常用発電装置〕	その他AM(格納容器内注水) 機器	1. 分解点検他	高	12M～182M	○	18回	1 次系弁検査	プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
	非常用ディーゼル発電機	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機定格容量 検査) 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検 査)	
その他発電用原子炉の附属施設 〔非常用発電装置〕	非常用炉心冷却設備(作動信号及び原子炉 格納容器スプレイ作動信号発信時に ディーゼル発電機に電源を求める機器	1. 機能・性能試験	高	1F	○	18回	非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検 査)	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
その他発電用原子炉の附属施設 [非常用発電装置]	Aディーゼル発電機	1. 分解点検他	高	13M～104M	○	18回		
	Aディーゼル機関	1. 分解点検他	高	13M～156M	○	18回		
	Aディーゼル機関のピストン、ピストン 連接棒、クランク軸	No. 1, 9	高	130M	—	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 2, 10	高	130M	○	12回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 3, 11	高	130M	—	14回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 4, 12	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 5, 13	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 6, 14	高	130M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 7, 15	高	130M	○	13回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 8, 16	高	130M	—	15回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 1-4, 9-12	高	26M	○	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 5-8, 13-16	高	26M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 1-4, 9-12	高	26M	○	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 5-8, 13-16	高	26M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 1-4, 9-12	高	26M	○	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 5-8, 13-16	高	26M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 1-4, 9-12	高	26M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 5-8, 13-16	高	26M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
	Bディーゼル発電機	1. 分解点検他	高	13M～104M	○	18回		
	Bディーゼル機関	1. 分解点検他	高	13M～156M	○	18回		
	Bディーゼル機関のピストン、ピストン 連接棒、クランク軸	No. 1, 9	高	130M	—	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 2, 10	高	130M	○	12回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 3, 11	高	130M	○	14回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 4, 12	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 5, 13	高	130M	—	16回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 6, 14	高	130M	—	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 7, 15	高	130M	○	13回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	
		No. 8, 16	高	130M	—	15回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 （定検回次）	検査名	備考 （ ）内は適用する 設備診断技術
その他発電用原子炉の附属施設 〔非常用発電装置〕	Bディーゼル機関のシリンダカバー	No. 1-4, 9-12	高	26M	○	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	一部先行実施
		No. 5-8, 13-16	高	26M	○	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	一部先行実施
	Bディーゼル機関の吸気弁	No. 1-4, 9-12	高	26M	○	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	一部先行実施
		No. 5-8, 13-16	高	26M	○	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	一部先行実施
	Bディーゼル機関の排気弁	No. 1-4, 9-12	高	26M	○	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	先行実施
		No. 5-8, 13-16	高	26M	○	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	先行実施
	Bディーゼル機関の燃料噴射弁	No. 1-4, 9-12	高	26M	○	17回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	先行実施
		No. 5-8, 13-16	高	26M	○	18回	非常用ディーゼル発電機分解 検査	先行実施
	ディーゼル発電機付属設備	1式	高	1F	○	18回	非常用予備発電機付属設備検 査	
		2. 分解点検		26M～130M	○	18回		
		3. 開放点検		26M～130M	○	18回		
		4. 非破壊試験		13M	○	18回	非常用予備発電機付属設備検 査	一部先行実施
		5. 漏えい試験		13M	○	18回		
		6. 機能・性能試験		1F	○	18回	非常用予備発電機付属設備検 査	
		7. 特性試験		26M	○	18回	非常用予備発電機付属設備検 査	有効性評価 No.9の反映
	空冷式非常用発電装置	2台	高	1F	○	18回	その他非常用発電装置の機能 検査 その他非常用発電装置の付属 設備検査	平成23年9月に設置 定期事業者検査は17回施設 定検から実施
				120M	－	18回		
	電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）	3台	高	1F	○	18回	可搬型代替電源設備検査	16回施設定検時に設置
	電源車（緊急時対策所用）	3台	高	1F	○	18回	可搬型代替電源設備検査	16回施設定検時に設置
		1台	高	1F	○	18回	可搬型代替電源設備検査	16回施設定検時に設置
	電源車 重油タンク	3台	高	1F	○	18回	可搬型代替電源設備検査	16回施設定検時に設置
		2台	高	10Y	－	－		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	タンクローリー	3台	高	1Y	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	その他発電用原子炉の附属施設〔非常用 発電装置〕 その他の弁 その他発電用原子炉の附属施設〔非常用 発電装置〕 その他機器	1式	高・低	B	○	18回	非常用予備発電機付属設備検 査	16回施設定検時に設置
		2. 分解点検		26M～130M	○	18回		
		1. 分解点検他	高	13M～130M	○	18回		
		2. 分解点検他	低	13M～130M	○	18回		

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備診断技術)
その他発電用原子炉の附属施設 〔その他の電源装置〕	直流電源装置蓄電池	2組 (60個/組)	高	1F	○	18回	直流電源系機能検査	
	計器用電源	4台	高	1F	○	18回	直流電源系作動検査	
		1式	高	26M	○	18回	インバータ機能検査	
	可搬型整流器	2個	高	1F	○	18回		
				1F	○	18回		
	可搬型バッテリー（加圧器逃がし弁用）	2個	高	1F	○	18回	16回施設設定検時に設置	
				1F	○	18回		
	その他発電用原子炉の附属施設〔その他の電源装置〕 その他機器	1式	高	13M～39M	○	18回	16回施設設定検時に設置	
				13M～26M	○	18回		
			低	13M～26M	○	18回	有効性評価 №23の反映	
その他発電用原子炉の附属施設 〔常用電源設備〕	発電機設備	1式	高	13M～104M	○	18回		
	変圧器設備	1式	高・低	13M～156M	○	18回		
	しゃ断器	1式	高・低	52M～216M	○	18回		
	その他発電用原子炉の附属施設 〔常用電源設備〕	1式	高	6M～156M	○	18回		
	その他機器		低	13M～130M	○	18回	プラント運転中又は定期事業名検査停止中	
	＃2補助ボイラー本体	1式	低	10Y※1	－	24回＊	先行実施 (その他の機器のうち燃料タンクを除く)	
	ドラム		低					
	火炉		低					
	管		低	B	－	24回＊	※1 補助ボイラー性能検査※2	
	安全弁		低					
その他発電用原子炉の附属施設 〔補助ボイラー〕	ボイラーに付属する給水設備		低	1Y	○	18回	補助ボイラー開放検査の実施頻度は10Yであるが、前回の点検後の運転時間が4000時間、又は起動回数が120回に達すると見込まれる時期までに定期事業者検査を実施する。	
	ボイラーに付属する通気設備		低					
	ボイラーに付属する燃料燃焼設備		低	10Y※1	－	24回＊	補助ボイラー開放検査※1	
	＃3補助ボイラー本体	1式	低					
	ドラム		低					
	火炉		低	B	－	24回＊	補助ボイラー性能検査※2	
	管		低					
	安全弁		低	1Y	○	18回	※2 補助ボイラー設備検査及び性能検査は、補助ボイラーの開放検査にあわせて実施する。	
	ボイラーに付属する給水設備		低	10Y	－	24回＊		
	ボイラーに付属する通気設備		低	1Y	○	18回		
その他発電用原子炉の附属施設 〔補助ボイラー〕	ボイラーに付属する燃料燃焼設備		低	10Y	－	24回＊		
	補助ボイラーに属するばい煙処理設備	1式	低					
	補助ボイラー		低					
	補助ボイラーシステム設備	1式	低					
	その他発電用原子炉の附属施設 〔補助ボイラー〕	1式	低	10Y	－	24回＊	補助ボイラー設備検査※2	
	その他の弁		低	B	－	24回＊	補助ボイラー設備検査※2	
			低	10Y	－	24回＊		
	その他発電用原子炉の附属施設 〔補助ボイラー〕	1式	低	1Y～15Y	○	18回		
	その他の機器		低					
			低					

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備(診断技術)
その他発電用原子炉の附属施設 [火災防護設備]	電動消防ポンプ・電動機	1台	高	1Y	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
				10Y	—	16回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
				6Y	—	15回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
	消防水バックアップポンプ	2台	低	B*	—	—	火災防護設備検査	B*：ポンプまたは電動機の 分解点検にあわせて実施
				130M	—	—		16回施設設定検時に設置
				130M	—	—		
	煙等流入防止装置 その他発電用原子炉の附属施設 [火災防護設備] その他機器	1式	高	1F	○	18回		16回施設設定検時に設置
		1式	低	1Y～10Y	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
				1F	○	18回		16回施設設定検時に設置
				10Y	—	—		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	浸水防止蓋 堰、浸水防止堰、伝播防止堰	1式	高	1F	○	18回		16回施設設定検時に設置
		1式	高	10Y	—	—		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
				1Y	○	18回		16回施設設定検時に設置
	水密扉	1式	高	1Y	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
				1F～4F	○	18回	計測制御系監視機能検査	16回施設設定検時に設置(1台) 計測制御系監視機能検査 は、17回施設設定検から実施
		2台	高・低	1F～4F	○	18回		
	津波監視カメラ A 湧水サンポンプ・電動機	2台	低	1F	○	18回		16回施設設定検時に設置
				B*	—	18回	浸水防護設備検査	B*：取替にあわせて実施
				5Y	—	—		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
								ボンプ・電動機一体型ボン プ 16回施設設定検から設定
	B 湧水サンポンプ・電動機		低	B*	—	—	浸水防護設備検査	B*：取替にあわせて実施
				5Y	—	—		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 ボンプ・電動機一体型ボン プ 16回施設設定検から設定

機器又は系統名	実施数（機器名）	点検及び試験の項目	保全の 重要度	保全方式 又は頻度	今回の実施 計画	前回実施時期 (定検回次)	検査名	備考 ()内は適用する 設備・技術
その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	1. 機能・性能試験	高・低	B	—	—	浸水防護設備検査	浸水防護設備検査は、17回 施設定検から設定
	その他の弁	2. 分解点検		130M	—	—		
	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	1. 機能・性能試験	高・低	B	—	—	浸水防護設備検査	浸水防護設備検査は、17回 施設定検から設定
	その他の弁駆動部	2. 分解点検		182M	—	—		
その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設]	1. 外観点検他	高・低	1F～10F	○	18回		16回施設定検時に設置
	その他機器							
	軽油ドラム缶	1. 外観点検	高	6M	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	貯水堰	1. 外観点検	高	2Y	—	17回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
土木建築設備	海水ポンプ室	1. 外観点検	高	1Y	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 16回施設定検時に設置
	原子炉建屋（格納容器内壁）	1. 外観点検	高	1F	○	18回		定期事業者検査停止中
	原子炉建屋（格納容器外壁、格納容器 外）	1. 外観点検	高・低	1Y	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
	取水口設備	1. 外観点検	高	1F	○	18回		プラント運転中又は定期事 業者検査停止中
プラント総合	原子炉及びその附属設備 (補助ボイラー及び非常用予備発電装置を除く)	1. 総合性能試験	高	1F	○	18回	総合負荷性能検査	定期事業者検査起動後
全般機器		1. 分解点検他	低	6M～168M	○	18回		プラント運転中又は施定期 事業者検査停止中

クラス1機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉容器(1/2)

別表一(1/11)																		
維持規格 JSME S NA1-2008 ※1																		
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大館発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
								2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	
B2. 111	B-B	上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	全長の 5%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-									維持規格 JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)	
		上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	全長の 100%	1箇所	水中UT (内面)	100%				-			100%	-		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014 (重大事故等クラス2機器)	
		下部胴とトランジションリングとの 周溶接継手	体積	全長の 5%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-									維持規格 JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)	
		下部胴とトランジションリングとの 周溶接継手	体積	全長の 100%	1箇所	水中UT (内面)	100%				-			100%	-		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014 (重大事故等クラス2機器)	
B3. 105	B-C	トランジションリングと下部鏡板との 周溶接継手	体積	全長の 5%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-									維持規格 JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)	
		トランジションリングと下部鏡板との 周溶接継手	体積	全長の 100%	1箇所	水中UT (内面)	100%							100%	-		維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014 (重大事故等クラス2機器)	
B3. 10	B-D	上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	全長の 100%	1箇所	水中UT (内面)	100%	-									(重大事故等クラス2機器)	
		冷却材入口管台と胴との溶接継手	体積	全数の 100%	4箇所	水中UT (内面)	各100%	-				-			A、B C、D	-	(重大事故等クラス2機器)	
B3. 20	B-D	冷却材出口管台と胴との溶接継手	体積	全数の 100%	4箇所	水中UT (内面)	各100%	-									(重大事故等クラス2機器)	
		冷却材入口管台内面の丸みの部分	体積	全数の 100%	4箇所	水中UT (内面)	各100%	-				-			A、B C、D	-	(重大事故等クラス2機器)	
B5. 10	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドとの 溶接継手	体積及び 表面	全数の 100%	4箇所	UT及び PT	各100%	-		A (PT)					C、D (水中UT)	-	(重大事故等クラス2機器)	
		冷却材出口管台とセーフエンドとの 溶接継手	体積及び 表面	全数の 100%	4箇所	UT及び PT	各100%	-	A (PT)	B (PT)		-		D (PT)	A、B C、D (水中UT)	-	(重大事故等クラス2機器)	
B6. 10	B-G-1	ナット	VT-1	全数の 100%	54個	VT-1	100%	-	7	7	12	-	7	7	7	-	(重大事故等クラス2機器)	
B6. 30	B-G-1	スタッドボルト	体積	全数の 100%	54本	UT	100%	-	7	7	12	-	7	7	7	-	(重大事故等クラス2機器)	
B6. 40	B-G-1	胴フランジネジ穴のネジ部	体積	全数の 100%	54箇所	UT	可能範囲 100%	-		18		-					ガイドスタッド近傍は検査不 可能 (重大事故等クラス2機器)	
B6. 50	B-G-1	上蓋用ワッシャ	VT-1	全数の 100%	54個	VT-1	100%	-	7	7	12	-	7	7	7	-	(重大事故等クラス2機器)	
B7. 10	B-G-2	T/Cハウジングのマーキングランプ用 ボルト・ナット	VT-1	全数の 25%	3箇所／ 1組 ×4組	VT-1	25% (1組)	-		1組 #66		-				-	(重大事故等クラス2機器)	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解明(「令和元年6月5日原規技発第1906051号」の改正版(以下、亀裂解明NRA文書改正という。))の施行及び公開会合(「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等」新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合)(「令和元年8月5日」の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉容器 (2/2)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1																			大飯発電所 第3号機 検査計画 (10万年)										備考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所			検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第一回	2023年 第20回	2024年 第一回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	備考									
G1. 10	G-P-1	原子炉容器内部			VT-3	全範囲の 7.5% 各検査時期毎	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100% 約3年毎	-	可能範囲 100%											維持規格JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器)								
G1. 10	G-P-1	原子炉容器内部			VT-3	全範囲の 7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100% 約3年毎				可能範囲 100%	-			可能範囲 100%			-	可能範囲 100%	維持規格JSME S NA1- 2012/2013/2014 (重大事故等クラス2機器)								
G1. 40	G-P-1	内部取付け物			VT-3	全範囲の 7.5%	6箇所	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100%	-				-			可能範囲 100%			-	下部炉心構造物取出し時に 実施 (重大事故等クラス2機器)									
G1. 40	G-P-1	上部炉心支持構造物			VT-3	全範囲の 7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100%	-				-						-	可能範囲 100%	(重大事故等クラス2機器)								
G1. 50	G-P-2	下部炉心支持構造物			VT-3	全範囲の 7.5%	1基	VT-3 (水中TV)	可能範囲 100%	-				-			可能範囲 100%			-	下部炉心構造物取出し時に 実施 (重大事故等クラス2機器)									
B14. 10	B-O	制御棒駆動ハウジングの溶接継手 (上部)			体積又は 表面	最外周 25%	最外周 (全62箇所) 最外周 24箇所 (全66箇所)	PT	最外周 可能範囲 25% (11箇所)	-	1	2	2	-	2	1	1	-	-	2	1.構造上UTは不可 2.上部は構造的に実施困難 (重大事故等クラス2機器)									
		制御棒駆動ハウジングの溶接継手 (下部)																												
B15. 10	B-P	圧力保持範囲			VT-2	漏えい 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-	●	●	○	-	○	○	○	○	-	○	(重大事故等クラス2機器)									
F1. 41	F-A	支持構造物			VT-3	全数の 25%	8箇所	VT-3	25% (2箇所)	-		B 出口側		-	D 出口側				-		但し、目視可能な範囲のみと する。 (重大事故等クラス2機器)									

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

2. 加圧器 (1/2)

別表ー1(3/11)

維持規格 JSME S NA1－2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)										備考					
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 2021年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	
B2. 11	B－B	上部鏡板と上部胴との周継手	体積	全長の 5%	1箇所	UT	5%	-	5%			-				-		
		下部胴と下部鏡板との周継手	体積	全長の 5%	1箇所	UT	5%	-				-			5%	-		(重大事故等クラス2機器)
B2. 12	B－B	上部胴の長手継手	体積	全長の 10%	2箇所	UT	各10%	-	B10%		A10%	-				-		(重大事故等クラス2機器)
		中間胴の長手継手	体積	全長の 10%	2箇所	UT	各10%	-		A10%		-	A10%			-	B10%	(重大事故等クラス2機器)
B2. 13	B－B	下部胴の長手継手	体積	全長の 10%	2箇所	UT	各10%	-				-				-		(重大事故等クラス2機器)
		上部胴と中間胴との周継手	体積	全長の 5%	1箇所	UT	5%	-		5%			-				-	(重大事故等クラス2機器)
B3. 30	B－D	中間胴と下部胴との周継手	体積	全長の 5%	1箇所	UT	5%	-				-		5%		-		(重大事故等クラス2機器)
		安全弁用管台と容器との溶接継手			3箇所													
		逃がし弁用管台と容器との溶接継手	体積	全数の 25%	1箇所	UT	33% (2箇所)	-	スプレイ 用管台			逃がし弁 用管台	-				-	(重大事故等クラス2機器)
		スプレイ用管台と容器との溶接継手			1箇所													
B3. 40	B－D	サーージ用管台と容器との溶接継手			1箇所													
		安全弁用管台内面の丸みの部分			3箇所													
		逃がし弁用管台内面の丸みの部分	体積	全数の 25%	1箇所	UT	33% (2箇所)	-	スプレイ 用管台			逃がし弁 用管台	-				-	(重大事故等クラス2機器)
		スプレイ用管台内面の丸みの部分			1箇所													
		サーージ用管台内面の丸みの部分			1箇所													

※1: NRA文書「軍用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の監視(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂監視NRA文書改正という。)」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

2. 加圧器 (2/2)

別表-1(4/11)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備 考		
									2018年 第一回	2019年 第一回	2020年 第一回	2021年 第一回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第一回	2025年 第一回	2026年 第一回	2027年 第一回		2028年 第一回	
B5. 40	B-F		安全弁用管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	全数の25%	3箇所	UT及びPT	33% (2箇所)	-	スプレイ用管台 (UT,PT)	サージ用管台 (UT)	-	サージ用管台 (PT)	-						(重大事故等クラス2機器)	
			逃がし弁用管台とセーフエンドとの溶接継手			1箇所															
			スプレイ用管台とセーフエンドとの溶接継手			1箇所															
			サージ用管台とセーフエンドとの溶接継手			1箇所															
B7. 20	B-G-2		マンホール取付ボルト	VT-1	全数の25%	16本／ 1箇所 ×1基	VT-1	25% (4本)	-		1			1	1				1	(重大事故等クラス2機器)	
B8. 20	B-H		支持部材の容器への取付け溶接継手 (スカータ溶接継手)	表面又は体積	全長の7.5%	1箇所	UT	7.5%	-					7.5%				-		(重大事故等クラス2機器)	
B15. 20	B-P		圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-	●	●		○	-		○	○		-	○	(重大事故等クラス2機器)
F1. 41	F-A		支持構造物(スカータ、基礎ボルト含む)	VT-3	全数の25%	1箇所／ 1基	VT-3	100%	-						100%			-		-	(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。.)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年9月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

3. 蒸気発生器(1／1)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1										大飯発電所 第3号機 検査計画(10力年)										備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回			
B2. 40	B-B	管板と水室鏡板との溶接継手	体積	代表1基 全長の 25%	1箇所／ 1基 ×4基	UT	代表1基の 25%	-	A 9%			-	A 8%			-	A 8%		(重大事故等クラス2機器)	
B3. 60	B-D	冷却材入口管台の内面の丸みの部分	体積	代表1基 全数の 25%	1箇所／ 1基 ×4基	UT	代表1基の 50% (1箇所 ／1基)	-			-		B 入口側			-		(重大事故等クラス2機器)		
		冷却材出口管台の内面の丸みの部分																		
B5. 70	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドとの 溶接継手	体積及び 表面	代表1基 全数の 25%	1箇所／ 1基 ×4基	UT及び PT	代表1基の 50% (1箇所 ／1基)	-		A入口側 (UTPT)		-				-		*1 (重大事故等クラス2機器)		
		冷却材出口管台とセーフエンドとの 溶接継手																		
B7. 30	B-G-2	1次側マンホールボルト(入口側)	VT-1	代表1基 全数の 25%	16本／ 1基 ×4基	VT-1	代表1基の 50% (16本 ／1基)	-		A 入口側 4本		-	A 入口側 6本			-	A 入口側 6本	(重大事故等クラス2機器)		
		1次側マンホールボルト(出口側)																		
B8. 30	B-H	水室鏡とサポートパッドとの溶接継手	表面	代表1基 全長の 7.5%	4箇所／ 1基 ×4基	PT	代表1基の 25% (1箇所 ／1基)	-			A1	-				-		(重大事故等クラス2機器)		
B15. 30	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-	●	●	○	-	○	○	○	-	○	(重大事故等クラス2機器)		
F1. 41	F-A	支持構造物	VT-3	代表1基 の25%	4箇所／ 1基 ×4基	VT-3	代表1基の 100% (4箇所 ／1基)	-			A4	-				-		(重大事故等クラス2機器)		

別表-1(5/11)

*1:検査方法のうちUTについては、NISA文書「定期事業者検査における超音波探傷試験の代替措置計画策定について」の検査対象
※1:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。.)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版／2013年追補／2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

4. 配管 (1/3)

別表ー1(6/11)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)														備考			
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回		2027年 第一回	2028年 第23回	
B7. 50	B-G-2	直径50mm 以下の 圧力保持用 ボルト 締付け部	VT-1	全数の 25%	4組／ 1箇所 ×4箇所	VT-1	25% (1箇所)	-						-		1		-		
			1次冷却材ポンプ封水注入 ライン(A, B, C, Dループ)	体積	全数の 25%	48箇所	UT	25% (12箇所)	-	2 A	2 B, C	1 B			-	2 A, C	1 B	2 D	-	2 C, D
			加圧器サーージライン	体積	全数の 25%	8箇所	UT	25% (2箇所)	-	1				-	-		1		-	
			加圧器安全弁ライン	体積	全数の 25%	27箇所	UT	25% (7箇所)	-	1	1				-	1	1	1	-	2
			加圧器逃がし弁ライン	体積	全数の 25%	6箇所	UT	33% (2箇所)	-		1				-	-	1		-	
B9. 11	B-J	配管の 同種金属 溶接継手 (呼び径100A 以上/周継手)	加圧器スプレイライン	体積	全数の 25%	57箇所	UT	26% (15箇所)	-	1	2			-	1	2	4	-	2	
			余熱除去ポンプ入口ライン	体積	全数の 25%	32箇所	UT	25% (8箇所)	-	1	1				-	1		2	-	1
			SIS蓄圧注入ライン	体積	全数の 25%	56箇所	UT	25% (14箇所)	-	2	1				-	1		4	-	1
			SIS高温側低圧注入ライン	体積	全数の 25%	20箇所	UT	25% (5箇所)	-	1	1				-		1		-	1
			SIS低温側低圧注入ライン	体積	全数の 25%	12箇所	UT	25% (3箇所)	-	1					-	1		1		-
B9. 21	B-J	配管の 同種金属 溶接継手 (呼び径100A 未満/周継手)	加圧器逃がし弁ライン	表面	全数の 25%	12箇所	PT	25% (3箇所)	-	1				-		1		-		
			加圧器補助スプレイライン	表面	全数の 25%	22箇所	PT	27% (6箇所)	-	1					-	2		2	-	1
			抽出及びドレンライン	表面	全数の 25%	33箇所	PT	27% (9箇所)	-	1	1				-	1	1	2	-	2
			CVC/S充てんライン	表面	全数の 25%	10箇所	PT	30% (3箇所)	-			1			-	1			-	1
			CVC/S充てんライン 閉止分岐管	表面	全数の 25%	1箇所	PT	100% (1箇所)	-						-				-	1
			余熱除去ポンプ入口ライン	表面	全数の 25%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-				-				-			
			1次冷却材ポンプ封水 注入ライン	表面	全数の 25%	11箇所	PT	27% (3箇所)	-	1					-				-	1

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす型裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

4. 配管(2/3)

別表-1(7/11)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME SNA1-2008 ※1		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
		検査の対象箇所	検査の範囲						2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	
B9. 21	B-U	配管の 照査金属 溶接継手 (呼び径100A 未満、周継手) 注入ライン	表面	全数の 25%	SIS高温側高圧補助 注入ライン	29箇所	PT	27% (8箇所)	-	1	1		-	1	1	2	-	2	
B9. 31	B-U	母管と管台 との溶接継手 (呼び径100A 以上)	体積	全数の 25%	1次冷却材管	9箇所	UT	33% (3箇所)	-		1		-		1		-	1	(重大事故等クラス2機器)
B9. 32	B-U	母管と管台 との溶接継手 (呼び径100A 未満)	表面	全数の 25%	1次冷却材管	32箇所	PT	25% (8箇所)	-	1	2	1	-	1		1	-	2	(重大事故等クラス2機器)
			表面	全数の 25%	余熱除去ポンプ入口ライン	2箇所	PT	100% (2箇所)	-			1	-			1	-		(重大事故等クラス2機器)
			表面	全数の 25%	SIS蓄圧注入ライン	2箇所	PT	50% (1箇所)	-			1	-				-		(重大事故等クラス2機器)
			表面	全数の 25%	SIS高温側低圧注入ライン	2箇所	PT	50% (1箇所)	-				-		1		-		
			表面	全数の 25%	SIS低温側低圧注入ライン	2箇所	PT	50% (1箇所)	-				-		1		-		(重大事故等クラス2機器)
			表面	全数の 25%	1次冷却材管	25箇所	PT	28% (7箇所)	-	1	1	1	-	1		1	-	2	
			表面	全数の 25%	加圧器補助スプレイライン	1箇所	PT	100% (1箇所)	-	1			-				-		
B9. 40	B-U	ソケット 溶接継手	表面	全数の 25%	抽出及びドレンライン	6箇所	PT	33% (2箇所)	-		1		-		1		-		
			表面	全数の 25%	1次冷却材ポンプ封水 注入ライン	62箇所	PT	25% (16箇所)	-	2	2	2	-	3	2	3	-	2	
			表面	全数の 25%	SIS高温側高圧補助 注入ライン	30箇所	PT	26% (8箇所)	-	2	1	1	-	1	1	1	-	1	
			表面	全数の 25%	SIS低温側高圧補助 注入ライン	16箇所	PT	25% (4箇所)	-		1		-	1		1	-	1	(重大事故等クラス2機器)
B10. 20	B-K	耐圧部分への 支持部材の取 付け溶接継手	表面	全数の 7.5%	余熱除去ポンプ入口ライン	2箇所	PT	50% (1箇所)	-				-				-		(重大事故等クラス2機器)
B15. 50	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	VT-2	1式	VT-2	100%	-	●	●	○	-	○	○	○	-	○	(重大事故等クラス2機器)

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間については以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

4. 配管(3/3)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)														備考																
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年		2025年		2026年		2027年		2028年					
								第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回		第一回	第二回	第一回
F1. 10	F-A	支持構造物	加圧器サージライン	全数の 25%	7箇所	VT-3	28% (2箇所)	-	1										-	1											(重大事故等クラス2機器)		
			加圧器逃がし弁ライン	全数の 25%	10箇所	VT-3	30% (3箇所)	-	1										-	1											(重大事故等クラス2機器)		
			加圧器スプレイライン	全数の 25%	61箇所	VT-3	26% (16箇所)	-	2	1					2					-	2	1			1						7		
			加圧器補助スプレイライン	全数の 25%	30箇所	VT-3	26% (8箇所)	-	2	1					1					-	1				1						2		
			抽出及びドレンライン	全数の 25%	23箇所	VT-3	26% (6箇所)	-	1	1										-	1				2						1		
			CVCス充てりライン	全数の 25%	5箇所	VT-3	40% (2箇所)	-		1										-		1											(重大事故等クラス2機器)
			1次冷却材ポンプ封水 注入ライン	全数の 25%	27箇所	VT-3	25% (7箇所)	-	1	1										-	1				1						2		
			余熱除去ポンプ入口ライン	全数の 25%	24箇所	VT-3	25% (6箇所)	-							2					-	1				1							1	(重大事故等クラス2機器)
			SIS蓄圧注入ライン	全数の 25%	30箇所	VT-3	26% (8箇所)	-	1	1					1					-	1				1						2		(重大事故等クラス2機器)
			SIS高温側低圧注入ライン	全数の 25%	12箇所	VT-3	25% (3箇所)	-							1					-		1									1		
		SIS低温側低圧注入ライン	全数の 25%	10箇所	VT-3	30% (3箇所)	-					1						-	1										1		(重大事故等クラス2機器)		
		SIS高温側高圧補助 注入ライン	全数の 25%	46箇所	VT-3	26% (12箇所)	-	1	2					3				-	1				1		2				2				
		SIS低温側高圧補助 注入ライン	全数の 25%	11箇所	VT-3	27% (3箇所)	-						1					-		1									1		(重大事故等クラス2機器)		

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原稿技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等」新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年6月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

5. 1次冷却材ポンプ(1ノ1)

項目番号		カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
									2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	
B6. 180			主フランジボルト	体積	代表1台の 25%	24本 ／1台 x4台	UT	代表1台の 25% (6本／1台)	-	A 6			-				-		(重大事故等クラス2機器)
B6. 190	B-G-1		主フランジ表面	VT-1	代表1台の 25%	24箇所 ／1台 x4台	VT-1	代表1台の 25% (6箇所／1台)	-	A 6			-				-		ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器)
B6. 200			主フランジナット・ワッシャ	VT-1	代表1台の 25%	24組 ／1台 x4台	VT-1	代表1台の 25% (6組／1台)	-	A 6			-				-		(重大事故等クラス2機器)
B12. 20	B-L-2		ケーシングの内表面	VT-3	代表1台の 100%	4台	VT-3	100% (1台)	-	A			-				-		ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器)
B15. 60	B-P		圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-	●	●	○	-	○	○	○	-	○	(重大事故等クラス2機器)
F1. 41	F-A		支持構造物	VT-3	代表1台の 25%	3箇所 ／1台 x4台	VT-3	代表1台の 100% (3箇所／1台)	-			A 3	-				-		(重大事故等クラス2機器)

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の監視」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂監視NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

別表-1(9ノ11)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

6. 弁 (1/2)

別表ー1(10/11)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)													備考				
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第一回	2023年 第20回	2024年 第21回	2025年 第22回	2026年 第一回	2027年 第23回	2028年 第24回		
B7. 70	B-G-2	直径50mm 以下の 圧力保持用 ボルト 締付け部	加圧器安全弁ライン	VT-1	代表1台 の25%	3台	VT-1	代表1台 (1台)	-	3V-RC-056			-				-		3V-RC-055,3V-RC-056 (重大事故等クラス2機器)	
			加圧器逃がし弁ライン	VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 (1台)	-	3V-RC-054A			-				-		3V-RC-054A・B (重大事故等クラス2機器)	
			加圧器スプレイライン	VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 (1台)	-		3PCV-451A			-				-		3PCV-452A・B (重大事故等クラス2機器)
			加圧器補助スプレイライン	VT-1	代表1台 の25%	1台	VT-1	代表1台 (1台)	-		3V-CS-169			-				-		3V-CS-169
			抽出及びドレンライン	VT-1	代表1台 の25%	1台	VT-1	代表1台 (1台)	-			3V-RC-017			-			-		3V-RC-017
				VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 (1台)	-				3LCV-451					-		3LCV-451 3LCV-452
				VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 (1台)	-									-		3V-CS-164,3V-CS-166 (重大事故等クラス2機器)
			CVC5充てんライン	VT-1	代表1台 の25%	2台	VT-1	代表1台 (1台)	-					3V-CS-164				-		3V-CS-164,3V-CS-166 (重大事故等クラス2機器)
			余熱除去ポンプ入口ロライン	VT-1	代表1台 の25%	4台	VT-1	代表1台 (1台)	-						3PCV-420				-	3PCV-420,3PCV-430 3V-RH-002A・B (重大事故等クラス2機器)
			SIS蓄圧注入ライン	VT-1	代表1台 の25%	8台	VT-1	代表1台 (1台)	-								3V-SI-134C		-	3V-SI-134A・B・C・D 3V-SI-136A・B・C・D (重大事故等クラス2機器)
B12. 50	B-M-2	呼び径 100Aを 超える弁箱	SIS高温側低圧注入ライン	VT-1	代表1台 の25%	4台	VT-1	代表1台 (1台)	-				-				-	3V-RH-051B 3V-SI-082B・C	3V-RH-051B 3V-SI-082B・C	
			SIS低温側低圧注入ライン	VT-1	代表1台 の25%	4台	VT-1	代表1台 (1台)	-								-	3V-RH-050D 3V-SI-050D	3V-RH-050A・B・C・D (重大事故等クラス2機器)	
			加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台 の100%	3台	VT-3	代表1台 (1台)	-		3V-RC-055			-				-	3V-RC-055,3V-RC-056 3V-RC-057 (重大事故等クラス2機器)	
			余熱除去ポンプ入口ロライン	VT-3	代表1台 の100%	4台	VT-3	代表1台 (1台)	-			3PCV-420						-	3PCV-420,3PCV-430 3V-RH-002A・B (重大事故等クラス2機器)	
			SIS蓄圧注入ライン	VT-3	代表1台 の100%	8台	VT-3	代表1台 (1台)	-			3V-SI-134B						-	3V-SI-134A・B・C・D 3V-SI-136A・B・C・D (重大事故等クラス2機器)	
			SIS高温側低圧注入ライン	VT-3	代表1台 の100%	4台	VT-3	代表1台 (1台)	-					3V-RH-051A				-	3V-RH-051A・B 3V-SI-082B・C	
			SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	代表1台 の100%	4台	VT-3	代表1台 (1台)	-		3V-RH-050C							-	3V-RH-050A・B・C・D (重大事故等クラス2機器)	
B15. 70	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	1式	VT-2	100%	-	●	●	○	-	○	○	○	-	○	(重大事故等クラス2機器)		

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす機器その他の父館の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検査NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間以下の通り。
・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										別表-1(11/11)							
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	備考		
F1. 41	F-A	加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台 の25%	1箇所／ 1台 ×3台	VT-3	代表1台 の100% (1箇所)	-		3V-RC-055 1		-				-		3V-RC-055,3V-RC-056 3V-RC-057 (重大事故等クラス2機器)		
				代表1台 の25%	2箇所／ 1台 ×2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-		3V-RC-054B 2		-				-		3V-RC-054A・B (重大事故等クラス2機器)		
		加圧器逃がし弁ライン	VT-3	代表1台 の25%	2箇所／ 1台 ×2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-				-	3PCV-452A 2				-	3PCV-452A・B (重大事故等クラス2機器)		
				代表1台 の25%	2箇所／ 1台 ×2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-				-					-	3PCV-451A・B		
		加圧器スプレイライン	VT-3	代表1台 の25%	1箇所／ 1台 ×2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-					-				-		3PCV-451A・B	
				代表1台 の25%	1箇所／ 1台 ×1台	VT-3	代表1台 の100% (1箇所)	-				-						-		3V-CS-169
		抽出及びドレンライン	VT-3	代表1台 の25%	2箇所／ 1台 ×2台	VT-3	代表1台 の100% (2箇所)	-						-						3LCV-451 3LCV-452 2
				代表1台 の25%	1箇所／ 1台 ×4台	VT-3	代表1台 の100% (1箇所)	-							-					3PCV-420,3PCV-430 3V-RH-002A・B (重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ入ロライン	VT-3	代表1台 の25%	1箇所／ 1台 ×4台	VT-3	代表1台 の100% (1箇所)	-				-						

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. 余熱除去冷却器

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014																		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年		2024年		2025年		2026年		2027年		2028年		2029年		2030年		2031年			
										第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回		
C1. 10	C-A	管側胴と管側フランジとの周溶接継手		体積	代表1基 全長の 7.5%	1箇所/1 基×2基	UT	代表1基の 7.5%	A 7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
C1. 20	C-A	管側鏡板と管側胴との溶接継手		体積	代表1基 全長の 7.5%	1箇所/1 基×2基	UT	代表1基の 7.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A 7.5%	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
C2. 21	C-B	管側入口管台と管側胴との溶接継手		体積及び 表面	代表1基 全長の 7.5%	1箇所/1 基×2基	UT及び PT	代表1基の 50% (1箇所/1基)	-	-	-	-	A 入口側	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)		
		管側出口管台と管側胴との溶接継手																											
C4. 10	C-D	全ねじボルト		体積	代表1基 全長の 7.5%	48本/1基 ×2基	UT	代表1基の 100% (48本/1基)	A 16本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A 16本	-	-	(重大事故等クラス2機器)		

別表-2(1/10)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

2. 配管 (1/3)

別表-2 (2/10)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME S NAI- 2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										備考
										2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
C3. 20	C-C			高圧注入ポンプ出口ロライン	表面	全数の 7. 5%	6箇所	PT	16% (1箇所)	1	-				-				-	(重大事故等クラス2機器)
				高圧注入ポンプ出口連絡ライ ン	表面	全数の 7. 5%	2箇所	PT	50% (1箇所)		-	1			-				-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ入口ロライン	表面	全数の 7. 5%	2箇所	PT	50% (1箇所)		-		1		-				-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ冷却器出口ロライン	表面	全数の 7. 5%	1箇所	PT	100% (1箇所)		-			1	-				-	(重大事故等クラス2機器)
				SIS高温側低圧注入ライン	表面	全数の 7. 5%	2箇所	PT	50% (1箇所)		-	1			-				-	
				SIS低温側低圧注入ライン	表面	全数の 7. 5%	2箇所	PT	50% (1箇所)		-				-	1			-	(重大事故等クラス2機器)
C5. 11	C-F			格納容器再循環サンプ 出口ロライン	表面	全数の 7. 5%	2箇所	PT	50% (1箇所)		-				-			1	-	(重大事故等クラス2機器)
				充てんポンプ出口ロライン	体積及び 表面	全数の 7. 5%	4箇所	UT及び PT	25% (1箇所)	1	-				-				-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ入口ロライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%	67箇所	PT	8% (6箇所)	1	-	1	1	1	-		1	1	-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ出口ロライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	1	-				-				-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ冷却器出口ロライン	体積及び 表面	全数の 7. 5%	44箇所	UT及び PT	9% (4箇所)	1	-	1			-	1		1	-	(重大事故等クラス2機器)
				SIS高温側低圧注入ライン	体積及び 表面	全数の 7. 5%	16箇所	UT及び PT	12% (2箇所)	1	-			1	-				-	
				SIS低温側低圧注入ライン	体積及び 表面	全数の 7. 5%	38箇所	UT及び PT	7. 8% (3箇所)	1	-			1	-			1	-	(重大事故等クラス2機器)
				高圧注入ポンプ出口ロライン	体積及び 表面	全数の 7. 5%	40箇所	UT及び PT	7. 5% (3箇所)	1	-		1		-		1		-	(重大事故等クラス2機器)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

2. 配管 (2/3)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大阪発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)														備 考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年		2031年
								第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回		第一回
C5. 11	C-F	格納容器再循環サブ 出口ライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%	2箇所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全箇所、格納容器貫通部の ため検査不可 (重大事故等クラス2機器)
		呼び径100Aを 超える管で公 称厚さが9.5mm を超える溶接 継手	体積又は 表面	全数の 7. 5%	6箇所	PT	16% (1箇所)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
C5. 12	C-F	余熱除去ポンプ入口ライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%	6箇所	PT	16% (1箇所)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		燃料取替用水ピット出口ライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%	4箇所	PT	25% (1箇所)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)
C5. 21	C-F	高圧注入ポンプ出口ライン	表面	全数の 7. 5%	44箇所	PT	9% (4箇所)	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		封水注入ライン	表面	全数の 7. 5%	12箇所	PT	8% (1箇所)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
		高圧注入ポンプ出口連絡ライン	表面	全数の 7. 5%	17箇所	PT	11% (2箇所)	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	(重大事故等クラス2機器)
		SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7. 5%	40箇所	PT	10% (4箇所)	1	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-
C5. 30	C-F	SIS高温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7. 5%	36箇所	PT	8% (3箇所)	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
		封水注入ライン	表面	全数の 7. 5%	19箇所	PT	10% (2箇所)	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
		SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7. 5%	20箇所	PT	10% (2箇所)	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	(重大事故等クラス2機器)
C5. 41	C-F	SIS高温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7. 5%	20箇所	PT	10% (2箇所)	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
		呼び径50Aを超 える母管と管 台及び母管と 枝管との溶接 継手	表面	全数の 7. 5%	2箇所	PT	50% (1箇所)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)

別表-2(3/10)

別表-2(3/10)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

2. 配管 (3/3)

別表-2(4/10)

項目番号		カテゴリ	維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										備考
										2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
F1. 21	F-A	支持構造物		充てんポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	1箇所	VT-3	100% (1箇所)	1	-				-				-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	47箇所	VT-3	8% (4箇所)	1	-	1	1		-			1	-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去ポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	15箇所	VT-3	13% (2箇所)	1	-				-	1			-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去冷却器出入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	20箇所	VT-3	10% (2箇所)	1	-				-			1	-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去冷却器出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	43箇所	VT-3	9% (4箇所)	1	-	1	1		-		1		-	(重大事故等クラス2機器)
				余熱除去冷却器バイパスライン	VT-3	全数の 7.5%	4箇所	VT-3	25% (1箇所)		-	1			-				-	
				SIS高温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	2箇所	VT-3	50% (1箇所)		-		1		-				-	
				SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	8箇所	VT-3	12% (1箇所)		-				-		1		-	(重大事故等クラス2機器)
				高圧注入ポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	40箇所	VT-3	7.5% (3箇所)	1	-		1		-			1	-	(重大事故等クラス2機器)
				封水注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	23箇所	VT-3	8% (2箇所)	1	-				-	1			-	
				高圧注入ポンプ出口連絡ライン	VT-3	全数の 7.5%	11箇所	VT-3	9% (1箇所)		-	1			-				-	(重大事故等クラス2機器)
				SIS高温側高圧補助注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	14箇所	VT-3	14% (2箇所)	1	-				-		1		-	
				SIS低温側高圧補助注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	44箇所	VT-3	9% (4箇所)	1	-	1	1		-			1	-	(重大事故等クラス2機器)
				格納容器再循環サンプ出口ライ ン	VT-3	全数の 7.5%	16箇所	VT-3	12% (2箇所)	1	-				-		1		-	(重大事故等クラス2機器)
				燃料取替用水ピット出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	8箇所	VT-3	12% (1箇所)	1	-				-				-	(重大事故等クラス2機器)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

3. 充てんポンプ

別表-2(5/10)

維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)														備 考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
C3. 30	C-C	ポンプ支持部材取付け溶接 継手	表面	全数の 7. 5%	16箇所/ 1台×2 台	PT	全数の9% (3箇所)	A 1箇所	-	-	A 1箇所	-	-	-	-	A 1箇所	-	
C4. 30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台 の7. 5%	16本/1 台×2台	UT	代表1台の 12% (2本/1台)	A 1本	-	-	-	-	-	-	A 1本	-	-	(重大事故等クラス2機器)
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台 の7. 5%	1箇所/1 台×2台	PT	代表1台の 100% (1箇所/1台)	-	-	-	-	-	-	-	-	A 100%	-	(重大事故等クラス2機器)
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7. 5%	2箇所/1 台×2台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)	-	-	-	-	-	-	A 100%	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)

4. 充てんポンプ(往復動式)

維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備 考		
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	検査年度										
								2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回		2030年 第25回	2031年 第一回
F1.43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	全数の 7.5%	1箇所/ 1台	VT-3	100% (1箇所/ 1台)	-	-	-	100%	-	-	-	-	-	(重大事故等クラス2機器)	

5. 余熱除去ポンプ

維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備 考		
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回		2030年 第25回	2031年 第一回
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台 の7.5%	2箇所/1 台×2台	PT	代表1台の 50%(1箇所 ／1台)	B 1箇所	-				-				-	(重大事故等クラス2機器)
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/1 台×2台	VT-3	代表1台の 100%(2箇 所／1台)		-				-	B 100%			-	(重大事故等クラス2機器)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

6. クラス2弁

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014																		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										別表-2(6/10)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年		2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
								第19回	第20回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回	第一回																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
F1.43	F-A	支持構造物	余熱除去冷却器出入口ライン	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/1 台×2台	VT-3	代表1台の 100%(2箇 所/1台)		-		3HCV- 603 2		-				-	3HCV-603、3HCV-613 (重大事故等クラス2機器)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査 (1/4)

別表-2 (7/10)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014		運転圧力又は最高使用圧力(MPa)	検査圧力(MPa)	検査方法	大飯発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										備考
		系統名	検査の対象箇所 ライン名				2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
C7. 30 C7. 70	C-H	1次冷却材系統	加圧器逃がしタンクPMW供給ライン	0. 98	0. 98	VT-2		-	○			-				-	
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	化学体積制御系統	抽出ライン(1)	15. 41	15. 41	VT-2	○	-				-				-	RCS漏えい検査時実施
			抽出ライン(2)	2. 06	2. 06	VT-2	○	-				-				-	
			抽出ライン(3)	0. 34	0. 34	VT-2		-	○			-				-	
			体積制御タンク入ロライン	0. 27	0. 27	VT-2	○	-				-				-	
			体積制御タンク及び出入ロライン	0. 11	0. 11	VT-2		-	○			-				-	一部気圧検査
			A充てんポンプ出ロライン及び封水注入ライン	18. 0	18. 0	VT-2		-	○			-				-	
			B充てんポンプ出ロライン	18. 0	18. 0	VT-2	○	-				-				-	
			C充てんポンプ出ロライン	17. 36	17. 36	VT-2		-	○			-				-	
			ほう酸混合器及び出入ロライン	0. 11	0. 11	VT-2		-	○			-				-	
			ほう酸ポンプ及び充てんポンプ連絡ライン	0. 11	0. 11	VT-2		-	○			-				-	
			Aほう酸ポンプ入ロライン	水張り	水張り	VT-2	○	-				-				-	一部気圧検査
			Bほう酸ポンプ入ロライン	水張り	水張り	VT-2	○	-				-				-	一部気圧検査
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	安全注入系統	Aほう酸ポンプ出ロライン	0. 87	0. 87	VT-2	○	-				-				-	
			Bほう酸ポンプ出ロライン	0. 87	0. 87	VT-2	○	-				-				-	
			A. B高圧注入ポンプ入ロライン	0. 19	0. 19	VT-2		-	○			-				-	
			A高圧注入ポンプ出ロライン(1)	10. 01	10. 01	VT-2		-	○			-				-	
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H		A高圧注入ポンプ出ロライン(2)	10. 01	10. 01	VT-2		-				-	○			-	RCS漏えい検査時実施

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査 (2/4)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014																	大阪発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										備 考				
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		運転圧力又は最高使用圧力(MPa)	検査圧力(MPa)	検査方法	2022年 第19回		2023年 第一回		2024年 第20回		2025年 第21回		2026年 第22回		2027年 第一回		2028年 第23回		2029年 第24回		2030年 第25回		2031年 第一回						
		系統名	ライン名																												
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	安全注入系統		B高圧注入ポンプ出口ライン(1)	10. 01	10. 01	VT-2	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	RCS漏えい検査時実施				
				B高圧注入ポンプ出口ライン(2)	10. 01	10. 01	VT-2		-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	ガードパイプ内包部分は検査不可		
				格納容器再循環サンプル出口ライン	水張り	水張り	VT-2		-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-		一部気圧検査	
				蓄圧タンク及び出入口ライン	4. 42	4. 42	VT-2		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-			-
				燃料取替用水ピット出入口ライン	水張り	水張り	VT-2	○	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-			-
				蓄圧タンク窒素充填ライン	4. 42	4. 42	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-			-
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	余熱除去系統		蓄圧タンク注入ライン	10. 01	10. 01	VT-2		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
				A余熱除去ポンプ入口ライン	2. 75	2. 75	VT-2		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
				B余熱除去ポンプ入口ライン	2. 75	2. 75	VT-2		-	-		-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
				A余熱除去ポンプ出口ライン	3. 78	3. 78	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
				B余熱除去ポンプ出口ライン	3. 78	3. 78	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
				A格納容器スプレイポンプ入口ライン	0. 19	0. 19	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	格納容器スプレイ系統		B格納容器スプレイポンプ入口ライン	0. 19	0. 19	VT-2		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
				B格納容器スプレイポンプ出口ライン	0. 19	0. 19	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
				A格納容器スプレイポンプ出口ライン(1)	1. 97	1. 97	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
				A格納容器スプレイポンプ出口ライン(2)	1. 97	1. 97	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	気圧検査		
				B格納容器スプレイポンプ出口ライン(1)	1. 97	1. 97	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
				B格納容器スプレイポンプ出口ライン(2)	1. 97	1. 97	VT-2		-	-		-	-	-	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	気圧検査		
				よう素除去薬品タンク及び出入口ライン	0. 03	0. 03	VT-2		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	一部気圧検査				
				Aよう素除去薬品タンク出口ライン	水張り	水張り	VT-2		-	-		-	-	-	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
				Bよう素除去薬品タンク出口ライン	水張り	水張り	VT-2		-	-		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

別表-2(8/10)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査（3／4）

別表-2(9／10)

維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014 検査の対象箇所				大飯発電所 第3号機 検査計画(10万年)											備考													
項目番号	カテゴリ	系統名	検査の対象箇所 ライン名	運転圧力又は 最高使用 圧力(MPa)	検査圧力 (MPa)	検査方法	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年		2030年	2031年											
							第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回		第25回	第一回											
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	格納容器スプレイ系 統	PH調整剤タンク及び出入ライン	0. 03	0. 03	VT-2		-			○		-				-	一部気圧検査										
C7. 10 C7. 30 C7. 70	C-H	主蒸気系統	A蒸気発生器蒸気出口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-				○		-			-	RCS漏えい検査時実施										
			B蒸気発生器蒸気出口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-				○		-			-	RCS漏えい検査時実施										
			C蒸気発生器蒸気出口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-					○		-			-	RCS漏えい検査時実施									
			D蒸気発生器蒸気出口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-						○		-			-	RCS漏えい検査時実施								
C7. 30 C7. 70	C-H	主給水系統	A蒸気発生器給水入口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-					○		-		-	RCS漏えい検査時実施										
			B蒸気発生器給水入口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-						○		-			-	RCS漏えい検査時実施								
			C蒸気発生器給水入口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-							○		-			-	RCS漏えい検査時実施							
			D蒸気発生器給水入口ライン	4. 62	4. 62	VT-2		-								○		-			-	RCS漏えい検査時実施						
C7. 30 C7. 70	C-H	蒸気発生器ブローダ ウン系統	A蒸気発生器ブローダウンライン	4. 62	4. 62	VT-2		-						○			-	RCS漏えい検査時実施										
			B蒸気発生器ブローダウンライン	4. 62	4. 62	VT-2		-							○			-			-	RCS漏えい検査時実施						
			C蒸気発生器ブローダウンライン	4. 62	4. 62	VT-2		-								○			-			-	RCS漏えい検査時実施					
			D蒸気発生器ブローダウンライン	4. 62	4. 62	VT-2		-									○			-			-	RCS漏えい検査時実施				
			A蒸気発生器ブローダウンサンブルライン	4. 62	4. 62	VT-2		-										○			-			-	RCS漏えい検査時実施			
			B蒸気発生器ブローダウンサンブルライン	4. 62	4. 62	VT-2		-											○			-			-	RCS漏えい検査時実施		
C7. 30 C7. 70	C-H	制御用空気系統	C蒸気発生器ブローダウンサンブルライン	4. 62	4. 62	VT-2		-										○			-			-	RCS漏えい検査時実施			
			D蒸気発生器ブローダウンサンブルライン	4. 62	4. 62	VT-2		-												○			-			-	RCS漏えい検査時実施	
			A制御用空気ライン	0. 74	0. 74	VT-2		-													○			-			-	
			B制御用空気ライン	0. 74	0. 74	VT-2		-															○			-		
C7. 30 C7. 70	C-H	所内用空気系統	所内用空気ライン	0. 7	0. 7	VT-2		-													○			-			-	

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査(4/4)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考		
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		運転圧力又は最高使用圧力(MPa)	検査圧力(MPa)	検査方法	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年
		系統名	ライン名				第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回	第一回
C7. 30 C7. 70	C-H	試料採取系統	加圧器液相部、気相部サンプル及び1次冷却材サンプルライン	15. 41	15. 41	VT-2		-				-		○		-
				15. 41	15. 41	VT-2		-				-		○		-
				4. 42	4. 42	VT-2		-				-		○		-
C7. 30 C7. 70	C-H	燃料取替用水系統	原子炉キャビティ浄化ライン(1)	水張り	水張り	VT-2		-				-		○		-
			原子炉キャビティ浄化ライン(2)	水張り	水張り	VT-2		-				-		○		-
C7. 30 C7. 70	C-H	廃棄物処理系統	格納容器冷却材ドレンポンプ出口ライン	0. 6	0. 6	VT-2		-				-		○		-
			格納容器サンプルポンプ出口ライン	0. 2	0. 2	VT-2		-				-		○		-
C7. 30 C7. 70	C-H	1次系洗浄水系統	1次系洗浄水ライン	0. 7	0. 7	VT-2		-				-			○	-
			CRDM冷却ユニット他冷却水入口ライン	0. 7	0. 7	VT-2		-				-		○		-
C7. 30 C7. 70	C-H	原子炉補機冷却水系統	CRDM冷却ユニット他冷却水出口ライン	0. 2	0. 2	VT-2		-				-			○	-
			RCP冷却水入口ライン	0. 7	0. 7	VT-2		-				-		○	-	
			RCP冷却水出口ライン	0. 2	0. 2	VT-2		-				-		○	-	
C7. 30 C7. 70	C-H	化学体積制御系統	封水戻りライン	0. 20	0. 20	VT-2		-				-		○		-
			消火水ライン	0. 6	0. 6	VT-2		-				-		○		-

別表-2(10/10)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

1. 余熱除去冷却器(胴側)

別紙-3(1/7)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)													備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	
								第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回	第一回	
D1. 10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基の 7. 5%	2箇所 /1基 × 2基	VT-1	代表1基の 100% (2箇所)	A	-					-				-
F1. 44	F-A	支持脚	VT-3	代表1基の 7. 5%	2箇所 /1基 × 2基	VT-3	代表1基の 100% (2箇所)	A	-					-				-

2. 格納容器スブレイ冷却器(胴側)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)													備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
D1. 10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基の 7. 5%	2箇所 /1基 × 2基	VT-1	代表1基の 100% (2箇所)		-		A		-				-	
F1. 44	F-A	支持脚	VT-3	代表1基の 7. 5%	2箇所 /1基 × 2基	VT-3	代表1基の 100% (2箇所)		-		A		-				-	

クラス3機器供用期間中検査10年計画

3. 配管 別表-3(2/7)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)													備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	
D1. 20	D-A	配管の支持部材 取付け溶接継手	原子炉補機冷却 水系統	VT-1	全数の 7.5%	58箇所	VT-1	8% (5箇所)	1	-			2	-		1	1	-
F1. 31	F-A	支持構造物	原子炉補機冷却 水系統	VT-3	全数の 7.5%	401箇所	VT-3	7.7% (31箇所)	6	-		5	5	-	5	5	5	-

4. 弁

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014						大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)													備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
F1. 31	F-A	支持構造物	原子炉補機冷却 水系統	VT-3	全数の 7.5%	1箇所／ 1台 ×2台	VT-3	代表1台の 100% (1箇所)		-				-		1		-	
						2箇所／ 1台 ×2台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所)		-				-			2	-	

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(3/7)

5. クラス3機器漏えい検査

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考			
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	運転圧力 又は 最高使用 圧力 (MPa)	検査圧力 (MPa)	検査方法	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年		2029年	2030年	2031年
						第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回		第24回	第25回	第一回
D2. 10 D2. 30	D-B	原子炉補機冷却水系統	A、B原子炉補機冷却水ポンプ 入口ライン C、D原子炉補機冷却水ポンプ 入口ライン 原子炉補機冷却水サージタンク 及び出入口ライン	0. 34 0. 34 0. 02	0. 34 0. 34 0. 02	VT-2 VT-2 VT-2	-	○			-				-	
								-		○		-			-	
							○	-				-			-	
								-		○		-			-	
D2. 10 D2. 30	D-B	燃料ピット冷却浄化系 統	使用済燃料ピットポンプ入口ライ ン A使用済燃料ピットポンプ出口ラ イン B使用済燃料ピットポンプ出口ラ イン	0. 18 0. 76 0. 76	0. 18 0. 76 0. 76	VT-2 VT-2 VT-2	○	-	○		-				-	
								-		○		-			-	
								-				-			-	
								-				-			-	
D2. 30	D-B	制御用空気系統	A制御用空気出口ライン B制御用空気出口ライン	0. 64 0. 64	0. 64 0. 64	VT-2 VT-2		-		○	-			-	気圧検査	
								-		○	-			-	気圧検査	

クラス3機器供用期間中検査10年計画

6. 原子炉補機冷却水冷却器

別表-3(4/7)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014					大飯発電所 第3号機 検査計画(10ヵ年)													備 考
項目 番号	カテ ゴリ	検査の対象箇所	検査 方法	検査範囲	設備数	検査 方法	検査範囲	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	
								第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回	第一回	
D1.10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基 の7.5%	3箇所/1基 ×2基	VT-1	代表1基 の100% (3箇所)		-				-		A		-	
F1.44	F-A	支持脚	VT-3	代表1基 の7.5%	3箇所/1基 ×2基	VT-3	代表1基 の100% (3箇所)		-				-		A		-	

7. 海水ストレーナ

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10ヵ年)														備考
項目 番号	カテ ゴリ	検査の対象箇所	検査 方法	検査範囲	設備数	検査 方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
D1.10	D-A	鏡板とスカートとの溶接継手	VT-1	代表1基 の7.5%	1箇所/1基 ×4基	VT-1	代表1基 の100% (1箇所)		-			A	-				-	
F1.44	F-A	支持構造物(スカート)	VT-3	代表1基 の7.5%	1箇所/1基 ×4基	VT-3	代表1基 の100% (1箇所)		-			A	-				-	

8. 非常用ディーゼル発電機清水冷却器

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014					大飯発電所 第3号機 検査計画(10ヵ年)													備 考
項目 番号	カテ ゴリ	検査の対象箇所	検査 方法	検査範囲	設備数	検査 方法	検査範囲	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	
								第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回	第一回	
D1.10	D-A	胴と当板脚との溶接継手	VT-1	代表1基 の7.5%	2箇所/1基 ×2基	VT-1	代表1基 の100% (2箇所)		-				-			A	-	
F1.44	F-A	支持脚	VT-3	代表1基 の7.5%	2箇所/1基 ×2基	VT-3	代表1基 の100% (2箇所)		-				-			A	-	

クラス3機器供用期間中検査10年計画

9. 非常用ディーゼル発電機潤滑油冷却器

別表－3(5/7)

維持規格 JSME S NAI-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)														備考	
項目 番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査 方法	検査範囲	設備数	検査 方法	検査範囲	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年		2031年
								第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	第一回	第23回	第24回	第25回		第一回
D1.10	D-A	胴と当板との溶接継手	VT-1	代表1基 の7.5%	2箇所/1基 ×2基	VT-1	代表1基 の100% (2箇所)		-				-				A	-
F1.44	F-A	支持脚	VT-3	代表1基 の7.5%	2箇所/1基 ×2基	VT-3	代表1基 の100% (2箇所)		-				-				A	-

10. 配管

維持規格 JSME S NAI-2008 ※1				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)													備考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回		
D1.20	D-A	配管の支持 部材取付け 溶接継手	原子炉補機 冷却海水系統	VT-1	全数 の7.5%				78箇所	VT-1	7.6% (6箇所)		-	2		1	-	1
F1.31	F-A			VT-3	全数 の7.5%	434 箇所	RH: 140 AN: 294	VT-3				7.8% (34箇所)		-	3		3	-

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(6/7)

11. 弁

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備 考			
項目 番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査 方法	検査 範囲	設備数		検査 方法	検査 範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回			2028年 第23回	2029年 第24回
F1.31	F-A	支持構造物	原子炉補機 冷却海水系統	VT-3	全数 の7.5%	3 箇所	RH: 3	VT-3	33% (1箇所)		-				-		1 (V- PMPW- 501)		-

12. 原子炉補機冷却水ポンプ

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)																	備 考
項目 番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査 方法	検査範囲	設備数	検査方 法	検査範囲	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回			
								代表1台 の100% (4箇所)	-			-			A	-				
F1.31	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7.5%	4箇所/1台 ×4台	VT-3	代表1台 の100% (4箇所)		-				-				A	-		

クラス3機器供用期間中検査10年計画

13. クラス3機器漏えい検査

別表-3(7/7)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014				運転圧力又は 最高使用 圧力 (MPa)	検査圧力 (MPa)	検査 方法	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備 考
項目 番号	カテ ゴリ	検査の対象箇所					2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第一回	2028年 第23回	2029年 第24回	2030年 第25回	2031年 第一回	
		系統名	ライン名														
D2.10 D2.30	D-B	原子炉補機 冷却海水系 統	A,B原子炉補機冷却海水ポンプ出口ライン	0. 44	0. 44	VT-2		-					○		-		
			C原子炉補機冷却海水ポンプ出口ライン	0. 44	0. 44	VT-2		-					○			-	
D2.10 D2.30	D-B	非常用ディーゼル発電機 系統	A-非常用ディーゼル発電機冷却水ライン	0. 44	0. 44	VT-2		-				○			-		
			B-非常用ディーゼル発電機冷却水ライン	0. 44	0. 44	VT-2		-				○	-			-	
D2.10 D2.30	D-B	非常用ディーゼル発電機 系統	A-非常用ディーゼル発電機起動空気ライン	2. 501	2. 501	VT-2		-		○					-		
			B-非常用ディーゼル発電機起動空気ライン	2. 501	2. 501	VT-2		-			○					-	

クラス1機器Ni基金使用部位特別検査10年計画

別表ー4(1/1)

NRA文書(原規技発第1408063号) ※1※2					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備考
機器名	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	検査頻度	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第20回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	2027年 第23回	2028年 第23回		
					原子炉容器底部の表面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
原子炉 容器	計装用貫通部溶接継手	BMV	58箇所	100%/5年	—	●				—		○		—		重大事故等クラス2機器	

※1:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂解釈NRA文書改正という。)(の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。

※2:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂解釈NRA文書改正という。)(の施行を踏まえ、令和3年亀裂解釈NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。

・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日):2020年4月1日(第18保全サイクル)~2021年7月20日

・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第2107219号(改正 令和3年7月21日(第19保全サイクル)~

クラス2管(原子炉格納容器内)特別検査10年計画

別表-5(1/1)

NRA文書 原規技発第1408063号 ※1※2			大飯発電所 第3号機 検査計画(10力年)																			備考		
項目 番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2010年 第一回	2011年 第15回	2012年	2013年	2014年	2015年 第16回	2016年	2017年	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年		2023年 第一回		2024年	
																			第19回	第20回				
-	-	配管	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		抽出水ライン(3B)	体積	25%	19箇所	UT	5	-	1				2				-				1	-		1
		充てん水ライン(3B)	体積	25%	35箇所	UT	9	-	2				3				-	1			1	-		2
		再生熱交換器連絡管	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		抽出水ライン連絡管(3B)	体積	25%	12箇所	UT	3	-					1				-			1		-	-	-
		充てん水ライン連絡管(3B)	体積	25%	12箇所	UT	3	-						1			-	1				-	-	1

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂検察NRA文書改正という。.)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業年度の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂検察NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。

※2：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂検察NRA文書改正という。.)の施行を踏まえ、令和3年亀裂検察NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。

※3：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和3年7月21日)及び原規技発第2107219号(改正 令和3年7月21日(第19保全サイクル)～2021年7月20日)

原子炉格納容器供用期間中検査10年計画

別表-6(1/1)

1. 原子炉格納容器

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1				大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)																			備考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年		
E8. 10	E-G	圧力保持 用ボルト (PEN #540)	機器搬入口 (PEN #540)	VT-4	25%	1箇所	VT-4	25%	第16回						第1回	第17回	第18回	第19回	第1回	第20回	第21回	第22回	第1回	

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検察NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. 格納容器スプレイ冷却器（管側）

別表－7(1／32)

維持規格 JSME S NA1－2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)														備考	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回		
C1. 10	C－A	管側胴と管側フランジとの周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	1箇所/ 1基×2基	UT	代表1基の 7.5%		-					-		A 7.5%		
C1. 20	C－A	管側鏡板と管側胴との溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%	1箇所/ 1基×2基	UT	代表1基の 7.5%		-					-	A 7.5%			
C4. 10	C－D	全ねじボルト	体積	代表1基 全数の 7.5%	48本/1基 ×2基	UT	代表1基の 100% (48本/1基)		-	A 16本			A 16本	-		A 16本		

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。.)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表ー7(2/32)

2. 配管(1/2)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※1	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	大飯発電所 第3号機 検査計画(10年)										備考	
						設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回
C3. 20	C-C	支持部材取付け溶接継手	原子炉補機冷却水ポンプ入ロライン	表面	全数の7.5%	1箇所	PT	100% (1箇所)		-	1			-			
			原子炉補機冷却水ポンプ出ロライン	表面	全数の7.5%	1箇所	PT	100% (1箇所)		-		1		-			
			主蒸気大気放しライン	表面	全数の7.5%	4箇所	PT	25% (1箇所)		-				-	1		
C5. 11	C-F	呼び径100Aを超える管で公称厚さが9.5mmを超える溶接継手	原子炉補機冷却水冷却器入ロライン	体積又は表面	全数の7.5%	11箇所	PT	9% (1箇所)		-		1		-			
			原子炉補機冷却水戻り母管	体積又は表面	全数の7.5%	14箇所	PT	14% (2箇所)		-	1			-	1		
			主蒸気大気放しライン	体積及び表面	全数の7.5%	8箇所	UT及びPT	12% (1箇所)		-				-		1	
C5. 12	C-F		原子炉補機冷却水冷却器入ロライン	体積又は表面	全数の7.5%	11箇所	PT	9% (1箇所)		-				-			1
			原子炉補機冷却水戻り母管	体積又は表面	全数の7.5%	18箇所	PT	11% (2箇所)		-		1		-			1
			原子炉補機冷却水ポンプ入ロライン	VT-3	全数の7.5%	19箇所	VT-3	10% (2箇所)		-	1		1	-			
F1. 21	F-A	支持構造物	原子炉補機冷却水ポンプ出ロライン	VT-3	全数の7.5%	10箇所	VT-3	10% (1箇所)		-		1		-			
			格納容器再循環ユニット入ロライン	VT-3	全数の7.5%	54箇所	VT-3	9% (5箇所)		-	1	1	1	-		1	
			格納容器再循環ユニット出ロライン	VT-3	全数の7.5%	82箇所	VT-3	8% (7箇所)		-	2	1	1	-	1	1	
			格納容器スプレイポンプ入ロライン	VT-3	全数の7.5%	12箇所	VT-3	8% (1箇所)		-				-	1		
			格納容器スプレイポンプ出ロライン	VT-3	全数の7.5%	6箇所	VT-3	16% (1箇所)		-				-	1		
			格納容器スプレイ冷却器出ロライン	VT-3	全数の7.5%	13箇所	VT-3	7.6% (1箇所)		-				-	1		
			RHR-CSS連絡ライン	VT-3	全数の7.5%	7箇所	VT-3	14% (1箇所)		-			1	-			

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表ー7(3/32)

2. 配管(2/2)

維持規格 JSME SNA1-2008 ※1			大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)											備考			
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第17回	2019年 第18回	2020年 第19回	2021年 第20回	2022年 第21回	2023年 第22回	2024年 第23回	2025年 第24回	2026年 第25回
F1. 21	F-A	恒設代替低圧注水ポンプ 出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	40箇所	VT-3	7.5% (3箇所)		-	1			1	-	1		
		可搬式代替低圧海水注入 ライン	VT-3	全数の 7.5%	2箇所	VT-3	50% (1箇所)		-					-	1		
		主蒸気大気放注ライン	VT-3	全数の 7.5%	4箇所	VT-3	25% (1箇所)		-		1			-			

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

3. 格納容器スプレイポンプ

別表ー7(4/32)

維持規格 JSME S NA1－2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10力年)													備考		
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		2025年	2026年
								第16回	第1回	第17回	第18回	第19回	第1回	第20回	第21回		第22回	
C6. 10	C－G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台 の7. 5%	2箇所/1 台×2台	PT	代表1台の 50% (1箇所/1台)		-				A 50%	-				
F1. 43	F－A	ポンプ台板脚	VT－3	代表1台 の7. 5%	2箇所/1 台×2台	VT－3	代表1台の 100% (2箇所/1台)		-					-			A 100%	

4. 恒設代替低圧注水ポンプ

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10力年)												備 考		
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第1回		2024年 第20回	2025年 第21回
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7. 5%	2箇所/1 台 × 1台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)		-				-		100%	

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

維持規格 JSME S NA1－2008 ※1										大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)									
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	備考	
F1.43	F-A	支持構造物	格納容器再循環ユニット 出口ライン	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)		-	3TCV- 2392A 2			-				3TCV-2392A	
						1箇所/ 1台×1台													
				VT-3	代表1台 の7.5%	1箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の 100% (1箇所/1台)		-			3V-CP- 024A 1	-				3V-CP-024 A,B	
				VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×1台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)		-				-	3V-RH -061 2			3V-RH-061	
			主蒸気大気放出口ライン	VT-3	代表1台 の7.5%	2箇所/ 1台×4台	VT-3	代表1台の 100% (2箇所/1台)		-				-		3PCV- 3610.3620, 3630.3640	2	3PCV- 3610.3620, 3630.3640	

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」（令和元年6月5日原規技発第1906051号）の改正版（以下、亀裂検出NRA文書改正という。）の施行及び公開会「（原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等）新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」（令和元年8月5日）の結果（2019年度中の計画変更）を踏まえ、維持規格（2012年版／2013年追補／2014年追補）を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月（新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで）

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表一7(6/32)

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(1/4)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			検査の対象箇所 ライン名		系統名	カテゴリ	項目番号	大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)														備考
								検査方法	2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回				
C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	制御用空気系統	A制御用空気ライン	0.98	0.98	VT-2		-						-			○	気圧検査				
			B制御用空気ライン	0.98	0.98	VT-2		-						-			○	気圧検査				
C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	低圧注水系統	恒設代替低圧注水ポンプ入ロライン	0	0	VT-2		-						-	○							
			恒設代替低圧注水ポンプ出ロライン	2.1	2.1	VT-2		-						○								
			低圧注水ラインとのAMライン	4.5	4.5	VT-2		-							-		○					
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	原子炉補機冷却水系統	可搬式代替低圧注水ポンプ出ロライン	1.55	1.55	VT-2		-						-	○							
			A、B原子炉補機冷却水ポンプ入ロライン	1.4	1.4	VT-2		-						-	○							
			C、D原子炉補機冷却水ポンプ入ロライン	1.4	1.4	VT-2		-						-	○							
			原子炉補機冷却水サージタンク及び出入ロライン	0.34	0.34	VT-2		-							○							
			原子炉補機冷却水サージタンク窒素供給ライン	0.34	0.34	VT-2		-								-		○				
			A、D格納容器再循環ユニット冷却ライン	1.4	1.4	VT-2		-								-	○					
			A、D格納容器再循環ユニット冷却水放出ライン	1.4	1.4	VT-2		-								-	○					
			格納容器水素ガス試料冷却ライン	1.4	1.4	VT-2		-								-		○				
			A、B原子炉補機冷却水ポンプ出ロライン	1.4	1.4	VT-2		-								-		○				
			C、D原子炉補機冷却水ポンプ出ロライン	1.4	1.4	VT-2		-								-		○				

※1:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)(の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表-7(7/32)

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(2/4)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 ※2		SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査圧力 (MPa)	検査方法	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考			
		系統名	検査の対象箇所 ライン名				2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回				
C7. 30 C7. 70	C-H	換気空調系統	Aアニュラス空気浄化ファン出口ライン	0. 0048	0. 0048	VT-2		-						-			○	気圧検査		
			Bアニュラス空気浄化ファン出口ライン	0. 0048	0. 0048	VT-2		-						-				○	気圧検査	
			中央制御室空調設備入口ライン	-0. 00392	-	※1		-					○	-						
			中央制御室空調設備出口ライン	0. 00392	-	※1		-					○	-	○	○	○			
			緊急時対策所指揮所ライン	0. 005	0. 005	VT-2		-											気圧検査	
			緊急時対策所待機所ライン	0. 005	0. 005	VT-2		-												気圧検査
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	化学体積制御系統	緊急時対策所空気浄化ライン	0. 0041	0. 0041	VT-2								-				○	気圧検査	
			体積制御タンク出口ライン	0. 98	0. 98	VT-2		-		●				-						一部気圧検査
			A充てんポンプ出口ライン	20. 0	20. 0	VT-2		-						-	○					
			B充てんポンプ出口ライン	20. 0	20. 0	VT-2		-		●				-						
			C充てんポンプ出口ライン	20. 0	20. 0	VT-2		-						-	○					
			B充てんポンプ自己冷却ライン (充てんポンプ出口側)	20. 0	20. 0	VT-2		-						-			○			
			B充てんポンプ自己冷却ライン (充てんポンプ入口側)	0. 98	0. 98	VT-2		-						-			○			
			ほう酸ポンプ及び充てんポンプ連絡ライン	0. 98	0. 98	VT-2		-						-			○			
			Aほう酸ポンプ入口ライン	1. 4	1. 4	VT-2		-		●				-						一部気圧検査
			Bほう酸ポンプ入口ライン	1. 4	1. 4	VT-2		-		●				-						一部気圧検査
			Aほう酸ポンプ出口ライン	1. 4	1. 4	VT-2		-						-						
			Bほう酸ポンプ出口ライン	1. 4	1. 4	VT-2		-						-						

※1: 技術基準第58条第2項の記載の「他の方法」により外観点検を実施
※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検知」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検知NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表ー7(8/32)

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査 (3/4)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME SNA1ー2008 ※1		検査の方法	検査圧力 (MPa)	SA時最高使用圧力 (MPa) (工歴記載値)	大飯発電所 第3号機 検査計画 (10カ年)										備 考	
		系統名	検査の対象箇所 ライン名				2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回		
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	CーH	安全注入系統	A、B高圧注入ポンプ入口ライン	0. 39	0. 39	VTー2	-					-	○					
			A高圧注入ポンプ出口ライン(1)	16. 7	16. 7	VTー2	-			●			-					
			A高圧注入ポンプ出口ライン(2)	16. 7	16. 7	VTー2	-			●			-					RCS漏えい検査時実施
			B高圧注入ポンプ出口ライン(1)	16. 7	16. 7	VTー2	-					○	-					
			B高圧注入ポンプ出口ライン(2)	16. 7	16. 7	VTー2	-						-	○				RCS漏えい検査時実施
			格納容器再循環サンプ出口ライン	0. 43	0. 43	VTー2	-							-		○		
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	CーH	余熱除去系統	蓄圧タンク及び出口ライン	4. 9	4. 9	VTー2	-					-			○		一部気圧検査	
			燃料取替用水ピット出口ライン	0	0	VTー2	-					○	-					
			A余熱除去ポンプ入口ライン	4. 5	4. 5	VTー2	-						-	○				
			B余熱除去ポンプ入口ライン	4. 5	4. 5	VTー2	-						-		○			
			A余熱除去ポンプ出口ライン	4. 5	4. 5	VTー2	-						-			○		
			B余熱除去ポンプ出口ライン	4. 5	4. 5	VTー2	-						-			○		

※1. NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)(の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表ー7(9/32)

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(4/4)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1－2008 ※1		検査の方法	検査圧力 (MPa)	SA時最高使用圧力 (MPa) (工部記載値)	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備 考
		検査の対象箇所					2017年 第16回	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	
		系統名	ライン名														
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C－H	格納容器スプレイ系統	A格納容器スプレイポンプ入ロライン	0. 39	0. 39	VT－2		-		●			-				
			B格納容器スプレイポンプ入ロライン	0. 39	0. 39	VT－2		-		●			-				
			A格納容器スプレイポンプ出ロライン(1)	2. 7	2. 7	VT－2		-					-		○		
			A格納容器スプレイポンプ出ロライン(2)	2. 7	2. 7	VT－2		-					-		○		気圧検査
			B格納容器スプレイポンプ出ロライン(1)	2. 7	2. 7	VT－2		-					-		○		
			B格納容器スプレイポンプ出ロライン(2)	2. 7	2. 7	VT－2		-					-			○	気圧検査
			A蒸気発生器蒸気出ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-				プラント起動時実施
			B蒸気発生器蒸気出ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-		○		プラント起動時実施
C7. 10 C7. 30 C7. 70	C－H	主蒸気系統	C蒸気発生器蒸気出ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-		○		プラント起動時実施
			D蒸気発生器蒸気出ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-		○		プラント起動時実施
			A蒸気発生器給水入ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-		○		プラント起動時実施
			B蒸気発生器給水入ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-		○		プラント起動時実施
C7. 30 C7. 70	C－H	主給水系統	C蒸気発生器給水入ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-		○		プラント起動時実施
			D蒸気発生器給水入ロライン	8. 8	8. 8	VT－2		-					-		○		プラント起動時実施
			格納容器水素ガス試料採取系統 入ロライン	0. 98	0. 98	VT－2		-					-			○	気圧検査
			格納容器水素ガス試料採取系統 出ロライン	0. 98	0. 98	VT－2		-					-			○	気圧検査

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他のの亀裂の検出(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

1. 原子炉容器(1/2)

別表-7(10/32)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	
B2. 111	B-B	上部胴と下部胴との周溶接継手	体積	クラス1機器供用期間中検査で管理
		下部胴とトランジションリングとの周溶接継手	体積	
		トランジションリングと下部鏡板との周溶接継手	体積	
B3. 105	B-C	上部胴と上部胴フランジとの溶接継手	体積	
B3. 10	B-D	冷却材入口管台と胴との溶接継手	体積	
		冷却材出口管台と胴との溶接継手	体積	
B3. 20	B-D	冷却材入口管台内面の丸みの部分	体積	
		冷却材出口管台内面の丸みの部分	体積	
B5. 10	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	
		冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	
B6. 10	B-G-1	ナット	VT-1	
B6. 30	B-G-1	スタッドボルト	体積	
B6. 40	B-G-1	胴フランジネジ穴のネジ部	体積	
B6. 50	B-G-1	上蓋用ワッシャ	VT-1	
B7. 10	B-G-2	T/Cハウジングのマーマンクランプ用ボルト・ナット	VT-1	

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

1. 原子炉容器 (2/2)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲			
G1. 10	G-P-1	原子炉容器内部	VT-3	全範囲の 7. 5%			
G1. 40	G-P-1	内部取付け物	VT-3	全範囲の 7. 5%			
G1. 40 G1. 50	G-P-1 G-P-2	上部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の 7. 5%			
		下部炉心支持構造物	VT-3	全範囲の 7. 5%			
B14. 10 B-O		制御棒駆動ハウジングの溶接継手 (上部)	体積又は 表面	最外周 25%			
		制御棒駆動ハウジングの溶接継手 (下部)					
B15. 10 B-P		圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%			
F1. 41 F-A		支持構造物	VT-3	全数の 25%			

別表-7(11/32)

クラス1 機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

2. 加圧器(1/2)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲		
B2. 11	B-B	上部鏡板と上部胴との周継手	体積	全長の5%	クラス1機器供用期間中検査で管理	
		下部胴と下部鏡板との周継手	体積	全長の5%		
B2. 12	B-B	上部胴の長手継手	体積	全長の10%		
		中間胴の長手継手	体積	全長の10%		
		下部胴の長手継手	体積	全長の10%		
B2. 13	B-B	上部胴と中間胴との周継手	体積	全長の5%		
		中間胴と下部胴との周継手	体積	全長の5%		
B3. 30	B-D	安全弁用管台と容器との溶接継手	体積	全数の25%		
		逃がし弁用管台と容器との溶接継手				
		スプレイ用管台と容器との溶接継手				
		サージ用管台と容器との溶接継手				
B3. 40	B-D	安全弁用管台内面の丸みの部分	体積	全数の25%		
		逃がし弁用管台内面の丸みの部分				
		スプレイ用管台内面の丸みの部分				
		サージ用管台内面の丸みの部分				

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 *維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

2. 加圧器(2/2)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-7(13/32)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考
B5. 40	B-F	安全弁用管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び表面	全数の25%	
		逃がし弁用管台とセーフエンドとの溶接継手			
		スプレイ用管台とセーフエンドとの溶接継手			
		サージ用管台とセーフエンドとの溶接継手			
B7. 20	B-G-2	マンホール取付ボルト	VT-1	全数の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理
B8. 20	B-H	支持部材の容器への取付け溶接継手(スカーツ溶接継手)	表面又は体積	全長の7.5%	
B15. 20	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい検査時100%	
F1. 41	F-A	支持構造物(スカーツ、基礎ボルト含む)	VT-3	全数の25%	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

3. 蒸気発生器(1/1)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	
B2. 40	B-B	管板と水室鏡板との溶接継手	体積	代表1基 全長の 25%	
B3. 60	B-D	冷却材入口管台の内面の丸みの部分	体積	代表1基 全長の 25%	
		冷却材出口管台の内面の丸みの部分			
B5. 70	B-F	冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手	体積及び 表面	代表1基 全長の 25%	
		冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手			
B7. 30	B-G-2	1次側マンホールボルト(入口側)	VT-1	代表1基 全長の 25%	
		1次側マンホールボルト(出口側)			
B8. 30	B-H	水室鏡とサポートパッドとの溶接継手	表面	代表1基 全長の 7.5%	
B15. 30	B-P	圧力保持範囲	VT-2	漏えい 検査時 100%	
F1. 41	F-A	支持構造物	VT-3	代表1基 の25%	

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。.)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間(は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(1/3)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	
B9. 11	B-J	1次冷却材管	体積	全数の25%	
		加圧器サージライン	体積	全数の25%	
		加圧器安全弁ライン	体積	全数の25%	
		加圧器逃がし弁ライン	体積	全数の25%	
		配管の同種金属溶接継手(呼び径100A以上:周継手)	体積	全数の25%	
		余熱除去ポンプ入ロライン	体積	全数の25%	
		SIS蓄圧注入ライン	体積	全数の25%	
		SIS低温側低圧注入ライン	体積	全数の25%	
B9. 21	B-J	加圧器逃がし弁ライン	表面	全数の25%	
		CVCS充てんライン	表面	全数の25%	
		余熱除去ポンプ入ロライン	表面	全数の25%	
		SIS低温側高圧補助注入ライン	表面	全数の25%	

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)」の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

*維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(2/3)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	
B9. 31	B-J	母管と管台との溶接継手 (呼び径100A以上)	1次冷却材管	体積	全数の25%
B9. 32	B-J	母管と管台との溶接継手 (呼び径100A未満)	1次冷却材管	表面	全数の25%
			余熱除去ポンプ入ロライン	表面	全数の25%
			SIS蓄圧注入ライン	表面	全数の25%
			SIS低温側低圧注入ライン	表面	全数の25%
B9. 40	B-J	ソケット溶接継手	SIS低温側高圧補助注入ライン	表面	全数の25%
B10. 20	B-K	高圧部分への支持部材の取付け溶接継手	余熱除去ポンプ入ロライン	表面	全数の7.5%
B15. 50	B-P	圧力保持範囲		VT-2	漏えい検査時100%

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検察NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(3/3)

維持規格 JSME SNA1-2008 ※1			大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	
F1. 10	F-A	加圧器サージライン	VT-3	全数の25%	
		加圧器逃がし弁ライン	VT-3	全数の25%	
		CVCS充てんライン	VT-3	全数の25%	
		支持構造物	VT-3	全数の25%	
		余熱除去ポンプ投入ライン	VT-3	全数の25%	
		SIS蓄圧注入ライン	VT-3	全数の25%	
		SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	全数の25%	
		SIS低温側高圧補助注入ライン	VT-3	全数の25%	
クラス1機器供用期間中検査で管理					

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解説」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解説NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

*維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

5. 1次冷却材ポンプ(1/1)

別表ー7(18／32)

維持規格 JSME S NA1ー2008 ※1				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス1機器供用期間中検査で管理	
B6. 180		主フランジボルト	体積	代表1台の 25%		
B6. 190	BーGー1	主フランジ表面	VTー1	代表1台の 25%		
B6. 200		主フランジナット・ワッシャ	VTー1	代表1台の 25%		
B12. 20	BーLー2	ケーシングの内表面	VTー3	代表1台の 100%		
B15. 60	BーP	圧力保持範囲	VTー2	漏えい 検査時 100%		
F1. 41	FーA	支持構造物	VTー3	代表1台の 25%		

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/201
4年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

6. 弁(1/2)

別表-7(19/32)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	
B7. 70	B-G-2	加圧器安全弁ライン	VT-1	代表1台の25%	3V-RG-055 3V-RG-056 3V-RG-057
		加圧器逃がし弁ライン	VT-1	代表1台の25%	3V-RG-054A・B
			VT-1	代表1台の25%	
		CVCS充てんライン	VT-1	代表1台の25%	3PCV-452A・B
		余熱除去ポンプ入口ライン	VT-1	代表1台の25%	3V-CS-164 3V-CS-166
			VT-1	代表1台の25%	3PCV-420.3PCV-430 3V-RH-002A・B
			VT-1	代表1台の25%	3V-SI-134A・B・C・D 3V-SI-136A・B・C・D
B12. 50	B-M-2	SIS蓄圧注入ライン	VT-1	代表1台の25%	3V-RH-050A・B・C・D
		SIS低温側低圧注入ライン	VT-1	代表1台の25%	
		加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台の100%	
		余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	代表1台の100%	
		SIS蓄圧注入ライン	VT-3	代表1台の100%	
B15. 70	B-P	SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	代表1台の100%	3V-SI-134A・B・C・D 3V-SI-136A・B・C・D
		圧力保持範囲	VT-3	代表1台の100%	
			VT-2	漏えい検査時100%	3V-RH-050A・B・C・D

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会社」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器供用期間中検査範囲)

6. 弁(2/2)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲			
F1. 41	F-A	加圧器安全弁ライン	VT-3	代表1台 の25%	クラス1機器供用期間中検査で管理	3V-RC-055	
			VT-3	代表1台 の25%		3V-RC-056	
		加圧器逃がし弁ライン	VT-3	代表1台 の25%		3V-RC-057	
			VT-3	代表1台 の25%		3V-RC-054A・B	
		余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	代表1台 の25%		3PCV-452A・B	
						3PCV-420,3PCV-430 3V-RH-002A・B	

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開
 会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス1機器Ni基金使用部位特別検査範囲)

別表一7(21/32)

NRA 文書 (原規技発第 1408063 号) ※1※2					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
機器名	検査の対象箇所		検査方法	検査範囲	検査頻度		
原子炉容器	原子炉容器底部の表面		—	—	100%/5年		
	計装用貫通部溶接継手		BMV	58箇所			

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。

・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日)：2020年4月1日(第18保全サイクル)～2021年7月20日

※2：NRA文書「実用発電用原子炉及びその付属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行を踏まえ、令和3年亀裂解釈NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。

・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第2107219号(改正 令和3年7月21日)：2021年7月21日(第19保全サイクル)～

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2管(原子炉格納容器内)特別検査範囲)

別表ー7(22／32)

NRA文書(原規技発第1408063号) ※1※2				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2管(原子炉格納容器内) 特別検査で管理	
—	—	配管	—	—		
		充てんライン(3B)	体積	25%		
		再生熱交換器連絡管	—	—		
		充てんライン連絡管(3B)	体積	25%		

※1:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、令和元年亀裂解釈NRA文書改正と
いう。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する
事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、令和元年亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。
・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日):2020年4月1日(第18保全サイクル)～2021年7月20日

※2:NRA文書「実用発電用原子炉及びその付属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和3年7月21日原規技発第2107219号)の改正版(以下、令和3年亀裂解釈NRA文書改正と
いう。)の施行を踏まえ、令和3年亀裂解釈NRA文書改正を2021年7月21日より適用する。
・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第2107219号(改正 令和3年7月21日):2021年7月21日(第19保全サイクル)～

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

1. 余熱除去冷却器

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014						大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理			
C1. 10	C-A	管側胴と管側フランジとの周溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%				
C1. 20	C-A	管側鏡板と管側胴との溶接継手	体積	代表1基 全長の 7.5%				
C2. 21	C-B	管側入口 管台と管側胴との溶接継手	体積及び 表面	代表1基 全数の 7.5%				
		管側出口 管台と管側胴との溶接継手						
C4. 10	C-D	全ねじボルト	体積	代表1基 全数の 7.5%				

別表-7(23/32)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

2. 配管(1/3)

維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	
C3. 20	C-C	高圧注入ポンプ出口ライン	表面	全数の7.5%	
		高圧注入ポンプ出口連絡ライン	表面	全数の7.5%	
		支持部材取付け溶接継手	表面	全数の7.5%	
			表面	全数の7.5%	
			表面	全数の7.5%	
			表面	全数の7.5%	
C5. 11	C-F	SIS低温側低圧注入ライン	表面	全数の7.5%	クラス2機器供用期間中検査で管理
		格納容器再循環サンプ出口ライン	表面	全数の7.5%	
		充てんポンプ出口ライン	体積及び表面	全数の7.5%	
		余熱除去ポンプ入口ライン	体積又は表面	全数の7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン	体積又は表面	全数の7.5%	
		余熱除去ポンプ冷却器出口ライン	体積及び表面	全数の7.5%	
		SIS低温側低圧注入ライン	体積及び表面	全数の7.5%	
		高圧注入ポンプ出口ライン	体積及び表面	全数の7.5%	

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

2. 配管(2/3)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-7(25/32)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理			備考
C5. 11	C-F	格納容器再循環サンプ 出口ライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%				
		燃料取替用水ピット出口ライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%				
C5. 12	C-F	呼び径100Aを 超える管で公 称厚さが 9.5mmを超える 溶接継手	体積又は 表面	全数の 7. 5%				
		余熱除去ポンプ入口ライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%				
C5. 21	C-F	燃料取替用水ピット出口ライン	体積又は 表面	全数の 7. 5%				
		高圧注入ポンプ出口ライン	表面	全数の 7. 5%				
C5. 30	C-F	呼び径50A以 上100A以下の 管で公称厚さ が5mmを超え る溶接継手	表面	全数の 7. 5%				
		高圧注入ポンプ出口連絡ライン	表面	全数の 7. 5%				
C5. 41	C-F	SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7. 5%				
		SIS低温側高圧補助 注入ライン	表面	全数の 7. 5%				
C5. 30	C-F	ソケット溶接継 手	表面	全数の 7. 5%				
		呼び径50Aを 超える母管と 管台及び母管 と枝管との溶 接継手	表面	全数の 7. 5%				

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

2. 配管(3/3)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014		大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-7(26/32)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	備考
F1. 21	F-A	充てんポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		余熱除去ポンプ入口ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		余熱除去ポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		余熱除去冷却器出入ロライン	VT-3	全数の 7.5%	
		余熱除去冷却器出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		SIS低温側低圧注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		高圧注入ポンプ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		高圧注入ポンプ出口連絡ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		SIS低温側高圧補助注入ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		格納容器再循環サブ出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	
		燃料取替用水ピット出口ライン	VT-3	全数の 7.5%	

クラス2機器供用期間中検査で管理

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

3. 充てんポンプ

別表-7(27/32)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理	
C3. 30	C-C	ポンプ支持部材取付け溶接継手	表面	全数の7. 5%		
C4. 30	C-D	ケーシングボルト	体積	代表1台の7. 5%		
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表1台の7. 5%		
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台の7. 5%		

4. 充てんポンプ(往復動式)

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲		
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	全数の 7. 5%	クラス2機器供用期間中検査で管理	

5. 余熱除去ポンプ

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014					大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		備 考
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理		
C6. 10	C-G	ケーシングの溶接継手	表面	代表 1台 の 7. 5%			
F1. 43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表 1台 の 7. 5%			

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(クラス2機器供用期間中検査範囲)

6. クラス2弁

維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)		別表-7(28/32)	
項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	クラス2機器供用期間中検査で管理	備考	
F1. 43	F-A	余熱除去冷却器出入ロライン	VT-3	代表1台の7.5%		3HCV-603 3HCV-613	
		支持構造物 余熱除去冷却器出ロライン	VT-3	代表1台の7.5%		3V-RH-043A・B	
		格納容器再循環サブ出ロライン	VT-3	代表1台の7.5%		3V-SI-093A・B	

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(原子炉格納容器供用期間中検査範囲)

1. 原子炉格納容器

別表-7(29/32)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)													備考					
			項目番号	カテゴリ	検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数	検査方法	検査範囲	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
											第16回	第一回	第17回	第18回			第19回	第一回	第20回	第21回	第22回
E8. 10	E-G	圧力保持 用ボルト 締付け部	機器搬入口 (PEN #540)	VT-4	25%	1箇所	VT-4	25%		—						—	○				

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

1.原子炉補機冷却水冷却器

別表ー7(30/32)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1				大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)											備 考		
項目 番号	カテ ゴリ	検査の対象箇所	検査 方法	検査範囲	設備数	検査 方法	検査範囲	2017年 第16回	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	
C1.10	C-A	胴側胴と胴側フランジ との周継手	体積	代表1基の 溶接継手 長さの7.5%	2箇所／1基 ×1基 (A)	UT	代表1基の 7.5% (2箇所)						-			A 7.5%	
C1.10	C-A	胴側胴の周継手	体積	代表1基の 溶接継手 長さの7.5%	2箇所／1基 ×1基 (A)	UT	代表1基の 7.5% (2箇所)						-			A 7.5%	
C2.21	C-B	胴側入口管台と胴側胴 との溶接継手	体積及び 表面	代表1基の 管台数の 7.5%	1箇所／1基 ×1基 (A)	UT及び PT	代表1基の 50% (1箇所)						-			A 入口側	
		胴側出口管台と胴側胴 との溶接継手			1箇所／1基 ×1基 (A)								-			A 入口側	
C2.22	C-B	胴側入口管台内面の丸 みの部分 胴側出口管台内面の丸 みの部分	体積	代表1基の 管台数の 7.5%	1箇所／1基 ×1基 (A) 1箇所／1基 ×1基 (A)	UT	代表1基の 50% (1箇所)						-			A 入口側	
C3.10	C-C	胴と当板との溶接継手	表面	代表1基の 溶接継手数の 7.5%	3箇所／1基 ×1基 (A)	PT	代表1基の 100% (3箇所)						-			A 100%	
F1.43	F-A	支持脚	VT-3	代表1基の 7.5%	3箇所／1基 ×1基 (A)	VT-3	代表1基の 100% (3箇所)						-			A 100%	

2.原子炉補機冷却水ポンプ

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1				大飯発電所 第3号機 検査計画(10ヵ年)												備 考		
項目 番号	カテ ゴリ	検査の対象箇所	検査 方法	検査範囲	設備数	検査 方法	検査範囲	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		2025年	2026年
								第16回	第一回	第17回	第18回	第19回	第一回	第20回	第21回		第22回	
F1.43	F-A	ポンプ台板脚	VT-3	代表1台 の7.5%	4箇所/1台 ×2台 (A、B)	VT-3	代表1台 の100% (4箇所)				A 100%			-				

※1：NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第 1906051 号)の改正版(以下、亀裂解釈 NRA 文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年6月5日)の結果(2019 年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012 年版/2013 年追補/2014 年追補)を 2020 年 4 月 1 日より適用する。
なお、本サイクル内の過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格 2008 年版 2013 年 7 月～2020 年 3 月(新規制基準施行による維持規格 2008 年版の即時適用～第 17 保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

3.重大事故等クラス2機器漏えい検査

別表ー7(31/32)

維持規格 JSME S NA1-2008 ※1			大飯発電所 第3号機 検査計画(10ヵ年)												検査 方法	検査圧力 (MPa)	SA時最高使用 圧力 (MPa) (工認記載値)	備考				
項目 番号	カテ ゴリ	検査の対象箇所		2017年 第16回	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回									
		系統名	ライン名																			
C7.10 C7.30 C7.50 C7.70	C-H	原子炉補機 冷却海水系統	A 海水ポンプライン									-			○							
			B 海水ポンプライン										-			○						
			C 海水ポンプライン											-			○					
			A 海水ヘッダ出口ライン											-			○					
C7.30 C7.50 C7.70	C-H	補助給水系統	A、B 電動補助給水ポンプ入 ロライン										-			○						
			タービン動機補助給水ポンプ入 ロライン											-			○					
			A 電動補助給水ポンプ出口ラ イン												-			○				
			B 電動補助給水ポンプ出口ラ イン													-			○			
C7.10	C-H	非常用ディー ゼル 発電 機 系統	タービン動機補助給水ポンプ出 ロライン													-		○				
			Aー非常用ディーゼル発電機 起動空気ライン														-			○		
			Bー非常用ディーゼル発電 機起動空気ライン															-			○	
																			-			○

※1：NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解明」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解明NRA 文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、本サイクル内の過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格 2008 年版 2013 年 7 月～2020 年 3 月(新規制基準施行による維持規格 2008 年版の即時適用～第 17 保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. プレストレストコンクリート格納容器

別表ー7(32/32)

大飯発電所 第3号機 検査計画(10ヵ年)														備考
検査の対象箇所	検査方法	検査範囲	頻度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	
				第16回	第一回	第17回	第18回		第19回	第一回	第20回	第21回	第22回	
コンクリート部	目視検査	PCCV表面選定部位 検査テンドン定着部周辺	PCCV-ISIの 頻度による	●※	－		●			－		○		
ライナプレート部	目視検査	ライナプレート表面選定部位	PCCV-ISIの 頻度による	●※	－		●			－		○		
緊張材定着部	目視検査	検査テンドンの緊張材定着部表面	PCCV-ISIの 頻度による	●※	－		●			－		○		
テンドン	緊張力確認検査	フープテンドン 4本 逆Uテンドン 3本	PCCV-ISIの 頻度による	●※	－		●			－		○		
防錆材	防錆材検査	検査テンドンの端部から採取	PCCV-ISIの 頻度による	●※	－		●			－		○		

※平成27年度実施のプレストレストコンクリート格納容器供用期間中検査自主検査の記録確認

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

重大事故等クラス3機器漏えい検査

別表-8(1/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 準拠 ※2 検査の対象箇所 設備名	SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査方法 ※1	大阪発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
					2017年 第16回	2018年 第一回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第一回	2023年 第一回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	
C7. 10 C7. 30 C7. 50	C-H	電源車内燃機関、冷却水ポンプ (電源車)	-	VT-2		-				-		○			
		電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)内燃機関、冷却水ポンプ (電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用))	-	VT-2		-				-		○			
		電源車(緊急時対策所用)内燃機関、冷却水ポンプ (電源車(緊急時対策所用)(3、4号機共用))	-	VT-2		-				-				○	
		燃料タンク (電源車)	大気圧	VT-2		-				-		○			
		燃料タンク (電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用))	大気圧	VT-2		-				-			○		
		燃料タンク (電源車(緊急時対策所用)(3、4号機共用))	大気圧	VT-2		-				-				○	

※1:技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)

※2:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。.)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

*維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1－2008 準拠 ※2		SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査方法 ※1	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
		検査の対象箇所	設備名			2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C－H	可搬式空気圧縮機(代替制御用空気供給用)		0.90以上	VT－2		－						－	○		
		可搬式空気圧縮機用空気だめ		1.05	VT－2		－						－	○		
		増圧装置空気だめ		1.0	VT－2		－						－	○		
		窒素ボンベ(代替制御用空気供給用)		14.7	VT－2		－						－	○		
		窒素ボンベ(代替制御用空気供給用)～ホース先端		0.98 17.16	VT－2		－						－	○		
		代替制御用空気ライン窒素供給用ホース 20m、16m、10mホース		0.98	VT－2		－						－	○		
		窒素ラインマニホールド連結用0.68mホース		17.16	VT－2		－						－	○		
		可搬式空気圧縮機ラインマニホールド接続用2mホース		0.98	VT－2		－						－	○		
		可搬式空気圧縮機ラインマニホールド接続用1.5mホース		0.98	VT－2		－						－	○		
		可搬式空気圧縮機ラインマニホールド接続用5mホース		0.98	VT－2		－						－	○		
		代替制御用空気供給ライン安全弁(3V－1A－765A、B)		吹出圧力 0.98	VT－2		－						－	○		

※1: 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)
※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日厚相技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2014年追補/2013年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

重大事故等クラス3機器漏えい検査

別表-8(3/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 集視 ※2		検査方法 ※1	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)										備考
		検査の対象箇所	設備名		2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	
C7. 30	C-H	可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置		VT-2		-					-		O		
		可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置接続用フレキシブルホース		VT-2		-					-		O		
		可搬型格納容器水素ガス濃度計入口側接続用フレキシブルホース		VT-2		-					-		O		
		可搬型格納容器水素ガス濃度計出口側接続用フレキシブルホース		VT-2		-					-		O		
		可搬式代替低圧注水ポンプ屋内送水用10mホース(2本+予備1本)		VT-2		-					-		O		
C7. 10 C7. 30 C7. 50	C-H	緊急時対策所可搬型空気浄化ファン(3・4号機共用)		VT-2		-					-	O			
		緊急時対策所可搬型空気浄化フィルタユニット(3・4号機共用)		VT-2		-					-	O			
		緊急時対策所空気浄化ライン給気用フレキシブルダクト(指揮所)		VT-2		-					-	O			
		緊急時対策所空気浄化ライン給気用フレキシブルダクト(待機場所)		VT-2		-					-	O			
		格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ		VT-2		-					-				
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク加圧用)		VT-2		-					-	O		O	
		B高圧注入ポンプ及び電動機冷却海水放出用ホース		VT-2		-					-	O			
		窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク加圧用)～ホース先端		VT-2		-					-	O			
		窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク加圧用)窒素供給用フレキシブルホース		VT-2		-					-	O			
		格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ吸水用フレキシブルホース		VT-2		-					-	O			
		格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ送水用フレキシブルホース		VT-2		-					-	O			
		格納容器水素ガス試料冷却器冷却水屋外排水用フレキシブルホース		VT-2		-					-		O		
		原子炉補機冷却水サージタンク非常用窒素供給ライン逃がし弁		VT-2		-					-	O			
		原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力		VT-2		-					-	O			

※1:技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)

※2:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の監視」(令和元年6月5日厚労省発第1906051号)の改正版(以下、亀裂監視NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

重大事故等クラス3機器漏えい検査

別表-8(4/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 準拠 ※2 検査の対象箇所 設備名	S.A時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査方法 ※1	大阪発電所 第3号機 検査計画(10力年)										備考
					2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回	
C7. 30 C7. 50	C-H	送水車(3台)	1. 6	VT-2		-					-		○		
		大容量ポンプ(放水砲用)(3・4号機共用)(3台)	1. 2	VT-2		-					-	○			
		送水車吸水用ホース(28本)	0. 4	VT-2		-					-		○		
		送水車送水用ホース(149本)	1. 6	VT-2		-					-		○		
		大容量ポンプ入ロライン放水砲用ホース(3. 4号機共用)(5本)	0. 25	VT-2		-					-	○			
		大容量ポンプ出ロライン放水砲用ホース(3. 4号機共用)(29本)	1. 2	VT-2		-					-	○			
C7. 10 C7. 50	C-H	放水砲(3. 4号機共用)(3台)	1. 2	VT-2		-					-	○			
		送水車燃料タンク(3基)	大気圧	VT-2		-					-		○		
		大容量ポンプ燃料タンク(3・4号機共用)(6基)	大気圧	VT-2		-					-	○			
		大容量ポンプ(放水砲用)燃料タンク(3・4号機共用)(6基)	大気圧	VT-2		-					-	○			
		軽油ドラム缶(3・4号機共用)(106個)	大気圧	VT-2		-					-		○		

※1: 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)
 ※2: NRA文書[実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈](令和元年6月5日原規技発第1908051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

重大事故等クラス3機器漏えい検査

別表-8(5/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008準拠 ※1 検査の対象箇所 設備名	SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査方法 ※	大阪発電所 第3号機 検査計画 (10力年)										備考		
					2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回			
C7. 10 C7. 30 C7. 50	C-H	可搬式代替低圧注水ポンプ (3台)	1. 55	VT-2		-						-		○			
		仮設組立式水槽 (3台)	大気圧	VT-2		-							-		○		
		可搬式代替低圧注水ポンプ吸水用ホース(3本)	大気圧	VT-2		-							-		○		
		可搬式代替低圧注水ポンプ～可搬式代替低圧注水ポンプ出口接続口 (3台)	1. 55	VT-2		-							-		○		
		可搬式代替低圧注水ポンプ送水用ホース(7本)	1. 55	VT-2		-							-		○		
		タンクローリー (3・4号機 共用) (3台)	0. 24	VT-2		-							-			○	
		タンクローリー給油ライン接続用ホース(燃料油貯蔵タンク用) (3・4号機 共用) (3本)	0. 39	VT-2		-							-			○	
		タンクローリー給油ライン接続用ホース (重油タンク用及び燃料油貯蔵タンク用) (3・4号機 共用) (6本)	0. 39	VT-2		-							-			○	
		タンクローリー給油ライン接続用ホース (空冷式非常用発電装置用) (3・4号機 共用) (5本)	0. 39	VT-2		-							-			○	
		タンクローリー給油ライン接続用ホース (3・4号機 共用) (3本)	1. 0	VT-2		-							-			○	
C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70	C-H	大容量ポンプ (3・4号機 共用) (3台)	1. 2	VT-2		-						-		○			
		大容量ポンプ入ロライン送水用ホース (3・4号機 共用) (9本)	0. 25	VT-2		-						-		○			
		大容量ポンプ出ロライン送水用ホース (3・4号機 共用) (18本)	1. 2	VT-2		-						-		○			
		大容量ポンプ出ロライン送水用送水管 (3台)	1. 2	VT-2		-						-		○			

※1: 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成索性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて差浜、高浜との統一が必要)
 ※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

重大事故等クラス3機器漏えい検査

別表ー8(6/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1ー2008 準拠 ※2		検査の対象箇所 設備名	SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値)	検査方法 ※1	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)												備考
		検査の対					2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第1回	2023年 第1回	2024年 第20回	2025年 第21回	2026年 第22回			
		象箇所	設備名																
C7. 30	CーH			大飯3号機スプレイヘッダーA	1. 6	VTー2		ー						ー			○		
				大飯3号機スプレイヘッダーB	1. 6	VTー2		ー						ー			○		
				大飯3号機スプレイヘッダーC	1. 6	VTー2		ー						ー			○		
				大飯3号機スプレイヘッダーD	1. 6	VTー2		ー						ー			○		

※1：技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要があり(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて差込、高圧との統一が必要)

※2：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手
の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

重大事故等クラス3機器漏えい検査

別表-8(7/7)

項目番号	カテゴリ	維持規格 JSME S NA1-2008 準拠 ※2		検査方法 ※1	大飯発電所 第3号機 検査計画(10カ年)								備考				
		検査の対象箇所			2017年 第16回	2018年 第1回	2019年 第17回	2020年 第18回	2021年 第19回	2022年 第19回	2023年 第1回	2024年 第20回		2025年 第21回	2026年 第22回		
		設備名	設置名														
C7. 10 C7. 30	C-H	空気供給装置(3・4号機共用) (空気ポンプ:600本予備1本)		14. 7	VT-2	-											
		空気供給装置～マニホールド端(ポンベ側)(3・4号機共用) (150台+予備1台)		14. 7	VT-2	-											
		空気供給ライン高圧用ホース(3・4号機共用) (150本+予備1本)		14. 7	VT-2	-											
		マニホールド端(高圧ホース側)～マニホールド端(低圧ホース側) (3・4号機共用) (24台+予備1台)		14. 7	VT-2	-											
		マニホールド(5口、4口、2口)(3・4号機共用) (11台+予備3台)		0. 78	VT-2	-											
		空気供給装置ライン低圧用ホース(3・4号機共用) (75本+予備5本)		0. 78	VT-2	-											
		流量調整ユニット(3・4号機共用) (4台+予備1台)		0. 78	VT-2	-											
		空気供給装置(3・4号機共用) (空気ポンプ:720本予備80本)		19. 6	VT-2												
		マニホールド(容器弁～集合管～充填口金)(3・4号機共用) (18台+予備2台)		19. 6	VT-2												
		マニホールド(充填口金～カードル受入れユニット入口弁～空気供給母管(減圧弁1次側)接続口)(3・4号機共用) (18台+予備2台)		19. 6	VT-2												
マニホールド(空気供給母管(減圧弁1次側))(3・4号機共用) (1台+予備1台)		19. 6	VT-2														
マニホールド(減圧弁2次側配管)(3・4号機共用) (1台+予備1台)		0. 98	VT-2														
空気供給装置ライン低圧用ホース(3・4号機共用) (1台+予備1台)		1. 0	VT-2														

※1:技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)

※2: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検察」(令和元年6月5日原相技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検察NRA文書改正という。)の施行及び公開会「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第17保全サイクルまで)

クラス1配管特別検査4年計画

別表-9(1/1)

維持規格 JSME S NA1－2012／2013／2014			大飯発電所 第3号機 検査計画(4カ年)					備 考			
項目番号	カテゴリ	検査対象箇所	検査方法	検査範囲	設備数※	検査方法	検査範囲				
									2022年 第19回	2023年 －	2024年 第20回
－	－	配管の耐圧部分の溶接継手	－	－	－	－	－	－	－	－	
			加圧器サージライン	体積	100%	1箇所	UT	100% (1箇所) 毎定検	○	－	○
			加圧器スプレイライン	体積	100%	2箇所	UT	100% (1箇所) 毎定検	○	－	○
			余熱除去ポンプ吸入ライン	体積	100%	6箇所	UT	100% (6箇所) 毎定検	○	－	○
		SIS蓄圧注入ライン	体積	100%	5箇所	UT	100% (5箇所) 毎定検	○	－	○	○

※試験カテゴリB-J、項目番号B9.11のうち、「運転温度200℃以上」、「応力改善の実施の有無」、「全層TIG溶接の適用の有無」、「過大な溶接入熱の可能性の有無」及び「形状による影響」より抽出される箇所